

之ヲ復舊スベシ若シ之ヲ爲サザルトキハ縣ニ於テ之ヲ執行シ其ノ費用及之ガ爲ニ生ズル損害ハ請負人ヲシテ之ヲ負擔セシム但天災其ノ他不可抗力ニ因ル場合ト認メタルトキハ其ノ義務ヲ免除スルコトアルベシ

第三十六條 契約保證金及第十六條ノ擔保金ハ第三十四條ノ竣成検査終了後之ヲ還付ス但シ場合ニ依リ擔保義務修了迄其ノ全額又ハ一部ヲ保留スルノ契約ヲナスコトアルベシ

第三十七條 工事ノ竣成物件ノ納付期日ヲ經過シ又ハ第二十六條ニ依リ契約ヲ解除シタルガ爲メニ縣ニ生ジタル損害ハ請負人ヲシテ之ヲ賠償セシムベシ

第三十八條 第二十二條第三十四條第三十五條ニヨリ請負人ニ於テ負擔スベキ費用第三十條ノ過怠金第三十七條ノ損害賠償金ハ仕拂フベキ請負金ノ内ヨリ控除シ尙ホ足ラザルトキハ之ヲ追納セシムベシ

第三十九條 工事ニ要スル物件及勞力ヲ供給ノ場合ニ在リテハ前各條ヲ準用ス

(第一號書式)

資格證明書

住所

何

何年何月何日生 某

一大正何年何月何日ヨリ前滿二年以上土木(建築)請負業若ハ何々販賣業ニ従事ス

一同 何年何月何日ヨリ前滿二年以上直接國稅年額金五圓以上ヲ納ム

一破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ

一大正何年何月何日破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ何年何月何日復權ヲ得大正何年何月何日身代限りノ處分ヲ受ケ何年何月何日債務ノ辨償ヲ終タリ

一懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルコトナシ

(處刑セラレタルモノハ處刑ノ年月日及其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトキニ至リシ年月日記載ノコト)

右之通相違無之候也

年 月 日

右

何

某印

茨城縣知事宛

前書之通相違無之候也

年 月 日

市町村長

何

某印

(第二號書式)

資格證明書

所在地

(商號)何々商會、會社、組合

右代表者

何

某

一、設立ノ年月日

一、資本ノ總格

一、拂込金額

一、設立以降引續別紙定款ノ營業ヲナシツ、アリ(定款添付)

一、會社(組合)員住所氏名

右ノ通り相違無之別紙登記謄本相添證明候也

年 月 日

右何々商會、會社、組合

代表者

何

某印

茨城縣知事宛

(第三號書式)

入札書

第何號(工事ノ番
號ヲ記ス)

一金何程(圓止)

何線又ハ何川名某所(地名)何々工事(工事用品)請負入札金此保證金何程

右大正九年十一月内務省令第三十六號及大正九年十一月縣告示第四五一號

(道路ニアラサルトキハ内務省令第三十
六號ヲ除キ大正九年十一月縣告示第
三十

ト記載
ヲ要ス)ヲ遵守シ實地並設計書仕樣書(圖面)及契約書按ヲ熟覽之上入札候也

住所
何

某印

茨城縣知事宛

(第四號書式)

納付書

一金何程

内譯

金何程

但第何號(工事ノ番
號ヲ記ス)何線又ハ何川名某所(地名)何々工事

(工事用品)請負入札保證金

金何程

但第何號……

右納付候也

年月日

住所
何

某印

茨城縣知事宛

(第五號書式)

相當

印紙

契約書

茨城縣知事ヨリ何某ニ工事ヲ請負ハシムルニ付(物件ヲ供給セシムルニ付)契約スルコト左ノ如シ
請負ハシムル工事(供給セシムル物件)

某所(地名)

一、某道修繕工事

一、某橋修繕工事

一、某廳舎幾棟修繕工事

一、何々

右請負金

一金何程

右契約保證金

一金何程 但別紙納付書之通

契約ニ關スル條件

- 一、工事ハ入札ノ際指示セラレタル仕様設計書及圖面ノ通り
 - 一、工事用品ノ性質分量構造寸法等ハ總テ入札ノ際指示セラレタル設計書之通り
 - 一、納付場所 某所
 - 一、納付期限 大正何年何月何日ヨリ何年何月何日迄
 - 一、施行期限 大正何年何月何日ヨリ大正何年何月何日迄
 - 一、擔保期限ハ工事竣成検査ノ日ヨリ何日間
 - 一、請負(物件供給)ニ就テハ大正九年十一月内務省令第三十六號道路工事執行令、大正九年十一月縣告示第四五〇號道路以外ノ土木工事執行ノ規定同年同月縣告示第四五一號同施行細則(道路(橋梁ヲ含ム)ノトキハ縣告示務省令第三十六號)大正二年二月縣告示第七十八號土木工事及築品仕様書ヲ遵守スルモノトス
- 右各項ヲ雙方ニ於テ承認シタルコトヲ證スル爲メ契約書ニ通ヲ作り記名捺印シ各一通ヲ所持スルモノ也

(第六號書式)

一金何程

納付書

住 所 茨城縣知事印
 住 所 請負人 何 某印
 住 所 保證人 何 某印

但第何號(工事ノ番號ヲ記ス)何線又ハ河川名某所(地名)何々工事
 (工事用品)請負金何圓ニ對スル契約保證金
 右納付候也

茨城縣知事宛

住 所 請負人 何 某印

(第七號書式)

印紙

承諾書

- 一、何々國債證書額面何程券何番何枚
 - 右拙者請負ニ係ル工事(工事用品)ノ保證物トシテ提供候ニ就テハ契約ニ依リ縣ノ所得トナルベキ事實ヲ生シタル時ハ賣却相成候トモ毫モ異議無之候依テ承諾書差出置候也
- 年 月 日 住 所 請負人 何 某印

茨城縣知事宛

(第八號書式)

印紙

委任狀

拙者儀都合ニ依リ茨城縣知事
ヲ以テ部理代人ト定メ左ノ權限ノ事ヲ代理セシム
一、何々國債證書額面何程券何番何枚ヲ賣却シ該代金ヲ領收スルノ件

年 月 日

住 所

請負人 何

某 印

(第九號書式)

資格證明書

住 所

何

何年何月何日生 某

一、肩書ノ住所ニ常ニ居住ス

一、直接國稅年額金五圓以上ヲ納ム

一、破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ

一、何年何月何日破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ何年何月何日復權ヲ得何年何月何日身代限リノ處分ヲ

受ケ何年何月何日債務ノ辨償ヲ終ヘタリ

右ノ通相違無之候也

年 月 日

右

某 印

茨城縣知事宛

前書ノ通相違無之候也

年 月 日

市町村長 何

某 印

(第十號書式)

着 手 届

(所轄工區事務所ヲ經由スルヲ要ス)

第何號(工事ノ番號及場所ヲ記ス)

一、何々工事(工用築品)

大正何年何月何日契約締結ノ分

右工事(工用築品)大正何年何月何日着手(送納着手)候條此段及御届候也

年 月 日

住 所

請負人 何

某 印

茨城縣知事宛

(第十一號書式)

(四行以上ノ餘白ヲ存シ認ムヘシ) 所轄工區事務所ヲ經由スルヲ要ス

請 求 書 (領收書)

請負高金何程

一金何程

但何線又ハ河川名某所(地名)何々工事(工用用品)

請負金(内金又ハ)

外金何程

金 何 程

受 取 未 済

右請求(領收)候也

年 月 日

住 所

請負人 何

某 印

茨城縣知事宛

前書ノ金額何程(出來形歩通り)(物品納付済)ニ對シ適當ト査定候也
工區主幹官氏

名印

(第十二號書式)

竣工届 (所轄工區事務所ヲ經由スルヲ要ス)

第何號

某所(地名)

一、何々工事

大正何年何月何日契約締結ノ分
右本日竣工候條此段及御届候也

年 月 日

住所

請負人 何

某印

茨城縣知事宛

(第十三號書式)

(四行以上ノ餘白ヲ存シテ認ムヘシ) 所轄工區事務所ヲ經由スルヲ要ス
(但シ領收證ハ餘白ヲ存スルニ及ハス) 請求書 (領收證)

一金 何程

但何線又ハ河川名某所(地名)何々工事(工事用品)請負
金

右請求(領收)候也

年 月 日

住所

請負人 何

某印

茨城縣知事宛

(第十四號書式)

物品納付済届 (所轄工區事務所ヲ經由スルヲ要ス)

第何號(工事ノ番號ヲ記ス)

何線又ハ河川名某所(地名)納

一、工事用品

大正何年何月何日契約締結ノ分
右本日納付済ニ候條此段及御届候也

年 月 日

住所

請負人 何

某印

茨城縣知事宛

附 則

本令ハ大正九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十九年四月茨城縣告示第百七號工區執行規定施行細則ハ本細則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

四、土木費所屬區域及補助規程

(大正二年一月十六日 縣令第十一號)

改正 大正五年三月縣令第十號、同六年十月同第二十九號、同十年十二月同第三十二號、同九年一月同第五號、同十年十二月同第六十二號、同十年十一月同第五十九號

第一條 左ニ掲グルモノ、工事費ハ縣費ヲ以テ支辨ス

一 國道、縣道

二 利根川、赤堀川、權現堂川、逆川、中利根川、下利根川、思川、渡良瀬川、横利根川、北利根川、常陸川、前川、鰐川、鯉川、鬼怒川、小貝川、新利根川、那珂川、久慈川、田川、八間川、櫻川、(眞壁郡樺穂村大字櫻井、新橋下流) 里川(久慈郡佐都村大字春友、春友橋下流) 勤行川、大北川、(多賀郡南中郷村大字上石岡、宇關平發電所放水口吐口下流) 花園川(多賀郡華川村大字小豆畑、小豆畑橋下流) 戀瀬川(新治郡志筑村大字上志筑、高倉、五輪堂橋下流) 澗沼川(西茨城郡北川根村大字仁古田、仁古田橋下流) 押川、小川(那珂郡檜澤村大字上檜澤、臺ノ澤橋下流) 小野川(稻敷郡奥野村大字正直、正直橋下流) 霞ヶ浦、北浦、浪逆浦、澗沼

三 礎濱港、那珂港、平潟港、磯崎港、大津港、會瀬港

前項第二號第三號ノ區域ニ關シ指定ノ必要アルトキハ知事之ヲ告示ス

第二條 郡市町村、市町村組合、水利組合ニ於テ左ニ掲グル工事費ニシテ維持修繕ニ屬スルモノヲ除クノ外郡ハ其工費總額五千圓、市ハ千圓、町村ハ三百圓、市町村組合水利組合ニアリテハ其ノ組合區域ニ屬スル反別ニ對シ一町歩ニ付金五圓迄ヲ各其負擔トシ(負擔額三百圓未滿ハ三百圓ニ切上グ) 其ノ超過額ニ對シ左記歩合ニ依リ縣費ヲ以テ補助ス(大正十一年一月三十日縣令第八號改正)

一 道路橋梁 百分ノ四十以内 郡以外ノ負擔ニ關スル道路ハ樞要且幅員九尺以上ノモノ

櫻川(縣費所屬ノ上流)

里川(久慈郡佐都村大字春友縣費所屬ノ上流)

大北川(縣費所屬ノ上流)

澗沼川(西茨城郡北川根村大字仁古田縣費所屬ノ上流)

戀瀬川(新治郡志筑村大字上志筑縣費所屬ノ上流)

小川(縣費所屬ノ上流)

花園川(縣費所屬ノ上流)

小野川(縣費所屬ノ上流)

山田川 大谷川 淺川 玉川

園部川 大溝川 飯沼川 巴川 藤井川 仁連川 牛久沼

前條及本條ノ湖沼河川竝ニ十町歩以上ノ耕地ノ灌溉

排水ノ爲メニ布設ノ樋管堰埭及之レニ附帶スル水路工事

四、面積一町歩以上ノ溜池工事 百分ノ五十以内

五、面積三百坪以上ノ船溜及之ニ通ズル巾二間以上ノ水路工事 百分ノ四十以内

第三條 前條記載ノ道路橋梁治水堤防樋管堰埭溜池水路船溜ノ非常災害復舊工事費ニ對シテハ前條ニ準ジ補助ス

第四條 第二條ニ依リ補助ノ許可ヲ受ケムトスルモノハ其ノ工事施行年度ノ前年六月末日迄ニ知事ニ出願ス

ベシ但シ國及縣ノ工事ニ附帶シ必要ヲ生ジタルモノハ此ノ限ニアラズ

第三條ニ依リ補助ノ許可ヲ受ケムトスルモノハ罹災後二ヶ月以内ニ知事ニ出願スベシ

附 則

本規程ハ大正二年度ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十五年六月三十日マデニ出願シタル工事費ニ對シテハ第二條ノ規定ニ適合スルモノニ限り補助ノ歩合ハ從來ノ規定ニ依ル
利根川及渡良瀬川改良工事ノ爲メ樋管堰埭ノ新築改築ヲ要スルモノ及之ニ附帶スル水路ノ新築改築ニ對シテハ町村又ハ組合ノ負擔スベキ金額ノ百分ノ八十ヲ補助ス

五、土木費補助規程取扱手續

(大正二年一月十六日
縣告示第二十七號改正)

第一條 土木費補助規程ニ依リ補助ヲ受ケムトスルモノハ左ノ書類ヲ添ヘ指定ノ期間内ニ出願スベシ

一 補助出願ニ係ル議會ノ會議錄寫

二 工事仕様設計書

三 工事施行年度ノ歳入出豫算概算書出願年度ノ歳入出豫算書及起債調書

第二條 補助ヲ受クベキ工事ノ仕様設計ハ縣ノ査定スル所ニ依ル

第三條 補助ヲ受クベキ工事ニ對シ縣ヨリ其ノ仕様設計ノ査定書ヲ指示セラレタルトキハ指定セラレタル期間内ニ更ニ議會ノ議決ヲ經左ノ書類ヲ添ヘ出願スベシ

一 補助出願(補助ヲ受クベキ工事ニ對スル豫算工事起工方法ヲ含ム)ニ依ル會議ノ會議錄寫但法令其ノ他ノ規定ニ依リ議決ヲ要セザルモノヲ除ク

二 工事仕様設計書及圖面

三 工事ニ潰地ヲ要スルトキハ官有地ニ係ルモノハ一筆限リ市町村大字、字番號土地臺帳面ノ反別並ニ潰地調査書三斜ヲ記入シタル實測圖民有地ニ係ルモノハ一筆限リ市町村大字、字番號土地臺帳面ノ反別地價金及潰地反別買收金額並地主ノ承諾書

四 當該年度ノ歳入歳出豫算書寫全部

五 工事ニ對シ全員物件勞力ノ寄附又ハ補助アル場合ハ該寄附又ハ補助受領ニ係ル議會ノ會議錄寫

六 全員物件ノ寄附又ハ補助受領濟月日並人名調書但公共團體ノ寄附又ハ補助ヲ除ク

第四條 補助金額ハ許可ノ際指示シタル歩合ニ依リ竣工精算額ニ基キ算定シ圓位ニ止メ支給ス但シ利根川及渡良瀬川改修工事ノ爲メ施行スル樋管堰埭等ノ新築改築工事ニシテ河川改良工事ノ附帶施行トシテ内務省ニ於テ之ヲ施行シ町村又ハ組合ガ其負擔額ニ相當スル勞力及材料ノ供給ヲ命ゼラレタル場合ニ限り補助金ハ工事竣工前ニ下附スルコトアルベシ

前項ノ補助金額ハ設計變更其ノ他ノ事由ニ依リ豫算額ニ増加ヲ生ズルモ許可ノ際指示シタル金額ヨリ増加セザルモノトス

第五條 補助ヲ受ケタル工事ノ仕様設計ノ變更ヲ要スルトキハ第三條ニ準ジ出願許可ヲ受クベシ

第六條 工事ニ着手セムトスルトキハ五日前ニ届出ベシ

第七條 補助ヲ受ケタル工事ニ要スル物件ハ使用前検査ヲ受クベシ若シ検査ヲ受ケズシテ使用シタルモノアルトキハ之レガ引換ヲ命ジ又ハ工事ノ一部又ハ全部ノ改造ヲ命ズルコトアルベシ

第八條 工事竣成シタルトキハ七日以内ニ竣工届ニ出來形精算帳ヲ添ヘ差出スベシ

第九條 出來形検査ノ際工事ノ設計ニ適合セザルトキ又ハ出來形不完全ト認ムルトキハ期限ヲ指示シテ改造セシムベシ

第十條 補助ヲ受クル工事ニシテ許可ノ日ヨリ二ヶ月以内ニ起工セザルモノ又ハ許可ノ期限内ニ竣工セザルモノ及第五條第七條第九條ノ規定ニ從ハザルモノハ補助ヲ取消シ又ハ補助額ヲ減ズルコトアルベシ

六、河川取締規程

(大正二年三月二十四日)
縣令第二十一號

三八六

河川取締規定左ノ通定ム

- 第一條 河川法施行ノ河川ノ取締ニ關シテハ法令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本規程ニ依ル
- 第二條 左ニ掲ゲタル行爲ハ之ヲ禁止ス
 - 一 航路ニ投錨シ又ハ濫リニ引繩ヲ爲シ若ハ航路狹隘ノ場所ニ於テ舟筏ヲ並航スルコト
 - 二 水防ヲ開始シタルトキ發動機付船舶ヲ急航スルコト
 - 三 長十五間幅二間以上ノ筏ヲ流送シ又ハ舟筏木材ノ類ヲ放流スルコト但シ久慈川ニテハ長十間幅七尺以上トス
 - 四 河川又ハ堤防ニ土石塵芥其他ノ物ヲ投棄シ若ハ堆積スルコト
 - 五 堤防ニ家畜ヲ放牧シ又ハ濫リニ堤防若ハ護岸ヲ昇降スルコト
 - 六 貨物積卸ノ設備ナキ堤防水制若ハ護岸ニ於テ貨物ノ取扱ヲ爲スコト
 - 七 橋梁堤防又ハ河川ノ工作物又ハ量水標其他ノ標識ニ舟筏流木若ハ家畜類ヲ繫留スルコト
 - 八 河川ノ工作物ヲ物置場物乾場等ニ供スルコト
- 第三條 左ニ掲ゲタル行爲ヲ爲サムトスル者ハ知事ノ許可ヲ受クベシ
 - 一 堤防又ハ河川ノ工作物ヲ渡船通路等ニ供スルコト
 - 二 河川ノ浚渫其ノ他流水ノ方向又ハ深淺ニ影響ヲ及ボスノ虞アル行爲
 - 三 河川又ハ堤防ヨリ土石砂礫其ノ他產出物(魚、貝、藻ヲ除ク)ヲ採取スルコト
 - 四 堤外地及河岸地ニ木石ノ類ヲ積置クコト
- 第四條 筏其ノ他ノ流送物ニシテ目的地ニ到着シタルトキハ速ニ之ヲ陸揚スヘシ但シ五日以上留置ヲ要スル

トキハ所轄警察官署ノ許可ヲ受クベシ

第五條 舟筏其ノ他ノ流送物ニシテ膠砂シ又ハ顛覆シ若ハ沈没シタルトキハ直ニ所轄警察官署ニ届出デ速ニ之ヲ除去ス但除去ヲ終了スル迄其ノ場所ニ相當ノ標識ヲ設クベシ

第六條 河川及堤防ノ掃除ハ縣ニ於テ施行ス但シ知事ニ於テ必要ト認メタルトキハ之ヲ所屬市町村ニ命ジテ施行セシムルコトアルベシ

前項但書ニ要スル費用ハ其市町村ノ負擔トス

第七條 (削除)

第八條 河川法第四十五條ニ依リ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲ其ノ土地又ハ工作物所有者ヲシテ施行セシメ又ハ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトアルベシ

第九條 河川法第四十六條第一項ニ依リ行政廳ニ於テ植付ケタル竹木芝草ハ其ノ土地所有者ヲシテ之ヲ培養セシムルコトアルベシ但シ此ノ場合ニハ其ノ收益ノ全部若ハ一部ヲ取得セシム

第十條 河川法第十七條及明治三十三年勅令第三百號第四條並ニ本規程第三條第二號ノ願書ハ第一號様式ニ依ルベシ

河川法第十八條ニ依ル占用若ハ使用又ハ本規程第三條第一號ノ願書ハ第二號様式ニ依ルベシ

本規程第三條第三號ノ願書ハ第三號様式ニ依ルベシ

本規程第十八條ノ願書ハ第四號様式ニ依ルベシ

第一項ノ願書ニハ平面圖(河川臺帳切圖寫河川法準用河川ニ在リテハ)明細圖(局部平面圖、縱斷面圖、)及設計書第二項

第三項ノ願書ニハ平面圖ヲ添付スベシ

法人ノ出願ニ係ルトキハ其ノ決議書寫ヲ添付スベシ

第一項乃至第二項ノ願書ニハ保證人連署スベシ但シ法人又ハ三人以上共同出願ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

二人以上共同出願ノ場合ニ於テハ内一人ヲ代表者トナシ願書ニ附記スベシ

第十一條 河川法又ハ本規程ニ依リ許可ヲ受ケタルモノ、納ムベキ料金ハ納入告知書ニ依リ納付スベシ

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ料金ヲ免除若ハ減額スルコトアルベシ

一 河川法第二十條第二號乃至第四號第六號ニ依リ許可ヲ取消シ若ハ其ノ効力ヲ停止シタルトキ

二 河川法施行規程第九條ニ該當スルトキ

三 直接公共ノ用ニ供スルトキ

四 天災事變其ノ他不可抗力ニ因リ占用、使用若ハ採取ノ目的ヲ達スルコト能ハザルトキ

五 漁業法施行規則第十二條及第十三條第一號第二號(工作物施設其ノ他ノ行爲ニ因リ水面ヲ限界スルモノ)ニ該當スル行爲ノ爲ノ占用スルトキ

六 特殊ノ理由アルトキ

任意ニ占用、使用若ハ採取ノ權利ヲ拋棄シ又ハ中途廢止スルコトアルモ其ノ年分料金ニ對シテハ前項ノ限

ニ在ラズ

第十三條 行政官廳ノ認可ヲ得テ漁業ヲ爲サザル期間及漁業法第二十四條第一項ノ規程ニ依リ又ハ第三十四

條ノ規程ニ基ク命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ水面占用ノ期間ニ算入セズ

第十四條 河川法第十八條又ハ本規程第三條ニ依リ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ場所ニ第五號雜形ノ標識ヲ建

設スベシ但シ左ノ場合ニ於テハ所屬土木監督工區主幹ノ承認ヲ得テ便宜ノ場所ニ建設シ又ハ建設セザルコ

トヲ得

一 地勢上其ノ他ノ事由ニ依リ其ノ場所ニ建設スルコト能ハザルトキ又ハ著シク困難ナルトキ

二 短期間ナルトキ

三 漁業取締規則ニ依リ標識ヲ建設シタルトキ

第十五條 河川法第十七條明治三十三年勅令第三百號及本規程第三條ニ依リ許可ヲ受ケタル事項ニ就テハ總

テ所屬土木監督工區主幹ノ指揮ヲ受ケテ處理シ其ノ着手終了ハ共ニ土木監督工區事務所ヲ經由シテ知事ニ

届出ヅベシ其ノ之ヲ廢止シタルトキ亦同ジ但シ此ノ場合ニハ原形ニ復セシムルコトアルベシ

第十六條 本規程第三條第三號ノ產出物ヲ採取セムトスルトキハ許可證票ヲ携帶シ當該官吏更員若ハ警察官

吏ノ要求アリタルトキハ之レガ呈示ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十七條 竹木其ノ他雜草類ヲ採取スルトキハ根株ヲ採掘シ又ハ撰苴ヲ爲スコトヲ得ズ

第十八條 本規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生ズル權利義務ヲ他人ニ移サムトスルトキハ知事ノ許可ヲ受

クベシ

相續ニ依リ權利ヲ承繼シタルトキハ保證人連署ヲ以テ其ノ旨届出ヅベシ

漁業權ノ處分ニ從ヒ許可ヲ受ケズシテ移轉シタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ關係者連署ヲ以テ其ノ旨届出ヅ

ベシ

第十九條 河川法及本規程ニ依リ許可ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ其ノ相續人ヨリ相續人無キトキハ保證

人ヨリ行衛不明トナリタルトキハ保證人ヨリ十日以内ニ届出ヅベシ

保證人死亡シ若ハ行衛不明トナリタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ十日以内ニ届出ヅベシ

第二十條 河川法又ハ本規程ノ許可ヲ受ケタル者又ハ保證人ニシテ住所氏名ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ

届出ヅベシ

第二十一條 占用、使用其ノ他ノ行爲ニ依リ堤防又ハ河川ノ工作物若ハ標識ノ類ヲ損壞シタルトキハ所轄警

察官署又ハ所屬土木監督工區主幹ニ届出デ其ノ指揮ヲ受ケ速ニ修理スベシ

第二十二條 河川法又ハ本規程ニ依リ許可ヲ受ケタル者ノ義務ニ關シテハ共同出願者及保證人ハ連帶シテ其

ノ責ニ任ズ

第二十三條 河川法又ハ本規程ニ依ル願届書類ハ所轄町村役場郡市役所及所屬土木監督工區事務所ヲ經由ス

第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十日以下ノ拘留又ハ拾圓以下ノ料料ニ處ス但シ第一號ノ行爲ニ因リ堤防又ハ河川ノ工作物標識ノ類ヲ損壞シタルトキハ併セテ原形ノ回復ヲ命ズルコトアルベシ

一 許可ヲ受ケズシテ本規程第三條ノ行爲ヲ爲シ若ハ不正ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者
二 本規程第二條第四條第五條第十四條乃至第十七條第十九條第二十條第二十一條ニ違背シタル者

附 則

第二十五條 本規程ハ河川法ヲ準用セシ浦川ニ之レヲ準用ス

第二十六條 明治三十年縣令第五十九號明治三十八年縣令第十六號第二十四號明治三十九年縣令第六號明治四十四年縣令第六十二號ハ之レヲ廢止ス

(第一號様式)

何々(新築)(改築)(除却)(盛土)(掘鑿)(浚深)(栽植)(伐採)願

何川通何郡市町村大字名地先(何々實測面積何坪ノ内)(堤内)(堤外)(河川附近地字番地種目何反歩ノ内)

一 何々
但シ何々ハ御許可ノ日ヨリ何日以内ニ着手シ着手ノ日ヨリ何日以内ニ竣工ノコト
右何々(目的ヲ明記スベシ)致度就テハ大正二年縣令第二十一號ヲ遵守可仕ニ付御許可相成度別紙圖面並ニ設計書相添ヘ保證人連署ヲ以テ相願候也

年 月 日

住 所
願 人 氏 名 印

同 保證人 氏 名 印

知 事 宛

- 一 浚深、盛土、掘鑿等ノ場合ハ其ノ長、幅、高、深及土棄、土取ノ場所方法ヲ記スベシ
- 二 竹木ノ栽植伐採等ハ種類、數量、枝下、目通等ヲ記スベシ
- 三 平面圖ハ出願ノ位置、坪數、三斜、河川臺帳切圖番號、流水ノ方向等ヲ記スベシ
- 四 圖面及設計書 願人ヘ記名調印シタルモノ各三通ヲ添付スベシ
- 五 明治三十三年勅令第三百號第四條ノ願書ニハ保證人ヲ要セズ
- 六 除却ノ場合ハ圖面ヲ要セズ

(第二號様式)

何々(占用)(使用)願

何川通何郡市町村大字名地先
一 何々實測面積何坪

此見積(占用)(使用)料金何程(錢位未満切捨)一坪ニ付何程

此(占用)(使用)期間何年 (五箇年以下)

但シ河川法施行ノ爲不融通物トナリタル土地ヲ舊所有者又ハ其ノ相續人ヨリ無料ニテ(占用)(使用)ヲ出願スルトキハ原地番地、種目、反別其ノ他ノ關係ヲ明記スベシ

繼續(占用)(使用)等ノ場合亦同ジ

右何々(目的ヲ明記スベシ)ノ爲何々致度就テハ大正二年縣令第二十一號ヲ遵守可仕(ハ勿論料金ハ御指定ノ通り上納可仕)ニ付御許可相成度別紙圖面相添ヘ保證人連署ヲ以テ相願候也

年 月 日

知事宛

(第三號樣式)

何々採取願

何川通何郡市町村大字名地先何々實測面積何程ノ内

一 何々何程幅長間間深 間

此見積束數又ハ量目何程

此見積代金何程(錢位未滿切捨)

採取及搬出期間 御許可ノ日ヨリ何日間

右何々(目的ヲ明記スベシ)ニ使用致度就テハ大正二年縣令第二十一號ヲ遵守可仕(ハ勿論代金ハ御指定ノ通上納可仕)ニ付(無償ニテ採取ノ義)御許可相成度別紙圖面相添へ保證人連署ヲ以テ相願候也

年 月 日

住所

願人氏

同 保證人氏

名印

名印

知事宛

一 平面圖ハ第一號樣式第三號ニ同ジ

二 土砂、礫、割栗石ハ坪數、轉石ハ個數並ニ徑何尺寸何上何尺寸以下ト記スベシ

三 葎、蘆、雜草ノ類ハ種類、束數又ハ量目ヲ記スベシ

(第四號樣式)

何々(占用)(使用)(採取)權讓受渡願

何川通何郡市町村大字名地先

一 何々

(占用)(使用)(採取)料金何程

(占用)(使用)(採取及搬出)期間何程

右何々ノ爲大正 年 月 日指令第 號ヲ以テ某ニ何々御許可相成居候處權利讓受渡ノ義契約相整へ候ニ付御許可相成度保證人連署ヲ以テ相願候也

年 月 日

住所

讓渡人氏

同 讓受人氏

同 保證人氏

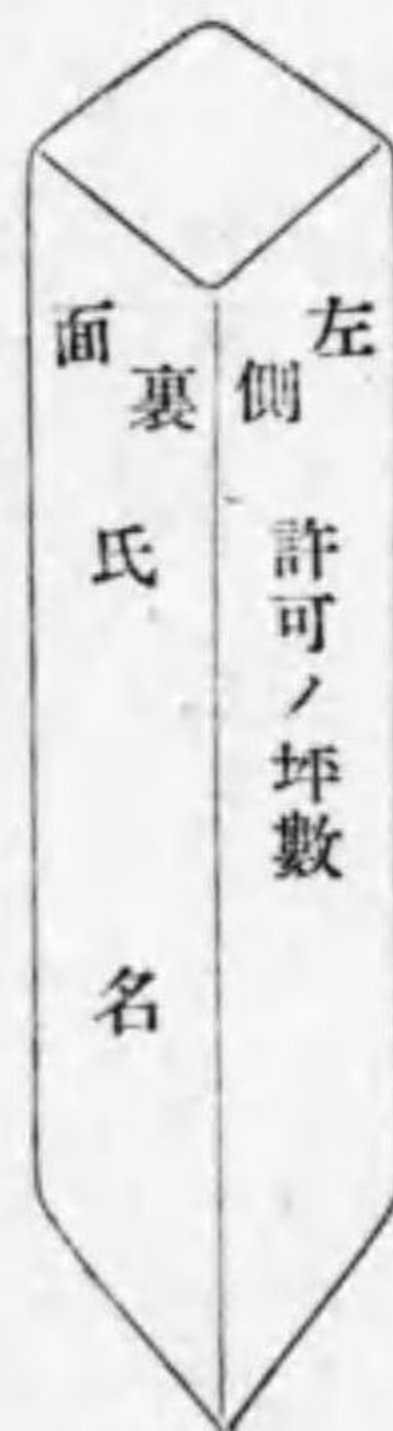
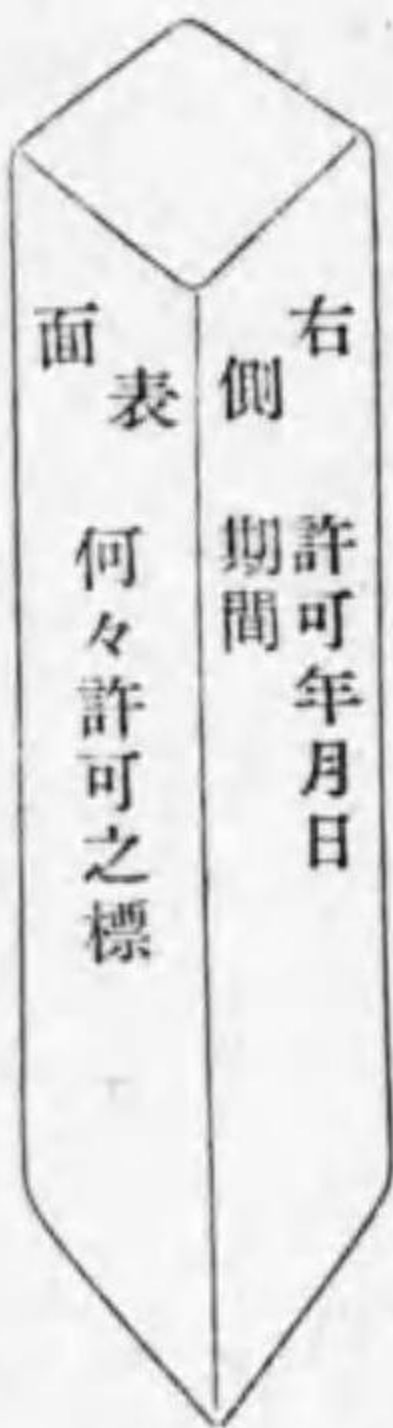
名印

名印

名印

知事宛

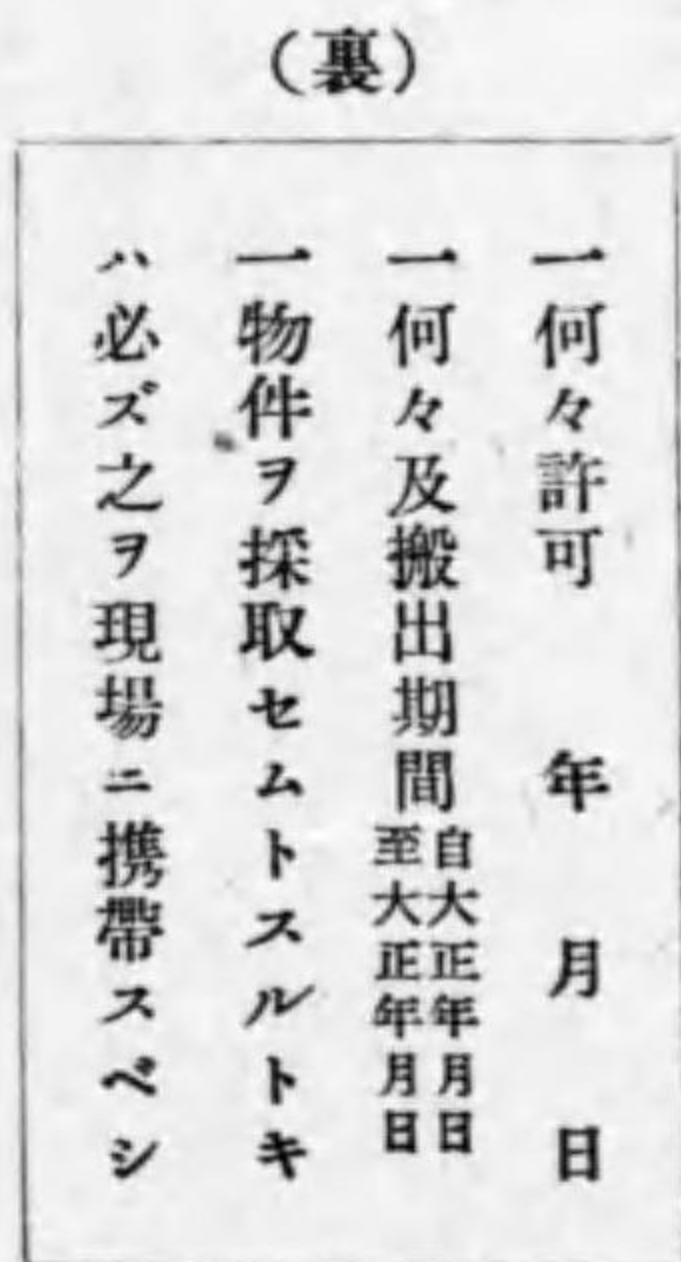
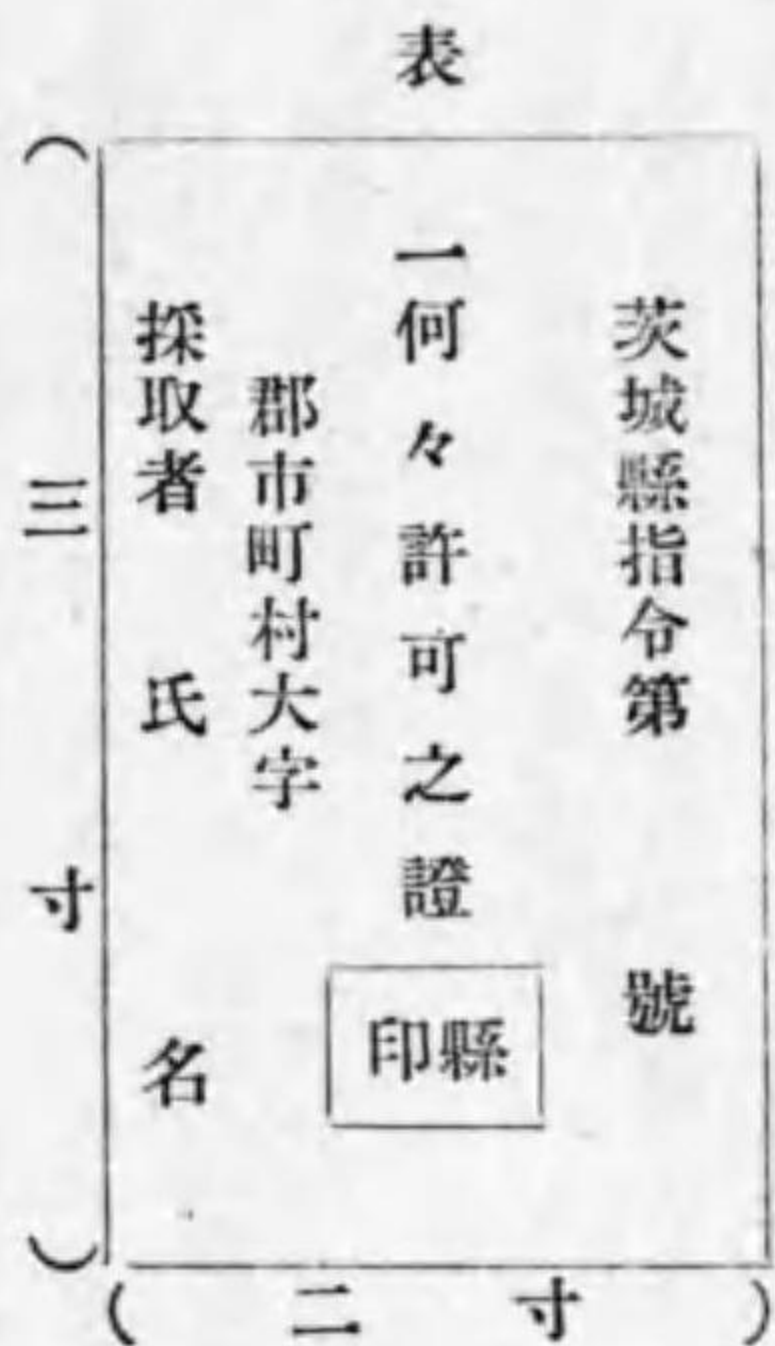
(第五號雛形)



一 三寸角以上ノモノヲ用ヘ地上水面三尺以上ヲ現ハスベシ用材適宜

(第六號雛形)

(用紙厚紙)



(裏)

七、土木工事取締規則

(明治四十三年五月五日 茨城縣令第五十五號)

第一條 郡市町村其ノ他ノ公共團體又ハ私人ニ於テ土木工事ヲ施行セントスルトキハ法令ニ別段ノ規程アル場合ヲ除クノ外本則ニ依リ知事ニ出願許可ヲ受クベシ

第二條 許可ヲ受クベキ工事ノ種類左ノ如シ

一 道路橋梁(私有地ニ施設ノモノヲ除ク)河川、護岸、運河、用惡水路、溝渠、溜池(公共ノ用ニ供セザル千坪未滿ノ溜池ヲ除ク)堰埭、樋管、閘門、棧橋、港灣、船渠、埠頭、堤防、防波堤ノ新設改築變更除却

二 河海、運河、用惡水路、溜池、湖沼、溝渠ヨリ引水シ又ハ之レニ注水スル工作物新設、改築變更除却
三 河海、運河、用惡水路、溜池、湖沼、溝渠、道路、堤防、防波堤、港灣、埠頭ニ附着シ又ハ之レヲ横過シ又ハ其ノ地下ニ於テ施設スル工作物ノ新築改築變更除却

四 河海、湖沼、運河、用惡水路ノ浚渫

第三條 工事施行ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ書類及圖書ヲ添ヘ願出ヅベシ

一 工事施行場所ノ地名、工事ノ名稱、工事施行ノ事由及目的、許可ノ日ヨリ起算シ工事着手ニ至ル日數
二 仕様、設計書及面圖(仕様、設計書ニハ工事ノ種類、位置、工法、材料及員數工費ヲ記載スル)ヲ

三 工事ニ潰地ヲ要スル時ハ官有地ニ係ルモノハ一筆限リ郡市町村大字々番號臺帳面反別並潰地圖書三斜ヲ記入シタル實測圖面又民有地ニ係ルモノハ一筆限リ郡市町村大字々番號臺帳面反別地價金及潰地反別買收金額並地主ノ承諾書

四 公共團體ニ於テ出願ノ場合ハ其議會ノ議事錄謄本當該年度ノ歳入歳出豫算書寫

五 私人ニ於テ道路橋梁、棧橋、埠頭運河ヲ新設シ又ハ河川湖沼ヲ浚深シ賃錢ヲ徵收セントスル者ハ一號乃至三號圖書類ノ外左ノ書類ヲ願書ニ添付スベシ

一 賃錢定額調

二 一ケ年間ノ收支豫算書

三 元資償却金仕譯書

四 地元市町村長ノ證明アル願人ノ資産調

五 地元並關係町村ニ於テ故障ナキ旨ノ證明書

六 印鑑證明書

七 代理人ヲ以テ出願スルトキハ其權限ヲ證スル書面

第四條 工事ヲ許可スルニ當リ必要ト認ムルトキハ保證金ヲ納付セシムルコトアルベシ但シ知事ノ許可ヲ受ケ公債證券ヲ代納スルコトヲ得

前項ノ保證金ハ竣工検査済上ニアラザレバ之レヲ還付セズ

第五條 本則若ハ本則ニ基キテ爲ス處分ニ依リ命ジタル行爲ヲ義務者ガ履行セザルトキ之レヲ強制スル場合ニ於テ前條ノ保證金アルトキハ之レヲ以テ其ノ費用ニ充ツルコトアルベシ

第六條 本則ニ依リ與ヘタル許可ニ因リテ生ズル權利義務ハ知事ノ許可ヲ受クルニアラザレバ之レヲ他人ニ移スコトヲ得ズ

數人共同シテ許可ヲ受ケタルトキハ許可ニ因リテ生ズル義務ハ連帶シテ之ヲ負擔スベシ

第七條 許可ヲ受ケタル者ハ知事ノ許可シタル設計工法ニ從ヒ工事ヲ施行スベシ若シ其ノ設計ヲ變更セムトスルトキハ第三條ニ準ジ更ニ出願許可ヲ受クベシ

第八條 工事ノ着手竣工ハ知事ノ指定シタル期間内ニ爲スベシ但天災其ノ他不可抗力ノ爲工事ニ着手又ハ竣工スルコト能ハザルトキハ相當ノ延期ヲ許可スルコトアルベシ

前項延期ノ出願ハ其事由ノ止ミタル後二十日以内ニ爲スベシ

第九條 許可ヲ受ケタル者工事ニ着手セントスルトキハ五日以前ニ其ノ旨届出デ竣工シタルトキハ五日以内ニ届出ヅベシ但竣工期間十日以内ノモノハ着手届ヲ差出スコトヲ要セズ

知事ニ於テ特ニ出來形精算帳ノ提出ヲ命ジタルトキハ前項ノ竣工届ハ工事竣工ノトキヨリ三十日以内ニ精算帳ト共ニ差出スベシ

前二項ニ依リ竣工ノ届出アリタルトキハ出來形検査ヲ爲スコトアルベシ

第十條 工事施行中ト雖知事ハ設計及工法ノ變更又ハ改築修補ヲ命ズルコトアルベシ許可ヲ受ケタル者ハ之レヲ拒ムコトヲ得ズ

第十一條 工事施行中又ハ工事竣工後ト雖他ニ障害ヲ加ヘ又ハ加ヘムトスル虞アリト認ムルトキハ知事ハ許可ヲ受ケタル者ニ命ジテ其ノ障害ヲ除去セシメ又ハ之レヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ爲サシメ若ハ既設ノ工作物ヲ改築變更セシムルコトアルベシ

第十二條 知事ニ於テ公益上其ノ他必要アリト認ムルトキハ前二條ノ外尙何時タリトモ必要ナル命令ヲ發シ又ハ既ニ發シタル命令ヲ變更スルコトアルベシ許可ヲ受ケタルモノハ之レヲ拒ムコトヲ得ズ

第十三條 左ノ場合ニ於テハ許可ヲ取消スコトアルベシ

一 第八條ニ依リ知事ノ定メタル期限内ニ工事ニ着手セズ又ハ期限内ニ工事竣工セザルトキ

二 本則又ハ許可ニ附シタル條件ニ違背シタルトキ

三 知事ニ於テ公益上必要ト認ムルトキ

第十四條 左ノ場合ニ於テハ許可ハ其ノ効力ヲ失フ

一 許可ヲ受ケタル者總テ死亡シタルトキ

- 二 許可ヲ受ケタル法人解散シタルトキ
- 第十五條 前條ニ依リ許可ノ取消又ハ許可ノ効力消滅シタル場合ニハ知事ノ定メタル期間内ニ既設ノ工作物ヲ撤去シ原形ニ回復セシムベシ
- 前條ノ場合ニ於テ原形ヲ失ヒタルトキハ知事ノ命ズル程度ニ復舊セシムベシ
- 前條第一號ノ場合ニ於テ相續人ニ於テ本條ノ義務ヲ履行スベシ
- 第十六條 許可ヲ受ケズシテ工事ヲ施行シタルモノアルトキハ復舊ヲ命ズルコトアルベシ
- 第十七條 公益ノ爲必要ナル工事又ハ他人ニ於テ知事ノ許可ニ基キテ施行スル工事ニ依リ工事ニ障害ヲ來シ又ハ工事ヲ變更セシムルコトアルモ許可ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ
- 第十八條 工事施行ノ許可ヲ受ケ其ノ工事ヲ施行スルニ當リ往來止メヲ要スル場合ハ所轄警察署長又ハ警察分署長ノ認可ヲ受クベシ
- 第十九條 道路、橋梁、運河、河川ノ使用ニ付賃錢徴收ノ許可ヲ受ケタルモノハ賃錢定額ヲ道路、橋梁、運河、河川ノ兩端見易キ場所ヘ揭示スベシ但賃錢受取所ニモ又揭示スルコトヲ要ス
- 第二十條 道路橋梁ヲ設置シ賃錢徴收ノ許可ヲ受ケタルモノハ法令ニ規定シアルモノ、外左ノ者ヨリ賃錢ヲ要求スルコトヲ得ズ
 - 一 軍隊々伍ヲ組ミ通行ノトキ
 - 二 憲兵制服ヲ着シ通行ノトキ
 - 三 警察官吏制服ヲ着シ通行ノトキ
 - 四 囚人護送ノ看守長看守並護送セラル、囚人通行ノトキ
 - 五 郵便遞送人同集配人電信配達人制服ヲ着シ又ハ印鑑ヲ携帯通行ノトキ
 - 六 消防組員ニシテ警防又ハ演習ノ爲一定ノ服装ヲ爲シ通行ノトキ

七 道路、橋梁、河川ノ測量取締並工事ニ從事スル官吏々員之レニ從屬スル工夫電話係員ニシテ章標携帯通行ノトキ

八 召集ニ應ジタル陸海軍々人通行ノトキ

九 動員令達ニ使テ章標携帯通行ノトキ

十 徵發令ニ依リ徵發ニ應ズル人馬及徵發物件並之レヲ輸送スル人馬車輛通行ノトキ

十一 八歳未満ノ兒童通行ノトキ

第二十一條 許可ヲ受ケタル者ニ於テ本則ニ基ケル義務ヲ履行セザルトキハ知事代テ之レヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セシムルコトアルベシ

第二十二條 本則ニ從ヒ許可ヲ受ケタル者ノ履行スベキ義務ノ爲ニ生ズル費用ハ總テ許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス又之レガ爲許可ヲ受ケタル者ニ於テ損害ヲ蒙ルコトアルモ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ズ

第十四條第一號ノ場合ニ於テハ相續人ニ於テ前項ノ義務ヲ負擔スベシ

第二十三條 工事竣工後ノ維持ハ特別ノ規定又ハ慣習アルモノヲ除クノ外許可ヲ受ケタルモノノ負擔トス

第二十四條 私人ニ於テ本則ニ依ル工事ノ許可ヲ受ケズシテ施行シタルトキ又ハ第十八條乃至第二十條ニ違

背シタルモノハ科料ニ處ス

附 則

第二十五條 本則施行前ニ許可シタル營造物又ハ工作物ニ關シテハ本則ノ規定ヲ適用ス

第二十六條 本則施行前ニ與ヘタル許可ノ條件ハ本則ノ規定ニ抵触セザル範圍ニ於テ其ノ効力ヲ有ス

第二十七條 明治二十八年四月縣令第十九號河川湖沼ヲ堰止メ又ハ堤塘ヲ築造セムトスル者出願許可違反ニ

關スル件明治三十三年三月縣令第二十七號土木工事出願規程ハ之レヲ廢止ス

八、電氣事業ヲ目的トスル水利使用規則

(大正六年六月二十五日
茨城縣令第二十號)

改正 大正十三年六月縣令第十九號

第一條 發電ノ原動力ニ供スル目的ヲ以テ河川其他ノ水ヲ使用セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具備シタル書類及
圖面三通宛ヲ添ヘ知事ニ出願其ノ許可ヲ受クベシ

第一起業ノ概要

- 一 起業者ノ住所(會社ナルトキハ其社名)
- 二 起業ノ目的

(例電燈ノ供給事業ナルトキハ何縣何郡何町村内ノ燈火用、電力ノ供給事業ナルトキハ何鐵道何軌道
何鑛山何工場用、電氣化學工業ノ用ニ供スルモノナルトキハ何所在地何製造所何工場用ノ類)

三 供給區域又ハ鐵道若ハ軌道經過地名並ニ其ノ圖面但シ圖面ハ縮尺二十萬分ノ一トス

四 取水河川(他ノ公有水面ヲ含ム以下同斷)名並取水口及放水口ノ位置

(例取水河川幹川河川支(派)何川取水口何縣何郡何町村何大字、何字放水口何縣何郡何町村何大字何
字)

五 發電所配電所ノ位置並其ノ位置ヨリ供給區域又ハ鐵道若ハ軌道ニ達スル電線ノ經過地名

六 使用水量(毎秒時何立方尺)

七 有効落着(曲尺ニテ示スベシ)

八 馬力數(使用水量及有効落着ヨリ計算理論馬力數)及發電力(キロワット數)

九 水ノ使用期間

第二 水路工事

一 水路一覽地圖

縮尺五萬分ノ一トシ堰堤、取水口、隧道、開渠、發電所、放水口等ノ位置及取水箇所ニ於ケル流域界
線ヲ記載シ尙附近ニ於テ灌溉其他既許可ノ水利事業アルトキハ其位置ヲ記入スベシ

特ニ貯水池又ハ河水ノ調整池ヲ設クルモノニ在リテハ其位置ヲ記載スベシ

二 水路豫測斷面圖

縮尺横六千分ノ一以上縦二百分ノ一以上トシ堰堤、取水口、隧道、開渠、發電所、放水口其他主要工
作物ノ位置取水口及發電所附近ニ於ケル最高水位平水位最低水位ヲ記入シ高低ノ基準ハ成ルベク陸地
測量部ノ水準標ニ準據スベシ

三 堰堤及水路ノ定規圖

縮尺ハ適宜トシテ形狀材質及構造ノ大要ヲ示スベシ

四 計畫說明大要

取水河川ノ狀態及勾配、取水方法ノ大要使用水量決定ノ理由、水路斷面算定ノ方法水車ノ種類及個數
掘鑿土砂ノ數量及處理方法切取盛土法面ノ保護及山地崩壞防止ノ方法ヲ記載スベシ
特ニ貯水池又ハ河川ノ調整池ヲ設クルモノニアリテハ其ノ計畫ノ大要ヲ記載スベシ

第三 取水河川ノ水量測定

一 流域面積(方里ヲ示スベシ)

二 取水口附近ニ於ケル流水量及其ノ測定ノ方法時期並測定場所ノ橫斷面

圖橫面圖ノ縮尺ハ適宜トシ渴水低水及最高水位ヲ記入スベシ

水量測定ハ數種ノ方法ニヨリ成ルベク渴水時ニ於テ數回之ヲ行フベシ

三 雨量觀測表 但シ附近觀測所ノ調査ニシテ成ルベク五年以上ニ互ルモノタルベシ

四 使用河川ノ勾配及河床

(取入口ノ上流一千間ノ地點ヨリ放水路ノ下流一千間ノ地點ニ互ル使用河川本流ノ勾配並其河床狀態ヲ記載スベシ)

五 水量測定ニ關スル擔當技術者ノ氏名

第四 起業ト治水其他公益事業等ノ關係

一 灌溉其他既許可ノ水利事業ニ及ボス影響並之ニ關スル施設ノ大要

(例取水口、放水口間及其ノ上下附近ニ於テ本起業ノ爲影響スルモノナシ又ハ何々堰灌溉段別何町歩ノ爲渴水時ニ於テ何所ヨリ灌溉時期何立方尺ノ分水ヲ爲ス等ノ類)

二 舟筏ノ通航流木及漁業ニ及ボス影響並之ニ關スル施設ノ大要

(例舟筏ノ通航或ハ流木ノ慣行ナシ若クハ漁業ニ利ナシ又ハ堰堤ニ舟筏路若クハ漁道ヲ設クルノ類)

三 名所舊蹟等ニ及ボス影響並之ニ對スル施設ノ大要

四 取水口堰堤ノ爲洪水時ニ於ケル水面ノ隆起ニ起因スル影響ノ程度並之ニ關スル設備ノ大要

(例洪水時ニ於ケル水面ノ隆起堰堤ニ於テ何尺嵩水ノ影響約何間道路ノ上置工事ヲナシ橋梁ヲ高ムル計畫等ノ類)

五 貯水池設置ニ依リ流出水量ニ増減ヲ來ス結果取水河川ノ下流ニ於ケル用惡水路並舟筏ノ通行及流木

ニ及ボス影響ノ程度並之ニ關スル施設ノ大要

六 放水口ヲ他ノ何川ニ設クル場合關係河川ノ治水及水利上ニ及ボス影響ノ程度並之ニ關スル設備方法ノ大要

第五 工事費概算書(別記様式ニ依ルベシ)

第二條 水利使用ノ許可ヲ受ケ施行スベキ工事中河川法施行河川及其流域ニ屬スル河川其他特ニ指定スル河

川ニ關スルモノハ電氣事業經營ノ申請ヲナシタル日ノ翌日ヨリ起業シ六ヶ月以内ニ左ノ事項ヲ具備シタル書類及圖面二通宛ヲ添ヘ知事ニ工事實施ノ認可ヲ申請スベシ

第一 水路實測圖

一 平面圖

縮尺六千分ノ一以上トシ水路ノ中心線測點番號水路及附帶工作物ノ位置ヲ記入シ附近ノ地形ヲ明カニスベシ

二 縱斷面圖

縮尺横六千分ノ一以上縱二百分ノ一以上トシ測定番號基準線(高サ成ベク陸地測量部水準ニ準據スベシ)距離弟加距離地番高切取盛土ノ高サ水路低面ノ高サ計畫水位(水面勾配ヲ記入スベシ)並實測平面圖ニ示シタル水路及附帶工作物ノ位置等ヲ記入シ尙取水口及放水口ニハ最高水位平水位最低水位ヲ記入スベシ

三 橫斷面圖

縮尺二百分ノ一以上切取盛土面坪計畫水位法勾配法面保護工事等ヲ記入シ各斷面間ノ距離ハ土坪計算ニ必要ナル程度ト爲スベシ

第二 構造圖

一 堰堤(流木路、舟筏漁道土砂吐等ヲ含ム)

取水口、沈砂池、土砂吐、餘水路、制水門、隧道開渠、木樋、水路管、水路橋、水槽、放水路、水壓管、吸出口、水車、發電所並貯水池河川ノ調整池等ノ構造圖縮尺ハ適宜トシ構造ノ適否ヲ判定スル爲必要ナル水位ヲ記入スベシ

二 水路開設ニ伴ヒ施設スベキ各種工作物ノ構造圖

縮尺ハ適宜トシ構造ノ適否ノ判定スル爲必要ナル水位ヲ記入シ尙水路ノ新舊工作物ノ關係ヲ明ニシタル平面圖及断面圖ヲ添付スベシ

第三 工事説明書

水路選定ノ理由水路實測圖及構造圖ニ示シタル各種工事設計要領(算式シタルモノハ其計算書添付スベシ)工事執行ノ順序、作業方法、掘鑿土砂處理方法、(土坪、計算表及土砂捨場圖ヲ添付シ各個所ノ面積及土砂包容量ノ計算ヲ明示スベシ)等ヲ記載シ尙堰堤ニ付テハ地質ノ説明(試鑽ヲ行ヒタルモノハ其ノ成績表ヲ添付スベシ)ヲ爲シ且洪水時ニ於ケル水面隆起及嵩水ノ影響ヲ圖示スベシ貯水池及河水ノ調整池ヲ設クル場合ニハ貯水容量(立方尺トシ其ノ計算書ヲ添付スベシ)及使用方法ヲ記載スベシ

第四 工事費豫算書

工事費概算書中水路工事費ニ關スル各費目ヲ細別シ工事ノ種類、長、數量、單價金額及工法ノ適要ヲ示スベシ但シ特種ノモノニ付テハ別ニ設計書ヲ添付スベシ

第三條 第一條第二條ノ許可ヲ受ケタル後其ノ設計ヲ變更セムトスルトキハ其ノ變更ニ關スル設計書及圖面ヲ添ヘ知事ノ許可ヲ受クベシ

第四條 水利使用ノ許可ヲ受ケタル會社發起人若ハ組合員ノ追加脱退其ノ他水利使用者ニ關シ重要ナル事効ノ發生シタルトキハ遲滞ナク知事ニ届出ヅベシ

第五條 水利使用ニ關スル工事ニ付テハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外明治四十三年五月茨城縣令第五十五號土木工事取締規則ノ規定ヲ適用ス

工事費豫算書

項目	數量	單價	金額	摘要
創 立 費				
道 路 工 事 費				
用 地 費				
堰 堤 費				
取 水 口 費				
開 渠 費				
隧 道 費				
餘水吐、土砂吐、其他 水路附屬工事費				
水 槽 費				
鐵 管 費				
放 水 路 費				
掘鑿土砂處理費				
水 車 費				
諸 建 物 費				
補 償 費				
何 々 費				

勞働者災害扶助關係

計	豫備費	測量及工事監督費	電氣工事費	雜工事費

災禍救済法

一 労働者災害扶助法

(昭和六年四月二日
法律第五四號)

改正 昭和十年三月三十日 法律第一八號

第一條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ニ之ヲ適用ス

一 土石砂鑛ヲ採取スル事業ニシテ動力若ハ火藥類ヲ用ヒ若ハ地下ニ於テ作業ヲ爲スモノ又ハ常時十人以上ノ労働者ヲ使用スルモノ

二 土木工事又ハ工作物ノ建設、保存、修理、變更若ハ破壊ノ工事ニシテ左ノ一ニ該當スルモノ

(イ) 國、道府縣、市町村又ハ勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ直營工事

(ロ) 鐵道、軌道若ハ索道ノ運輸事業又ハ水道、電氣若ハ瓦斯ノ事業ヲ營ム者ガ其ノ事業ノ爲ニスル直營

工事並ニ此等ノ事業ニ於ケル使用中ノ工作物(作業ノ運行ニ直接關係ナキモノヲ除ク)ニ關スル注文ニ依ル工事

(ハ) 其ノ他ノ工事ニシテ勅令ノ定ムル規模ノモノ

三 鐵道、軌道若ハ索道ノ運輸事業又ハ一定ノ路線ニ依ル自動車ノ運輸事業

四 船舶ヨリ若ハ船舶ヘノ貨物ノ積卸ノ事業、岸壁、波止場、停車場若ハ倉庫ニ於ケル貨物取扱ノ事業又ハ工場、鑛山若ハ土石砂鑛ヲ採取スル場所ニ於ケル貨物積卸ノ事業ニシテ動力ニ依ル起重機、昇降機其ノ他ノ揚重機ヲ用フルモノ又ハ常時十人以上ノ労働者ヲ使用スルモノ

五 前各號ニ掲グルモノノ外危險ナル事業又ハ衛生上有害ノ虞アル事業ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ
主務大臣ハ前項ノ規定ニ該當セザル土石砂鑛ヲ採取スル事業及岸壁、波止場、停車場又ハ倉庫ニ於ケル貨物取扱ノ事業ニ付地域ヲ限り本法ヲ適用スルコトヲ得

第二條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ労働者ガ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人

又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スベシ

第三條 前條ノ事業主トハ労働者ヲ使用シテ事業ヲ爲ス者ヲ謂フ但シ第一條第一項第二號(ハ)ノ工事ノ全部又

ハ一部ガ數次ノ請負ニ依リ爲サルル場合ニ於テハ元請負人ヲ其請負ヒタル工事ニ付事業主トス

前項但書ノ場合ニ於テ元請負人ガ書面ニ依ル契約ヲ以テ下請負人ヲシテ扶助ヲ引受ケシメタルトキハ其ノ

下請負人モ亦其ノ請負ヒタル工事ニ付事業主トス此ノ場合ニ於テハ二以上ノ下請負人ヲシテ同一ノ工事ニ

付重複シテ扶助ヲ引受ケシムルコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テ元請負人ガ扶助ノ請求ヲ受ケタルトキハ扶助ヲ引受ケタル下請負人ニ對シ先ヅ催告スベ

キ旨ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ下請負人ガ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其ノ行方ガ知レザルトキハ此ノ限ニ在

ラズ

第四條 第一條第一項第一號又ハ第四號ノ事業ガ専ラ同一ノ注文者ノ注文ニ依リ爲サルルモノナルトキハ其

ノ注文者モ亦其ノ事業ニ付事業主トス船舶ヨリ若ハ船舶ヘノ貨物ノ積卸ノ作業(動力ニ依リ運轉スル揚重

機ヲ用フルモノニ限ル)ニシテ注文ニ依リ爲サルモノ又ハ同項第二號(ロ)ノ注文ニ依ル工事ニ付テハ其ノ注

文者(數次ノ注文ニ依ル場合ニ於ケル上級注文者ヲ含ム)モ其ノ注文ニ依ル作業又ハ工事ニ關シ亦同ジ

前項ノ注文者ガ扶助ノ請求ヲ受ケタルトキハ労働者ヲ使用シテ事業ヲ爲ス者ニ對シ、尙數次ノ注文ニ依ル

場合ニ於テハ其ノ下級注文者ニ對シテモ先ヅ催告スベキ旨ヲ請求スルコトヲ得前條第三項但書ノ規定ハ此

ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四條ノ二 事業主本法ニ基キ扶助ヲ爲シタルトキハ事業主ハ其ノ扶助ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害

賠償ノ責ヲ免ル

事業主及労働者ノ出捐スル共済組合勅令ノ定ムル所ニ依リ事業主ヲシテ扶助ヲ爲スヲ要セザラシムル給付

ヲ爲シタルトキハ事業主ハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

第四條ノ三 本法ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ二年間之ヲ行ハザルトキハ時効ニ因リ消滅ス

第四條ノ四 本法ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第五條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業ノ行ハルル場所ニ於ケル危害ノ防止又ハ衛生ニ關シ必要ナル

事項ヲ事業主又ハ労働者ニ命ズルコトヲ得

第六條 行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ事業ノ行ハルル場所ニ臨檢セシムルコ

トヲ得

第七條 事業主扶助ヲ爲スベキ場合ニ於テ其ノ資力アルニ拘ラズ扶助ヲ爲サザルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處

ス

第八條 正當ノ事由ナクシテ當該官吏又ハ吏員ノ臨檢ヲ拒ミ、妨グ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲

サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 事業主未成年者若ハ禁治産者ナルトキ又ハ法人ナルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又

ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者

ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 事業主ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ従業者ガ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタ

ルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十一條 本法中事業主ニ關スル罰則ハ國、道府縣、市町村及勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ之ヲ適用セズ

附 則

本法ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十年三月三十日法律第十八號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十一年十二月二十一日勅令第四四六號ニ依リ昭和十二年一月一日ヨリ施行)

労働者災害扶助法ニ基キ扶助ヲ受クルノ権利ノ時効ニシテ其ノ進行ガ本法施行前ニ始リタルモノニ付テハ仍
従前ノ例ニ依ル但シ本法施行ノ日ヨリ起算シ其ノ残期ガ二年ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ第四條ノ三
ノ規定ヲ適用ス

二、労働者災害扶助法施行令

(昭和六年十一月二十八日 勅令第二七六號)

改正 昭和八年十二月十三日 勅令第三一四號 昭和十一年十二月二十一日 勅令第四四八號
昭和十三年一月十一日 勅令第三〇〇號 昭和十五年九月十八日 勅令第六一五號

第一條 労働者災害扶助法第一條第一項第二號(イ)ノ公共團體ハ左ニ掲グルモノトス

一 府縣組合、市町村組合、町村組合、市町村内ノ區、學區並ニ町村制ヲ施行セザル地ニ於ケル町村ニ準
ズベキモノ及其ノ組合

二 水利組合、水利組合聯合會及北海道土功組合

三 耕地整理組合及土地區劃整理組合並ニ其ノ聯合會

第二條 労働者災害扶助法第一條第一項第二號(ハ)ノ工事ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル規模ノモノトス但シ軒高
九米未滿ニシテ且建築面積三百三十平方米未滿ノ木造家屋ノ建築工事ヲ除ク

一 使用労働者延人員千人以上ノモノ

二 請負ニ依ルモノニシテ請負金額五千圓以上ノモノ

三 火藥類、動力(一馬力以下ノ電動力ヲ除ク)ニ依リ運轉スル機械又ハ運搬ノ用ニ供スル軌道ヲ用フル
モノニシテ使用労働者延人員三百人以上ノモノ

四 地上十米以上又ハ地下三米以上ニ於テ作業ヲ爲スモノニシテ使用労働者延人員三百人以上ノモノ

工事着手前ニ於ケル豫定計畫ガ前項ノ規模ニ該當スルモノハ工事着手後之ニ該當セザルニ至リシ場合ト雖
モ前項ノ規模ニ該當スルモノト看做ス

第二條ノ二 労働者災害扶助法第一條第一項第五號ノ事業ハ工場以外ニ於テ行フ船舶(木造船舶ヲ除ク)ノ解
體ノ事業トス

第三條 事業主ハ労働者ガ業務上負傷シ若ハ疾病ニ罹リ又ハ之ニ因リ死亡シタルトキハ本令ニ依リ扶助ヲ爲
スベシ但シ扶助ヲ受クベキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ事業主ハ扶助金額ヨリ
其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

前項ノ疾病トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

一 負傷ニ因リ發シタル疾病

二 異物ニ因ル眼疾患、重量物體ノ取扱ニ因ル腱鞘炎其ノ他災害ニ因ル疾病

三 毒性、劇性又ハ刺激性料品ニ因ル中毒症又ハ皮膚若ハ粘膜ノ障碍

四 氣壓ノ急激ナル變化ニ因ル疾病

五 有害ナル光線ニ因ル眼疾患

六 其ノ他厚生大臣ノ指定スル疾病

第一項ノ扶助義務ハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外労働者ノ解雇ニ因リテ變更セラルルコトナシ
工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル職工及鑛夫ニ付テハ本令ニ依ル扶助ヲ爲スコトヲ要セズ

第四條 労働者負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ事業主ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費
用ヲ負擔スベシ

第五條 労働者療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ因リ賃金ヲ受ケザルトキハ事業主ハ労働者ノ療養中一
日ニ付標準賃金百分ノ六十ノ休業扶助料ヲ支給スベシ但シ日日雇入レラルル者又ハ使用期間ノ定ナク勞務

供給契約ニ基キ使用セラルル者ニシテ繼續使用セラルルコト十日未滿ノ者ニ付テハ事故發生ノ日ヨリ起算シ三日間ハ之ヲ支給スルコトヲ要セズ

勞働者ヲ病院ニ收容シタル場合ニ於テ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキトキハ休業扶助料ハ標準賃金ノ百分ノ二十トス

第六條 勞働者ノ負傷又ハ疾病治療シタル時ニ於テ身體障害存スルトキハ事業主ハ別表ニ掲グル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スベシ但シ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ標準賃金百八十分(其ノ金額男子ニ在リテハ百五十圓、女子ニ在リテハ九十圓ニ滿テザルトキハ夫々百五十圓又ハ九十圓)ヲ下ルコトヲ得ズ

別表ニ掲グル身體障害二以上存スルトキハ重キ身體障害ノ該當スル等級ニ依リ障害扶助料ヲ支給スベシ左ニ掲グル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ル等級ヲ左ノ如ク繰リ上グ但シ其ノ障害扶助料ノ金額ハ各身體障害ノ該當スル等級ニ依ル障害扶助料ノ金額ヲ合算シタル額ヲ超ユルコトヲ得ズ

- 一 第十三級以上ノ身體障害二以上存スルトキ 一級
 - 二 第八級以上ノ身體障害二以上存スルトキ 二級
 - 三 第五級以上ノ身體障害二以上存スルトキ 三級
- 別表ニ掲グルモノ以外ノ身體障害ヲ存スル者ニ付テハ障害ノ程度ニ應ジ別表ニ掲グル身體障害ニ準ジ障害扶助料ヲ支給スベシ

既ニ身體障害ヲ存スル者負傷又ハ疾病ニ因リ同一部位ニ付障害ノ程度ヲ加重シタルトキハ其ノ加重セラレタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヨリ既ニ存シタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヲ差引キタル金額ヲ支給スベシ

第七條 勞働者重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ且事業主其ノ事實ニ付地方長官(東京府ニ在リテ

ハ警視總監以下之ニ同ジ)ノ認定ヲ受ケタルトキハ休業扶助料及障害扶助料ハ之ヲ支給スルコトヲ要セズ

第八條 勞働者死亡シタルトキハ事業主ハ遺族又ハ勞働者ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ標準賃金四百日分(其ノ金額男子ニ在リテハ三百二十圓、女子ニ在リテハ二百圓ニ滿テザルトキハ夫々三百二十圓又ハ二百圓)ノ遺族扶助料ヲ支給スベシ

第九條 勞働者死亡シタルトキハ事業主ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ勞働者ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ標準賃金三十日分(其ノ金額三十圓ニ滿テザルトキハ三十圓)ノ葬祭料ヲ支給スベシ

第十條 第四條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ支給スベシ但シ本人ヨリ申出アリタルトキハ毎月二回以上之ヲ支給スベシ

障害扶助料ハ勞働者ノ負傷又ハ疾病ノ治療後遲滞ナク之ヲ支給スベシ但シ事業主ガ引續キ雇傭スル場合ニ於テ本人ノ承諾アリタルトキハ雇傭期間内障害扶助料ノ支給ヲ延期スルコトヲ得

遺族扶助料及葬祭料ハ勞働者ノ死亡後遲滞ナク之ヲ支給スベシ
事業主地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ障害扶助料及遺族扶助料ヲ數回ニ分割シテ支給スルコトヲ得

勞働者災害扶助責任保險法ニ依リ保險セラルル場合ニ於テハ第二項但書及前項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第十一條 第四條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受クル勞働者療養開始後一年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治療セザルトキハ事業主ハ標準賃金五百四十日分(其ノ金額男子ニ在リテハ四百三十圓、女子ニ在リテハ二百七十圓ニ滿テザルトキハ夫々四百三十圓又ハ二百七十圓)ノ打切扶助料ヲ支給シ以後前七條ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲サザルコトヲ得
前項ノ扶助料ハ第七條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ二分ノ一トス

第十二條 別表第八級以上ノ障害扶助料又ハ打切扶助料ヲ受ケタル労働者扶助ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ
歸郷スル場合ニ於テハ事業主ハ其ノ必要ナル旅費ヲ負擔スベシ

第十三條 事業主豫メ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ事業主及労働者ノ出捐スル共済組合ノ爲シタル給付
ノ限度ニ於テ之ニ相當スル本令ノ扶助ヲ爲スコトヲ要セズ
地方長官必要ト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十四條 労働者災害扶助責任保険法第四條第二項ノ規定ニ依リ政府ガ扶助ヲ受クベキ者ニ保険金ヲ支拂ヒ
タルトキハ事業主ハ其ノ限度ニ於テ之ニ相當スル本令ノ扶助ヲ爲スコトヲ要セズ

第十五條 標準賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

- 一 労働者災害扶助法第一條第二號(ロ)ノ注文ニ依ル工事又ハ同號(ハ)ノ工事ニ使用セラルル者ニ付テ
ハ一日ニ付十六歳未満ノ者ハ五十五錢、十六歳以上ノ女子ハ八十錢、其ノ他ノ者ハ一圓三十錢
- 二 労働者災害扶助法第一條第四號ノ事業ニ使用セラルル者ニ付テハ事故發生前(賃金締切日アル
場合ニ於テハ直前賃金締切日以前)一月間當該事業ニ繼續使用セラレタル同種労働者ノ賃金總額ヲ其ノ
労働者ノ數ニ其ノ期間ノ日數ヲ乗ジタル數(業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シ賃金ヲ受ケザ
ル日數ヲ控除ス)ヲ以テ除シタル金額
- 三 前二號以外ノ事業ニ日日雇入レラルル者又ハ使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ使用セラルル者ニ
付テハ事故發生ノ日ニ於テ當該事業ニ使用セラレタル同種労働者ノ平均賃金ノ三分ノ二
- 四 前三號ニ該當セザル者ニ付テハ事故發生前(賃金締切日アル場合ニ於テハ直前賃金締切日以前)三月
間(雇入後三月ニ滿チザルトキハ其ノ期間)ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額但
シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額ノ百分ノ六十ヲ下
ルコトヲ得ズ

五 健康保険法ノ被保險者ニ付テハ前四號ノ規定ニ拘ラズ事故發生當時其ノ者ニ付定メラレタル標準報酬
日額

六 前各號ノ規定ニ依リ標準賃金ヲ算出スルコト能ハザル者ニ付テハ地方長官ノ定ムル金額
厚生大臣ハ業務ノ種類又ハ地域ヲ限リ前項第一號ノ金額ヲ増加又ハ減少スルコトヲ得

第一項第四號ニ規定スル期間中ニ業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シタル期間アルトキハ其ノ日
數及其ノ期間中ニ於ケル賃金ハ第一項第四號ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

第一項第四號ノ賃金總額ニハ三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與及發明善行其ノ他特別ノ行爲ニ對スル手
當ヲ包含セズ

第十六條 前條ノ規定ニ依リ標準賃金ヲ算出スルコト不適當ナル場合ニ於テハ事業主ハ地方長官ノ認可ヲ受
ケ別段ノ標準賃金ヲ定ムルコトヲ得

第十七條 工場法施行令第十條乃至第十二條、第十三條ノ二、第十五條及第十八條ノ規定ハ本令ノ扶助ニ付
之ヲ準用ス

第十八條 國ノ直營スル事業ニ於ケル労働者ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規定ニ依ル

第十九條 労働者災害扶助法第十一條ノ公共團體ハ道府縣又ハ市町村ニ準ズベキモノトス

第二十條 本令中地方長官トアルハ砂鑛業ニ在リテハ鑛山監督局長トス

附 則

本令ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和八年十二月十三日勅令第三百十四號附則

本令ハ昭和九年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十一年十二月二十一日勅令第四百四十八號附則

本令ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前支給事由ヲ生ジタル扶助ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
 本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治愈シタル負傷又ハ疾病ガ本令施行後再發シテ扶助ヲ受クルトキハ本令ニ依リ之ヲ扶助スベシ

昭和十三年一月十一日勅令第二十號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十五年九月十八日勅令第六百十五號附則

本令ハ昭和十五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條ノ改正規定ハ請負金額一萬圓未滿ノ工事ニシテ本令施行前ニ請負契約ノ締結セラレタルモノニハ之ヲ適用セズ

本令施行前支給事由ヲ生ジタル扶助ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

別表

身體障害等級及障害扶助料表

等級	身體障害	障害扶助料
第一級	一 兩眼ヲ失明シタルモノ 二 咀嚼及言語ノ機能ヲ廢シタルモノ 三 精神ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ 四 胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ 五 半身不隨ト爲リタルモノ 六 兩上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ 七 兩上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ 八 兩下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ 九 兩下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	標準賃金六百日分 但シ其ノ金額男子ニ在リテハ四百八十圓、女子ニ在リテハ三百圓ニ滿チザルトキハ夫々四百八十圓又ハ三百圓トス
第二級	一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇二以下ニ減ジタルモノ 二 兩眼ノ視力〇・〇二以下ニ減ジタルモノ 三 兩上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ 四 兩下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ	標準賃金五百三十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ四百三十圓、女子ニ在リテハ二百七十圓ニ滿チザルトキハ夫々四百三十圓又ハ二百七十圓トス

第三級		第四級		第五級	
一	二	一	二	一	二
一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ	咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ廢シタルモノ 精神ニ著シキ障害ヲ殘スモノ 胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ終身勞務ニ服スルコト能ハザルモノ 十指ヲ失ヒタルモノ	兩眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ 咀嚼及言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ 鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ヲ全ク聾シタルモノ 一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ 一下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ 十指ノ用ヲ廢シタルモノ 兩足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	一眼失明シ他眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ 一上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ 一下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ 一上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	一眼失明シ他眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ 一上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ 一下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ 一上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	一眼失明シ他眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ 一上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ 一下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ 一上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ
標準賃金四百七十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三百八十圓、女子ニ在リテハ二百四十圓ニ滿チザルトキハ夫々ハ二百四十圓トス	標準賃金四百十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三百三十圓、女子ニ在リテハ二百二十圓トス	標準賃金三百五十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二百八十圓、女子ニ在リテハ二百二十圓トス	標準賃金三百五十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二百八十圓、女子ニ在リテハ二百二十圓トス	標準賃金三百五十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二百八十圓、女子ニ在リテハ二百二十圓トス	標準賃金三百五十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二百八十圓、女子ニ在リテハ二百二十圓トス

第六級		第七級	
一	二	一	二
兩眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ 鼓膜ノ大部分ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ノ聽力耳殼ニ接セザレバ大聲ヲ解シ得ザルモノ 脊柱ニ著シキ畸形又ハ運動障害ヲ殘スモノ 一上肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ 一下肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ 一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セ四指ヲ失ヒタルモノ	一眼失明シ他眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ 鼓膜ノ中等度ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ノ聽力四十種以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得ザルモノ 精神ニ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得ザルモノ 胸腹部臟器ノ機能ニ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得ザルモノ 一手ノ拇指及示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指若ハ示指ヲ併セ三指以上ヲ失ヒタルモノ 一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セ四指ノ用ヲ廢シタルモノ 一足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	一眼失明シ他眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ 鼓膜ノ中等度ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ノ聽力四十種以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得ザルモノ 精神ニ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得ザルモノ 胸腹部臟器ノ機能ニ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得ザルモノ 一手ノ拇指及示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指若ハ示指ヲ併セ三指以上ヲ失ヒタルモノ 一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セ四指ノ用ヲ廢シタルモノ 一足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	一眼失明シ他眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ 鼓膜ノ中等度ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ノ聽力四十種以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得ザルモノ 精神ニ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得ザルモノ 胸腹部臟器ノ機能ニ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得ザルモノ 一手ノ拇指及示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指若ハ示指ヲ併セ三指以上ヲ失ヒタルモノ 一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セ四指ノ用ヲ廢シタルモノ 一足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ
夫々二百八十圓又ハ百八十圓トス	標準賃金二百五十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二百圓、女子ニ在リテハ百二十五圓ニ滿チザルトキハ夫々二百圓又ハ百二十五圓トス	標準賃金二百五十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二百圓、女子ニ在リテハ百二十五圓ニ滿チザルトキハ夫々二百圓又ハ百二十五圓トス	標準賃金二百五十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二百圓、女子ニ在リテハ百二十五圓ニ滿チザルトキハ夫々二百圓又ハ百二十五圓トス

第八級		第九級	
八	九	一	二
十趾ノ用ヲ廢シタルモノ	女子ノ外貌ニ著シキ醜狀ヲ殘スモノ 兩側ノ睪丸ヲ失ヒタルモノ	一眼ヲ失明シ又ハ一眼ノ視力〇・〇二以下ニ減ジタルモノ 頸部ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ 神經系統ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得ザルモノ 一手ノ拇指ヲ併セ二指ヲ失ヒタルモノ 一手ノ拇指及示指又ハ拇指若ハ示指ヲ併セ三指以上ノ用ヲ廢シタルモノ 一下肢ヲ五種以上短縮シタルモノ 一上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ用ヲ廢シタルモノ 一下肢ノ三大關節中ノ一關節ノ用ヲ廢シタルモノ 一上肢ニ假關節ヲ殘スモノ 一下肢ニ假關節ヲ殘スモノ 一足ノ五趾ヲ失ヒタルモノ	兩眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ 一眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ 兩眼ニ半盲症、視野狹窄又ハ視野變狀ヲ殘スモノ
		標準賃金二百日分 但シ其ノ金額男子ニ在リテハ百六十圓、女子ニ在リテハ百圓ニ滿テザルトキハ夫々百六十圓又ハ百圓トス	標準賃金百五十日分 但シ其ノ金額男子ニ在リテハ百二十圓又ハ七十圓トス

第十級		第十一級	
一	二	一	二
八	七	四	五
一眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ 十四齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ 鼓膜ノ大部分ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ノ聽力耳殼ニ接セザレバ大聲ヲ解シ得ザルモノ 一手ノ示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ二指ヲ失ヒタルモノ 一手ノ拇指ノ用ヲ廢シタルモノ、示指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ三指ノ用ヲ廢シタルモノ 一下肢ヲ三種以上短縮シタルモノ 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒタルモノ	兩眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ 鼻ヲ缺損シ其ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ 咀嚼及言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ 鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ヲ全ク聾シタルモノ 一手ノ拇指ヲ失ヒタルモノ、示指ヲ併セ二指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ三指ヲ失ヒタルモノ 一手ノ拇指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモノ 一足ノ第一趾ヲ併セ二趾以上ヲ失ヒタルモノ 一足ノ五趾ノ用ヲ廢シタルモノ	十圓、女子ニ在リテハ七十五圓ニ滿テザルトキハ夫々百二十圓又ハ七十圓トス	標準賃金百二十日分 但シ其ノ金額男子ニ在リテハ九十圓、女子ニ在リテハ六十圓ニ滿テザルトキハ夫々九十圓又ハ六十圓トス

第十一級

一 兩眼ノ眼球ニ著シキ調節機能障害又ハ運動障害ヲ殘スモノ
 二 兩眼ノ眼瞼ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ
 三 一眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ
 四 鼓膜ノ中等度ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ノ聽力四十種以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得ザルモノ
 五 脊柱ニ畸形ヲ殘スモノ
 六 一手ノ中指又ハ環指ヲ失ヒタルモノ
 七 一手ノ示指ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ二指ノ用ヲ廢シタルモノ
 八 一足ノ第一趾ヲ併セ二趾以上ノ用ヲ廢シタルモノ

標準賃金九十日分
 但シ其ノ金額男子ニ在リテハ七十圓、女子ニ在リテハ四十五圓ニ滿チザルトキハ夫々七十圓又ハ四十五圓トス

第十二級

一 一眼ノ眼球ニ著シキ調節機能障害又ハ運動障害ヲ殘スモノ
 二 一眼ノ眼瞼ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ
 三 七齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ
 四 一耳ノ耳殼ノ大部分ヲ缺損シタルモノ
 五 鎖骨、胸骨、肋骨、肩胛骨又ハ骨盤骨ニ著シキ畸形ヲ殘スモノ
 六 一上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ
 七 一下肢ノ三大關節中ノ一關節ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ
 八 長管骨ニ畸形ヲ殘スモノ
 九 一手ノ中指又ハ環指ノ用ヲ廢シタルモノ

標準賃金六十日分
 但シ其ノ金額男子ニ在リテハ五十圓、女子ニ在リテハ三十圓ニ滿チザルトキハ夫々五十圓又ハ三十圓トス

第十三級

一 一眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ
 二 一眼ニ半盲症、視野狹窄又ハ視野變狀ヲ殘スモノ
 三 兩眼ノ眼瞼ノ一部ニ缺損ヲ殘シ又ハ睫毛禿ヲ殘スモノ
 四 一手ノ小指ヲ失ヒタルモノ
 五 一手ノ拇指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ
 六 一手ノ示指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ
 七 一手ノ示指ノ末關節ニ屈伸不能ヲ來シタルモノ
 八 一下肢ヲ一輊以上短縮シタルモノ
 九 一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ
 十 一足ノ第二趾ノ用ヲ廢シタルモノ、第二趾ヲ併セ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ノ用ヲ廢シタルモノ

標準賃金四十日分
 但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三十圓、女子ニ在リテハ二十圓ニ滿チザルトキハ夫々三十圓又ハ二十圓トス

第十四級

一 一眼ノ眼瞼ノ一部ニ缺損ヲ殘シ又ハ睫毛禿ヲ殘スモノ
 二 三齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ

標準賃金二十日分
 但シ其ノ金額男子

三 四 五 六 七 八 九 十

三 上肢ノ露出面ニ手掌面大ノ醜痕ヲ殘スモノ
 四肢ノ露出面ニ手掌面大ノ醜痕ヲ殘スモノ
 一手ノ小指ノ用ヲ廢シタルモノ
 一手ノ拇指及示指以外ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ
 一手ノ拇指及示指以外ノ指ノ末關節ニ屈伸不能ヲ來シタルモノ
 一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ
 局部ニ神經症狀ヲ殘スモノ
 男子ノ外貌ニ醜狀ヲ殘スモノ

ニ在リテハ十五
 圓、女子ニ在リテ
 ハ十圓ニ滿チザル
 トキハ夫々十五圓
 又ハ十圓トス

備考

- 一 視力ノ測定ハ萬國式試視力表ニ依ル屈折異狀アルモノニ付テハ矯正視力ニ付測定ス
- 二 指ヲ失ヒタルモノトハ拇指ハ指關節、其ノ他ノ指ハ第一指關節以上ヲ失ヒタルモノヲ謂フ
- 三 指ノ用ヲ廢シタルモノトハ指ノ末關節ノ半以上ヲ失ヒ又ハ掌指關節若ハ第一指關節(拇指ニ在リテハ指關節)ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノヲ謂フ
- 四 趾ヲ失ヒタルモノトハ其ノ全部ヲ失ヒタルモノヲ謂フ
- 五 趾ノ用ヲ廢シタルモノトハ第一趾ハ末關節ノ半以上、其ノ他ノ趾ハ末關節以上ヲ失ヒタルモノ又ハ趾關節若ハ第一趾關節(第一趾ニ在リテハ趾關節)ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノヲ謂フ

(準用條文) 工場法施行令

第十條 遺族扶助料ヲ受クベキ者ハ職工ノ配偶者トス

配偶者ナキ場合ニ於テ遺族扶助料ヲ受クベキ者ハ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル職工ノ直系卑屬又

ハ直系尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ卑屬ト尊屬ト親等相同ジキトキハ卑屬ヲ先ニス

第十一條 前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

- 一 職工ノ家督相續人又ハ戸主バ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス
 - 二 男ハ之ヲ女ヨリ先ニス
 - 三 直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖之ヲ私生子ヨリ先ニス
 - 四 前二號ニ掲グル事項ニ付相同ジキ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス
- 第十二條 第十條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲グル者ノ中一人ニ遺族扶助料ヲ支給スベシ但シ職工ノ遺言又ハ工業主ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ掲グル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フベシ

- 一 職工ノ家督相續人又ハ戸主
- 二 職工ノ兄弟姉妹ニシテ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル者
- 三 職工死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者

第十三條ノ二 職工健康保險法(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クベキトキハ其ノ期間第五條ノ扶助ハ之ヲ爲スコトヲ要セズ健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受クベキトキハ休業扶助料ノ支給ニ付亦同ジ

職工ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルベキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セズ

健康保險法第六十二條第一項第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケザル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ第五條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セズ

第十五條 工業主ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本章ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲サザルコトヲ得

- 一 職工ノ解雇 一年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラズ解雇前ニ又ハ解雇後一年内ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同ジ
- 二 扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ヲ受ケテ治療シタル負傷又ハ疾病ガ職工ノ解雇後ニ於テ再發スルトキ

第十八條 地方長官ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ因リ職工ノ負傷、疾病若ハ死亡ノ原因、別表ニ掲グル身體障害ノ程度其ノ他扶助ニ關スル事項ニ付之ヲ審査シ及事件ノ調停ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムルコトヲ得

三、労働者災害扶助法施行規則

(昭和六年十一月二十八日
内務省令第三二號改正)

改正 昭和八年九月六日内務省令第二六號
昭和十一年七月三十一日内務省令第四八號
昭和十一年十二月二十一日内務省令第五四號

第一條 労働者災害扶助法ノ適用ヲ受クル事業ノ事業主ハ扶助ニ關シ一切ノ權限ヲ有スル扶助代理人ヲ選任スルコトヲ得

事業主ガ事業ノ行ハルル場所ニ居住セザルトキ又ハ事業主法人ナル場合ニ於テ主タル事務所ガ事業ノ行ハルル場所ニ在ラザルトキハ扶助代理人ヲ選任スベシ

前二項ノ規定ニ依リ扶助代理人ヲ選任シタルトキハ事業主ハ遲滯ナク地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ニ届出ヅベシ
地方長官ハ必要アリト認ムルトキハ扶助代理人ノ改任ヲ命ズルコトヲ得

扶助代理人ハ本則ノ適用ニ付テハ事業主ニ代ルモノトス

第二條 事業主ハ事業ノ行ハルル場所ニ負傷者ノ救護ニ必要ナル救急用具及材料ヲ備置クベシ但シ其ノ附近ニ適當ナル施設ノ利用シ得ベキモアル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 事業主ハ其ノ住所氏名、扶助ニ關スル事項ノ要旨及扶助代理人アルトキハ其ノ住所氏名ヲ事業ノ行ハルル場所ノ見易キ箇所ニ揭示スベシ

前項ノ揭示ニハ労働者災害扶助法第三條第二項ノ元請負人又ハ同法第四條第一項ノ注文者アルトキハ其ノ住所氏名ヲモ記載スベシ

第四條 事業主ハ事業ノ行ハルル場所ニ於ケル主タル事務所ニ労働者ノ扶助ニ關スル書類ヲ備置クベシ
前項ノ扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存スベシ

第五條 労働者業務上ノ負傷又ハ労働者災害扶助法施行令第三條第二項ノ疾病ニ因リ療養ノ爲三日以上ノ休業ヲ要スベキトキ又ハ死亡シタルトキハ事業主ハ遲滞ナク様式第一號ニ依リ之ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

第六條 事業主扶助ヲ爲シタルトキ又ハ労働者災害扶助法施行令第十條第二項但書ノ規定ニ依リ障害扶助料ノ支給ヲ延期シタルトキハ様式第二號ニ依リ之ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

第七條 事業主ハ毎年十月末日迄ニ様式第三號ニ依リ十月一日現在ニ於ケル労働者數ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

第八條 第一條乃至第三條、第五條及第七條ノ規定ニ於テ事業主トアルハ労働者災害扶助法第三條第二項ノ場合ニハ下請負人タル事業主、同法第四條第一項ノ場合ニハ労働者ヲ使用スル事業主トス

第九條 事業ノ行ハルル場所ガ二以上ノ府縣ニ亘ル場合ニ於テハ本則ニ依ル届出ハ其ノ事業ノ行ハルル場所ニ於ケル主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ爲スベシ

第十條 第一條第二項若ハ第三項又ハ第二條乃至第七條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第一條第四項ノ規定ニ依

ル命令ニ從ハザル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十一條 事業主未成年者若ハ禁治産者ナルトキ又ハ法人ナルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 事業主ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十三條 本則中扶助代理人ニ關スル規定及事業主ニ適用スベキ罰則ハ道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノニ之ヲ適用セズ

第十四條 本則中地方長官トアルハ砂鑛業ニ在リテハ鑛山監督局長トス

附 則

本則ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和八年九月六日内務省令第二六號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十年七月三十一日内務省令第四八號附則

本令ハ昭和十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十一年十二月二十一日内務省令第五十四號附則

本令ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

様式第一號甲

告報傷死者働勞

被害者ニ重大過失アリタルトキハ其ノ狀況	及危設備ノ防有裝無置	名位ノ被 稱及部害	者病傷死	種類ノ業事		事業ノ名稱及其ノ事務所ノ所在地
				別男女	氏	
狀況發生及原因ノ災害	業務ノ種類	生年月日	業務ノ種類	當日(前日)ノ業務ノ時間		所業主ノ捺印
				計	男	
狀況發生及原因ノ災害	賃	日當、臨時、別	日當、臨時、別	事故發生ノ時間		住所氏代理人ノ捺印
				年	月	
狀況發生及原因ノ災害	金	賃	金	當日(前日)ノ業務ノ開始時間		(昭和) 年 月 日(届出)
				年	月	
狀況發生及原因ノ災害	金	賃	金	死亡ノ日時又ハ休業シタル日數(既ニ休業)		死亡ノ日時又ハ休業シタル日數(既ニ休業)
				年	月	

記載心得

- 一 本様式ハ労働者災害扶助責任保険法ニ依ル保険ニ付セザル事業ニ使用スルモノトス
- 二 本様式ノ用紙ハ美濃紙半折大トス
- 三 本報告ハ労働者死亡シ又ハ療養ノ爲休業八日以上ヲ要スベキ見込ノ場合ニ於テハ二通其ノ他ノ場合ニ於テハ一通ヲ差出スベシ
休業八日未満ノ見込ノ者休業八日以上ニ及ビタルトキハ訂正ノ上更ニ二通差出スベシ
- 四 本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ届出後三年間之ヲ保存スベシ
- 五 本報告ハ死傷病者一名毎ニ用紙ヲ別ニスベシ同一ノ事故ニ依リ數人ノ死傷者ヲ出シタル場合ニ於テハ其ノ中一枚ノ報告ニ詳細記入シテ他ノ報告ニハ其ノ重複スル部分ヲ省略スルコトヲ得
- 六 事業主ノ都合ニ依リ本様式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ各欄内ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設クルコトヲ妨ゲズ
- 七 事業主ノ住所氏名欄及扶助代理人ノ住所氏名欄ニハ届出タル住所氏名ヲ記入シ捺印ハ扶助代理人アルトキハ其ノ捺印ノミヲ以テ足ル
- 八 事業ノ種類欄ニハ例ヘバ石灰石採掘業、砂利採取業、鐵道運輸事業、乗合自動車業、沖仲仕業、濱仲仕業、倉庫仲仕業等事業ノ性質ヲ分明ナラシムルコトヲ得ル名稱ヲ記入スベシ
- 九 災害ノ原因及發生狀況欄ニハ災害發生前ノ被害者ノ動作、操作、災害發生位置ノ高サ又ハ深サ、災害ガ機械又ハ設備ニ依リテ發生シタル場合ニ於テハ其ノ大サ、能力、高サ、壓力、電壓又ハ溫度其ノ他災害ノ原因及狀況ヲ明瞭ナラシムルニ必要ナル事項ヲ擧ゲテ其ノ顛末ヲ記載スベシ
- 十 災害ノ原因及發生狀況又ハ危害豫防装置及設備ノ狀況ニ關シテハ成ルベク寫眞又ハ見取圖ノ類ヲ添附スベシ

告報傷死者働勞

初療 診養 擔當者 年月日ノ	被害者ニ重大過失アリ タルトキハ其ノ狀況アリ	危害 設備ノ防 有裝 無置	被害者ノ 位及部 名稱	死者病傷死 別男女 氏 名	種 工 事 ノ 類	工 事 ノ 名 及 其 所 在 地	保險證書ノ記號番號(未 ダ證書ヲ受ケザルトキハ 保險契約申込年月日)	
							事業主ノ下請負人ナルトキ ハ保險金受取人證書ノ記 號番號(未ダ證書ヲ受ケ ザルトキハ其ノ旨)	
療養擔當者 ノ住所氏名			災害ノ 原因及 發生狀	生年月日	當日工 事 ラニ使 用セ ラレタ ル 勞働者 數		事務 所 ノ 名 稱	事業主ノ 捺印 所 氏名捺 印
					計	男		
				業務ノ種類	性 質 ヲ 明 ニ シ 得 ル 名	事故發生 場所 ノ 名		
				常時、臨時、 日傭ノ別				
				賃 金				
				死亡ノ日時又ハ休業見 込日數(既ニ休業シタ ル日數ヲ含ム)	事故 發生 日時	昭 和 年 月 日		

(昭和 年 月 日届出)

記載心得

- 一 本様式ハ労働者災害扶助責任保険法ニ依リ保険ニ付スル工事ニ使用スルモノトス
- 二 本様式ノ用紙ハ美濃紙半折大トス
- 三 本報告ハ労働者死亡シ又ハ療養ノ爲休業八日以上ヲ要スベキ見込ニ於テハ二通其ノ他ノ場合ニ於テハ一通ヲ差出スベシ
 休業八日未満ノ見込ノ者休業八日以上ニ及ビタルトキハ訂正ノ上更ニ二通差出スベシ
 休業八日以上ノ見込ノ者ノ休業見込日數ガ三週間以上延長シタルトキ又ハ療養擔當者ヲ變更シタルトキハ其ノ都度訂正ノ上更ニ一通差出スベシ此ノ場合ニ於テハ欄外左肩ニ「變更」ト記載シ保險證書ノ記號番號、事業主ノ住所氏名、扶助代理人ノ住所氏名、事故發生日時、死傷病者ノ氏名、療養擔當者ノ初診年月日及療養擔當者ノ住所所名以外ノ欄ハ記入スルコトヲ要セズ
- 四 本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ届出後三年間之ヲ保存スベシ
- 五 本報告ハ死傷病者一名毎ニ用紙ヲ別ニスベシ同一ノ事故ニ依リ數人ノ死傷者ヲ出シタル場合ニ於テハ其ノ中ノ一枚ノ報告ニ詳細記入シテ他ノ報告ニハ其ノ重複スル部分ヲ省略スルコトヲ得
- 六 事業主ノ都合ニ依リ本様式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ各欄内ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設クルコトヲ妨ゲズ
- 七 事業主ノ住所氏名欄及扶助代理人ノ住所氏名欄ニハ届出タル住所氏名ヲ記入シ捺印ハ扶助代理人アルトキハ其ノ捺印ノミヲ以テ足ル
- 八 工事ノ種類欄ニハ例ヘバ隧道工事、鐵橋梁設工事、鐵筋コンクリート建築工事、木造建築工事等工事ノ性質ヲ分明ナラシムルコトヲ得ル名稱ヲ記入スベシ
- 九 災害ノ原因及發生狀況欄ニハ災害發生前ノ被害者ノ動作、操作、災害發生位置ノ高さ又ハ深サ、災害ガ機械又ハ設備ニ依リテ發生シタル場合ニ於テハ其ノ大サ、能力、高さ、壓力、電壓又ハ溫度其ノ他災害ノ原因及狀況ヲ明瞭ナラシムルニ必要ナル事項ヲ擧ゲテ其ノ顛末ヲ記載スベシ
- 十 災害ノ原因及發生狀況又ハ危害豫防装置及設備ノ狀況ニ關シテハ成ルベク寫眞又ハ見取圖ノ類ヲ添附スベシ
- 十一 療養擔當者ノ初診年月日及療養擔當者ノ住所氏名欄ハ休業見込日數八日未満ノ者ニ付テハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ
- 十二 療養擔當者ニ關シテハ單ニ應急處置ヲ加ヘタル者ヲ除キ記載スベシ

様式第二號甲

労働者扶助報告

昭和 年 月 分 (昭和 年 月 日届出)

事業ノ種類	事業ノ名稱及其ノ事務所ノ所在地	事業主ノ住所氏名捺印	扶助代理人ノ住所氏名捺印	種別	療養費		休業扶助料		支給延日數	了ノ別	了ノ終	扶助了ノ別	氏名	常備ノ時別	臨時ノ日別	負傷ノ別	疾病ノ別	事故ノ年月日	労働者死告出年月日	療養費	休業扶助料	障害扶助料、遺族扶助料又ハ打切扶助料	葬祭料	備考	
					人員	金額	人員	金額																	
				男																					
				女																					
				男																					
				女																					

記載心得

- 一 本様式ハ労働者災害扶助責任保険法ニ依ル保険ニ付セザル事業ニ使用スルモノトス
- 二 本様式ノ用紙ハ美濃紙半折大トス
- 三 本報告ハ毎月二十日迄ニ前月分ヲ差出スベシ
- 四 本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ届出後三年間之ヲ保存スベシ
- 五 事業ノ種類欄ニハ例ヘバ石灰石採掘業、砂利採取業、乗合自動車業、沖仲仕業、濱仲仕業、倉庫仲仕業等事業ノ性質ヲ分明ナラシムルコトヲ得ル名稱ヲ記入スベシ
- 六 事業主ノ住所氏名欄及扶助代理人ノ住所氏名欄ニハ届出タル住所氏名ヲ記入シ捺印ハ扶助代理人アルトキハ其ノ捺印ノミヲ以テ足ル
- 七 労働者災害扶助法施行令第十條第二項但書ノ規定ニ依リ障害扶助料ノ支拂ヲ延期シタル場合ニ於テハ障害ヲ殘シタル時及現實ニ支拂ヒタル時何レモ本表ニ記載シ前者ノ場合ニハ延期シタル旨ヲ、後者ノ場合ニハ障害扶助料支給延期報告届出ノ年月日ヲ備考欄ニ記載スベシ
- 八 ろ表ノ記載順序ハ扶助終了ノモノヲ先ニスベシ
- 九 ろ表ノ健康保険ノ被保険者ニ對スルモノノ療養費及休業扶助料欄ニハ保険給付期間ヲ超エテ支給シタルモノノミヲ記載シ傷病手當金及埋葬料ヲ受クル者ニ對シ補給シタル休業扶助料及葬祭料ハ備考欄ニ保険給付補給トシテ記載スベシ

様式第二號乙

労働者扶助報告

昭和 年 月 分

(昭和 年 月 日届出)

種類		療養		休業		扶助		葬祭料		種別	備考
		費用	超過	円	日	日	日	日	日		
		十	十	十	十	十	十	十	十		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額
員数	員数	員数	員数	員数	員数	員数	員数	員数	員数	員数	員数
員数	員数	員数	員数	員数	員数	員数	員数	員数	員数	員数	員数

労働者災害扶助責任保険法施行令第二條以外ノ扶助ニシテ前月中ニ終了シタルモノ
 其ノ捺印ハ之ヲ要セス
 労働者災害扶助法第三條第二項ノ場合ニ於テ元請負人が扶助ヲ爲シタル
 トキハ其ノ住所氏名捺印(此ノ場合ニ於テ前欄ノ事業主ハ下請負人トシ
 其ノ捺印ハ之ヲ要セス)

保險證書ノ記號番號(未
 ダ證書ヲ受ケザルトキハ
 保險契約申込年月日)

事業主下請負人ナルトキハ保險
 金受取人證書ノ記號番號(未ダ
 證書ヲ受ケザルトキハ其ノ旨)

了未了扶助了		了未了扶助了		了未了扶助了		了未了扶助了		了未了扶助了		了未了扶助了		了未了扶助了		了未了扶助了		了未了扶助了		了未了扶助了		了未了扶助了	
別男女	氏名	常備、臨時、日別	疾病、負傷、事故	年月日	扶助報告届出年月日	治療期間	支給延	障害部位	等級	金額	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考

ろ表 労働者災害扶助責任保険法施行令第二條ノ扶助ニシテ同令第十三條乃至第十五條ニ依リ保險金ヲ受ケザルモノ(前前月ヨリ繰越シタルモノハ累計ヲ記載スルコト)

は表 業務上ノ傷病ニ對シ法定額ヲ超エテ扶助シタル場合ニ法定額ヲ超ユル部分ニシテ前月中ニ支給シタルモノ(い表及ろ表ニ記載シタルモノヲ除ク)

記載心得

- 一 本様式ハ労働者災害扶助責任保險法ニ依リ保險ニ付スル工事ニ使用スルモノトス
- 二 本様式ノ用紙ハ美濃紙半折大トス
- 三 本報告ハ毎月二十日迄ニ前月分ヲ差出スベシ
- 四 本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ届出後三年間之ヲ保存スベシ
- 五 工事ノ種類欄ニハ例ヘバ隧道工事、鐵橋架設工事、鐵筋コンクリート建築工事、木造建築工事等工事ノ性質ヲ分明ナラシムルコトヲ得ル名稱ヲ記入スベシ
- 六 事業主ノ住所氏名欄及扶助代理人ノ住所氏名欄ニハ届出タル住所氏名ヲ記入シ捺印ハ扶助代理人アルトキハ其ノ捺印ノミヲ以テ足ル
- 七 ろ表ノ記載順序ハ扶助終了ノモノヲ先ニスベシ

様式第二號丙

障害扶助料支給延期報告

(昭和 年 月 日届出)

事業ノ種類	事業ノ名稱及其ノ事務所ノ所在地	事業主ノ住所氏名捺印	扶助代理人ノ住所氏名捺印
労働者災害扶助法第四條第一項ノ注文者タル事業主ガ扶助ヲ爲スベキトキハ其ノ住所氏名捺印(此ノ場合ニ於テハ前欄ノ事業主及事業ハ労働者ヲ使用スル事業主及其ノ事業トシ其ノ捺印ハ之ヲ要セズ)			
別男女氏名	常備、臨時、日別ノ日	疾病、負傷、事故ノ年月日	扶助報告届出年月日
	治療期間	支給延	障害部位
			等級
			金額
			備考

記載心得

- 一 本様式ハ労働者災害扶助責任保険法ニ依ル保險ニ付セザル事業ニ使用スルモノトス
- 二 本様式ノ用紙ハ美濃紙半折大トス
- 三 本報告ハ労働者災害扶助法施行令第十條第二項但書ノ規定ニ依リ障害扶助料ノ支給ヲ延期シタル後遲滞ナク之ヲ差出スベシ
- 四 本報告ニハ扶助ヲ受クベキ労働者ノ障害扶助料支給延期承諾書ノ寫ヲ添付スベシ
- 五 本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ障害扶助料支給ノ後三年間之ヲ保存スベシ
- 六 本報告ハ労働者一名毎ニ用紙ヲ別ニスベシ
- 七 事業ノ種類欄ニハ例ヘバ石灰石採掘業、砂利採取業、乗合自動車業、沖仲仕業、濱仲仕業、倉庫仲仕業、船舶解體事業等事業ノ性質ヲ分明ナラシムルコトヲ得ル名稱ヲ記入スベシ
- 八 事業主ノ住所氏名欄及扶助代理人ノ住所氏名欄ニハ届出タル住所氏名ヲ記入シ捺印ハ扶助代理人アルトキハ其ノ捺印ノミヲ以テ足ル
- 九 支給延期ノ期關欄ニハ例ヘバ雇傭期間中又ハ昭和 年 月 日迄ト記入スベシ

様式第三號

労働者數年報 昭和 年分

(十月一日現在)

事業ノ種類	事業ノ名稱及其ノ事務所ノ所在地		事業主ノ住所氏名捺印		扶助代理人ノ住所氏名捺印	備考
	事業主ノ住所氏名捺印	扶助代理人ノ住所氏名捺印	事業主ノ住所氏名捺印	扶助代理人ノ住所氏名捺印		
年齢別	十四歳未満	男				
	十四歳以上十六歳未満	女				
	計					
十六歳以上	男					
女						
計						

記載心得

- 一 事業主ノ都合ニ依リ本様式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ各欄内ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設クルコトヲ妨ゲズ
- 二 事業ノ種類ニハ例ヘバ石灰石採掘業、砂利採取業、鐵道運輸事業、乗合自動車業、沖仲仕業、濱仲仕業、倉庫仲仕業等事業ノ性質ヲ分明ナラシムルコトヲ得ル名稱ヲ記入スベシ
- 三 事業主ノ住所氏名欄及扶助代理人ノ住所氏名欄ニハ届出タル住所氏名ヲ記入シ捺印ハ扶助代理人アルトキハ其ノ捺印ノミヲ以テ足ル
- 四 種類ヲ異ニスル二以上ノ事業ヲ兼營スルモノニ在リテハ事業毎ニ用紙ヲ別ニスベシ但シ労働者災害扶助法第一條第一項第三號ノ事業ヲ爲スモノ其ノ事業ニ附帶スル保存修繕等ノ工事ヲ爲ストキハ同一用紙ニ記載スルヲ妨ゲズ

四、土木建築工事場安全及衛生規則

(昭和十二年九月三十日 内務省令第四一號)

改正 昭和十三年十月二十日厚生省令第二九號

第一條 本令ハ労働者災害扶助法第一條第一項第二號ノ事業ニ之ヲ適用ス

第二條 事業主ハ工事場ニ於ケル危害豫防及衛生ニ關シ一切ノ權限ヲ有スル安全衛生管理人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ安全衛生管理人ヲ選任シタルトキハ事業主ハ遲滞ナク地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ)ニ届出ツベシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ安全衛生管理人ノ改任ヲ命ズルコトヲ得

安全衛生管理人ハ本令ノ適用ニ付テハ事業主ニ代ルモノトス

第三條 事業主ハ崩壊ノ虞アル地盤ヲ掘鑿スル場合(下掘スル場合ヲ除ク)ニ於テハ危害豫防ノ爲安全ナル勾配ヲ保持スルカ又ハ適當ナル土留ヲ設クベシ

事業主ハ崩壊ノ虞アル地盤ヲ下掘シ又ハ崩壊ノ虞アル地盤ノ下方ニ於テ作業セシムル場合ニ於テハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ

- 一 十分ナル經驗ヲ有スル監視人ヲ置キ絶エズ崩壊ノ危険ヲ監視セシムルコト
- 二 不意ノ崩壊ニ因ル危害ヲ防止スル爲適時安全ナル方法ニ依リ掘鑿箇所ノ上部ヲ切落スコト
- 三 崩壊ヲ誘致スルノ虞アル雨水、地下水等ノ排水ノ爲適當ナル處置ヲ爲スコト
- 第四條 事業主ハ土石ノ崩壊又ハ落下ニ因ル危害ヲ防止スル爲掘鑿箇所ト其ノ下方ニ於ケル積込其ノ他ノ作業箇所トノ間ニ安全ナル間隔ヲ置クベシ但シ工事場狹隘ナル爲已ムヲ得ザル場合ニ於テ監視人ヲ置キ土石ノ崩壊又ハ落下ノ危険ヲ監視セシムルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第五條 事業主ハ落磐ノ虞アル場合ニ於テハ支柱其ノ他ノ落磐防止施設ヲ爲スベシ
掘鑿中落磐ノ虞アル場合ニ於テハ支柱材其ノ他坑内支持ニ必要ナル材料ヲ落磐防止作業上便宜ノ場所ニ豫メ配置スベシ
- 第六條 事業主ハ落石ニ因ル危害ヲ防止スル爲浮石ノ除去其ノ他適當ナル處置ヲ爲スベシ
- 第七條 事業主ハ物體ノ落下ニ因リ下方ノ労働者ニ危害ヲ及ボスノ虞アル場合ニ於テハ金網、板圍其ノ他適當ナル設備ヲ爲スベシ但シ已ムヲ得ザル場合ニ於テ監視人ヲ置クトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第八條 事業主ハ建築工事（破壊工事ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニ於テ労働者ガ物體ヲ三米以上ノ高所ヨリ投下スルコトヲ禁ズベシ但シ適當ナル投下樋ニ依リ又ハ作業上已ムヲ得ザル場合ニ於テ十分ナル警戒ノ下ニ投下スルコトハ此ノ限ニ在ラズ
- 労働者ハ前項但書ノ場合ヲ除クノ外物體ヲ三米以上ノ高所ヨリ投下スルコトヲ得ズ
- 第九條 架設通路ハ堅牢ナル構造ト爲シ且左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
 - 一 勾配ハ十分ノ六ヨリ急ナラザルモノトシ且其ノ十分ノ三ヨリ急ナルモノニ付テハ踏棧其ノ他適當ナル滑止ヲ設クルコト但シ適當ニ踏段ヲ設ケタルモノ又ハ高二米未満ニシテ適當ニ手掛ヲ設ケタルモノニ付テハ十分ノ六ヨリ急ナルコトヲ妨ゲズ

二 墜落ノ虞アル箇所ニハ高七十五種以上ノ堅牢ナル扶欄ヲ設クルコト但シ作業上已ムヲ得ザル場合ニ於テハ必要ナル部分ニ限り臨時取外スコトヲ得

建築工事ニ使用スル高八米以上ノ登棧橋ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用スルノ外七米以内毎ニ踊場ヲ設クルコトヲ要ス

- 第十條 梯子道ハ堅牢ナル構造ト爲シ且左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
 - 一 踏棧ヲ等間隔ニ設クルコト
 - 二 踏棧ト壁トノ間ニ適當ナル間隔ヲ保有セシムルコト
 - 三 轉位防止ノ爲適當ナル處置ヲ爲スコト
 - 四 上端ヲ床ヨリ六十種以上突出セシムルコト
 - 五 坑内梯子道ニシテ長十五米以上ノモノニ付テハ十米以内毎ニ踏棚ヲ設クルコト
- 篇函内ノ梯子道等ニシテ已ムヲ得ザルモノニ付テハ前項第四號及第五號ノ規定ヲ適用セズ
- 第十一條 足場ハ使用目的ニ應ジ堅牢ナル構造ト爲スベシ
足場板ハ二箇所以上ニ於テ之ヲ梁、柱、腕木等ニ堅固ニ取附クベシ但シ頻繁ニ移動セシムルモノニシテ安全ニ架渡セルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 第十二條 事業主ハ建築工事ニ使用スル足場ニ付テハ前條ノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ
 - 一 高二米以上ノモノノ足場板ハ幅二十一種以上、厚三・五種以上ノモノトスルコト
 - 二 高六米以上ノモノノ建設作業ニハ十分ナル經驗ヲ有スル者ヲ從事セシムルコト
- 第十三條 事業主ハ建築工事ニ使用スル側足場ニ付テハ前二條ノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ
 - 一 建地ノ間隔ハ二米五十種以下トシ地上第一ノ布ハ三米以下ノ位置ニ設クルコト但シ作業上已ムヲ得ザル場合ニ於テ適當ニ補強シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

- 二 建地ノ脚部ヲ確實ニ固定スルコト
- 三 腕木ノ間隔ハ一米五十糎以下トスルコト
- 四 建地ノ接手ハ重合接手ニ在リテハ接續部ニ於テ一米以上ヲ重ネ且二箇所以上ニ於テ緊縛シ突合接手ニ在リテハ適當ナル構造ヲ有スル二本組ノ建地又ハ適當ナル構造ヲ有スル「カツブリング」ヲ使用シ「ボルト」等ニテ締附クル鐵管製建地ヲ除クノ外長一米八十糎以上ノ添木ヲ用ヒ且四箇所以上ニ於テ緊縛スルコト
- 五 建地、布、腕木等ノ交叉部及接續部ハ金具、鐵線等ノ金屬製材料ニテ堅固ニ緊縛スルコト但シ足場ノ使用期間三月ヲ超エザルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 六 適當ナル筋違ヲ以テ補強スルコト
- 七 建設物ニ堅固ニ取附クルカ又ハ控柱ヲ設クルコト
- 八 高二米以上ノ作業床ハ幅四十二糎以上トシ足場板ノ間隙ヲ三糎以下トスルコト
- 九 高二米以上ノ作業床ニ付テハ高七十五糎以上ノ堅牢ナル扶欄ヲ設クルコト但シ作業上已ムヲ得ザルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第十四條 事業主ハ建築工事ニ使用スル吊足場ニ付テハ第十一條及第十二條（第一號ヲ除ク）ノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ
 - 一 安全荷重ヲ超エテ負荷セザルコト、
 - 二 前號ノ安全荷重ハ懸垂用鋼索ノ切斷荷重ノ十分ノ一以下トシ且突梁及足場桁ノ安全係數ガ五以上トナルヤウ之ヲ定ムルコト
 - 三 作業床ハ三米以内毎ニ金屬製ノ突梁、足場桁及懸垂用鋼索ヲ以テ堅固ニ之ヲ支持スルコト
 - 四 懸垂用鋼索ハ三十糎ノ長ノ間ニ於テ全鋼線數ノ一割以上ノ鋼線ガ切斷セルモノヲ使用セザルコト

- 五 懸垂裝置ニハ確實ナル齒止ヲ設クルコト
- 六 作業床ハ幅九十糎以上トシ幅三十糎以上、厚五糎以上ノ板ヲ間隙ナク敷キ詰メタルモノトシ且建設物トノ間隔ヲ成ルベク少クスルコト
- 七 高七十五糎以上ノ堅牢ナル扶欄ヲ設クルコト
- 八 動搖及轉位ヲ防止スル爲適當ナル處置ヲ爲スコト
- 九 乗降ノ爲已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外他ノ足場、脚立、梯子等ノ支持臺ト爲サザルコト
- 前項ノ規定ハ第三號乃至第七號ヲ除クノ外輕易吊足場ニ付之ヲ準用ス
- 第十五條 事業主ハ堅坑ノ坑口、作業床ノ開口部其ノ他墜落ノ虞アル箇所ニハ蓋、柵圍其ノ他ノ墜落防止施設ヲ爲スベシ
- 第十六條 事業主ハ堅坑内、四十度以上ノ斜面又ハ架空索道ノ支柱上等ニシテ墜落ノ虞アル場所ニ於テ労働者ヲ作業セシムル場合ニ於テハ腰綱ヲ使用セシムル等適當ナル墜落防止方法ヲ講ズベシ但シ作業上已ムヲ得ザルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第十七條 事業主ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ除クノ外起重機其ノ他ノ揚重機及架空索道ニ労働者ヲ搭乘セシムルコトヲ得ズ但シ注油、検査、修繕等作業上已ムヲ得ザルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 - 一 昇降機（昇降路ナキモノヲ除ク）
 - 二 昇降路ナキ昇降機ニシテ揚程六米未満ノモノ又ハ堅坑ノ掘鑿ニ使用スルモノ
 - 三 索道事業規則ニ於テ規定スル第一種索道ニ準ズルモノ
- 第十八條 事業主ハ労働者ノ搭乘スルコトアルベキ昇降機ニ付左ノ各號（前條第二號ノモノニ付テハ第三號、第八號及第九號ヲ除ク）ノ規定ヲ遵守スベシ
 - 一 安全荷重ヲ標記シ置クコト

- 二 前號ノ安全荷重ハ捲揚用鋼索ノ切斷荷重ノ十分ノ一以下トシ且昇降體及昇降路ノ安全係數ガ五以上トナルヤウ之ヲ定ムルコト
- 三 捲揚用鋼索及昇降體ヲ支持スル附屬金具ガ切斷又ハ破壊シタル場合等ニ於テ昇降體ノ落下ヲ防止スベキ安全裝置ヲ設クルコト
- 四 捲揚用鋼索、牽引用鋼索及支鋼索ハ三十種ノ長ノ間ニ於テ全鋼線數ノ一割以上ノ鋼線ガ切斷セルモノヲ使用セザルコト
- 五 適當ナル制動裝置ヲ設クルコト
- 六 人聲ヲ以テ合圖シ得ル場合ヲ除クノ外適當ナル信號裝置ヲ設クルコト
- 七 昇降體ニハ適當ナル天井、床及周壁ヲ設クルコト但シ上方ヨリ物體ノ落下スルノ虞ナキトキハ天井ハ之ヲ設ケザルコトヲ得
- 八 昇降路ハ其ノ動搖ヲ防止スル爲之ヲ建設物ニ固定セシムルカ又ハ適當ナル支梁若ハ支鋼索ヲ以テ堅固ニ之ヲ支持スルコト
- 九 昇降體ニ通ズル昇降路ノ出入口ニハ扉其ノ他ノ危害豫防施設ヲ爲スコト
- 第十九條 事業主ハ労働者ノ搭乘スルコトアルベキ斜面軌道捲揚裝置ニ付前條第一號、第二號前段及第四號乃至第六號ノ規定ヲ遵守スベシ
- 第二十條 事業主ハ捲揚裝置(斜面軌道捲揚裝置及昇降機、起重機其ノ他ノ揚重機ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニシテ材料ノ捲揚運搬ニ専用スルモノニ付テハ第十八條第一號及第四號乃至第六號並ニ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ
 - 一 安全荷重ハ捲揚用鋼索又ハ牽引用鋼索ノ切斷荷重ノ六分ノ一以下トシ且昇降路、架臺、柱及腕ノ安全係數ガ五以上トナルヤウ之ヲ定ムルコト

- 二 労働者ノ搭乘ヲ禁止スル旨揭示スルコト
- 三 捲揚能力二應以上又ハ支柱ノ高六米以上ノ「ガイデリック」ノ支柱ニハ六本以上ノ支鋼索ヲ適當ナル間隔ヲ以テ設クルコト
- 四 三脚「デリック」又ハ二本構「デリック」等ハ腕ノ使用極大半径ニテ最大荷重ヲ捲揚スルモ轉倒又ハ倒壞スルノ虞ナキ構造ト爲スコト
- 五 「コンクリート」昇降機ノ昇降路ハ高十五米以内毎ニ之ヲ建設物ニ固定セシムルカ又ハ四本以上ノ支鋼索ヲ設クル等堅固ニ之ヲ支持スルコト
- 六 支鋼索ニ付テハ左ノ規定ニ依ルコト
 - (イ) 適當ナル強度ヲ有スルモノヲ使用スルコト
 - (ロ) 水平面トノ角度ヲ六十度以内トスルコト但シ已ムヲ得ザル場合ニ於テ支鋼索ノ數ヲ増加スル等適當ナル補強方法ヲ講ジタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 - (ハ) 「ターンバックル」、「ローブシンブル」及「ローブクリップ」等ヲ以テ緊張スルコト
 - (ニ) 確實ナル控杭、鐵骨等ニ堅固ニ取附クルコト
- 第二十一條 事業主ハ捲揚裝置ニ依ル運搬作業ニ従事スル者ヲシテ安全荷重ヲ超エテ負荷セシムルコトヲ得ズ但シ已ムヲ得ザル場合ニ於テ當該捲揚裝置ニ關シ十分ナル知識ヲ有スル係員ノ監視ハ下ニ其ノ支障ナシト認メタル限度ニ於テ安全荷重ヲ超過スルコトヲ妨ゲズ
- 捲揚裝置ニ依ル運搬作業ニ従事スル者ハ前項但書ノ場合ヲ除クノ外安全荷重ヲ超エテ負荷スルコトヲ得ズ
- 第二十二條 事業主ハ動力ニ依リ運轉スル工事用機械(架空索道、捲揚裝置、杭打機、「コンクリート」混合機、空氣壓縮機等ヲ謂フ以下之ニ同ジ)ノ運轉手ヲ指定シ其ノ氏名ヲ運轉箇所ニ揭示シ置クベシ
- 第二十三條 事業主ハ原動機、工事用機械其ノ他ノ機械設備ノ危害ヲ生ズルノ虞アル部分ニハ適當ナル柵圍

又ハ安全装置ヲ設クベシ但シ作業上已ムヲ得ザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條 事業主ハ運搬ニ車輛ヲ使用スル場合ニ於テハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ

- 一 適當ナル制動装置ヲ備フルコト但シ專ラ平坦ナル場所ヲ緩行スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 二 駐車セル車輛ガ逸走スルノ虞アル場合ニハ適當ナル逸走防止装置ヲ設クルコト
- 三 墜落ノ虞アル軌道及車道ノ末端ニハ適當ナル車輛墜落防止装置ヲ設クルコト
- 四 軌道ハ車輛ノ脱線又ハ顛覆ノ虞ナキヤウ常ニ安全ニ維持スルコト
- 五 手押運搬車輛ノ軌道ニ付テハ左ノ條件ヲ具備セシムルコト
 - (イ) 勾配ハ十分ノ一ヨリ急ナラザルコト
 - (ロ) 十五分ノ一ヨリ急ナル勾配ノ箇所及其ノ下方二十米以内ニ於ケル曲線半徑ハ軌間ノ十五倍以下ナラザルコト

六 軌道ヲ設ケタル坑道ニシテ労働者ノ通行スルモノニハ適當ナル間隔ヲ置キ回避所ヲ設クルコト但シ軌道ノ傍側ニ相當ノ餘地ヲ存シ車輛ニ接觸スルノ虞ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十五條 火藥又ハ爆藥ヲ取扱フ者ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ

- 一 「ダイナマイト」其ノ他「ニトログリセリン」爆發藥ニシテ凍結シタルモノハ火氣ニ接近セシメ又ハ直接蒸氣ニ接觸セシムル等危険ナル方法ヲ以テ融解セザルコト
- 二 火藥又ハ爆藥ヲ裝填スルニハ鐵製具ヲ使用セザルコト
- 三 點火ハ豫メ附近ノ者ニ警告シ完全ニ避難セシメタル後ニ非ザレバ之ヲ爲サザルコト
- 四 點火後爆發セザルトキハ電氣點火法ニ依リタル場合ハ發破母線ヲ點火器ヨリ取離シタル後、其ノ他ノ方法ニ依リタル場合ハ少クとも十五分ヲ經過シタル後ニ非ザレバ發破箇所ニ近寄り又ハ附近ノ者ヲ近寄ラシメザルコト

五 裝藥ガ不發ノ場合ニ於テハ當該係員ノ指揮ヲ受ケ不意ニ爆發ノ虞ナカラシムル爲注水其ノ他適當ナル處置ヲ爲スコト

第二十六條 事業主ハ發破ノ際労働者ガ危害ノ虞ナキ遠距離ニ避難シ得ル場合ヲ除クノ外前面及上部ヲ堅固ニ防護セル避難所ヲ設クベシ

第二十七條 事業主ハ電氣又ハ瓦斯ヲ用フル金屬ノ熔接又ハ切斷ノ作業ニ關シテハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ

- 一 電氣熔接機ト電極棒トヲ連結スル導線ハ確實ナル絶緣材料ヲ以テ被覆シ且水分ニ對シ十分防護スルコト
 - 二 「アセチレン」瓦斯發生器ニハ適當ナル逆火防止装置ヲ設クルコト
 - 三 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ充填シタル容器ハ危害ヲ生ズルノ虞アル場所ニ之ヲ置カザルコト
- 第二十八條 事業主ハ可燃性瓦斯ノ存シ又ハ存スルノ虞アル坑内作業場ニ付左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ
- 一 毎日可燃性由斯ノ含有率ヲ検査スルコト
 - 二 可燃性瓦斯ノ存スル坑内作業場ニ於テハ發破其ノ他作業上已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外火氣ヲ使用セシメザルコト
 - 三 可燃性瓦斯ノ含有率百分ノ二以上ノ場所ニ於テハ労働者ヲ作業セシメザルコト
- 労働者ハ前項第二號ノ坑内作業場ニ於テハ發破其ノ他作業上已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外火氣ヲ使用スルコトヲ得ズ

第二十九條 事業主ハ高氣壓（「ゲージ」壓力一疋平方糎以上）内ノ作業ニ關シテハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ

- 一 醫師ノ診斷ニ依リ作業ニ適セズト認メラレタル者ヲ從事セシメザルコト

- 二 労働者ヲ一日ニ付二回ヲ超エテ作業セシメザルコト
- 三 労働者ノ出入ノ爲ニスル氣隔内ノ加壓及減壓ハ徐々ニ之ヲ行フコト
- 四 一回ノ作業時間(前號ノ加壓及減壓ノ時間ヲ除ク)及前號ノ減壓時間ハ左表ニ依ルコト

「ゲージ」 壓力	「カ」	一回ノ作業時間	減壓ノ時間
一・六 疋平方 以下	三時間 四十 分 以内	十五 分 以上	
二・二 疋平方 以下	三時間 以 内	二十 分 以上	
二・六 疋平方 以下	二時間 以 内	三十 分 以上	
三 疋平方 以下	一時間 以 内	四十 分 以上	
三 疋平方 以下	四十五 分 以 内	一時間 以上	

- 五 労働者一人ニ付一時間四十立方米以上ノ割合ヲ以テ新鮮ナル空氣ヲ送給スルコト
- 六 氣隔ノ扉ノ開閉ノ爲十分ナル經驗ヲ有スル氣隔係ヲ置クコト
- 七 再壓治療函ヲ設ケ其ノ取扱ニ付十分ナル知識ヲ有スル係員ヲ置クコト
- 八 高氣壓内ノ作業ニ因ル疾病ノ治療ニ當ラシムル爲適當ナル醫師ヲ囑託シ置クコト
- 九 「ゲージ」壓力三疋平方以上ナルトキハ十分ナル經驗ヲ有スル醫師ヲ置キ其ノ指揮監督ノ下ニ作業ヲ行ハシムルコト

第三十條 事業主ハ前各條ニ定ムルモノノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ

- 一 作業場ハ適當ニ之ヲ照明スルコト
- 二 送電線、瓦斯管等ガ危害ヲ生ズルノ虞アルトキハ適當ナル危害豫防方法ヲ講ズルコト
- 三 隧道ノ掘鑿作業ニ在リテハ水、瓦斯等ノ噴出ニ因リ危害ヲ生ズルノ虞アル箇所ニ付先進鑽孔ノ穿鑿其

- ノ他適當ナル處置ヲ爲スコト
 - 四 著シク粉塵ヲ飛散スル作業ヲ爲サシムル場合ニ於テハ注水其ノ他ノ粉塵防止施設ヲ爲スコト但シ已ムヲ得ザルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 - 五 前號但書ノ場合又ハ有害光線ニ曝露スル作業若ハ石片飛來ノ虞アル作業ヲ爲サシムル場合ニ於テハ之ニ從事スル労働者ニ使用セシムル爲適當ナル保護具ヲ備フルコト
 - 六 工用材料又ハ現場發生物ハ之ヲ安全ニ堆積又ハ整理スルコト
 - 七 換氣不良ナルカ又ハ有害瓦斯ノ存スル作業場ニハ衛生上必要ナル分量ノ新鮮ナル空氣ヲ送給スル等適當ナル處置ヲ爲スコト
 - 八 建築工事ニ在リテハ火氣ヲ使用スル場所ヲ一定シ労働者ガ濫リニ當該場所以外ニ於テ火氣ヲ使用スルコトヲ禁止スルコト
 - 九 水上作業ニ在リテハ浮袋其ノ他ノ救命具ヲ適當ナル箇所ニ備フルコト
- 労働者ハ前項第五號ノ場合ニ於テハ保護具ヲ使用スルコトヲ要ス
- 第三十一條 事業主ハ工事場ノ安全ニ關スル事項ヲ掌ラシムル爲安全委員ヲ選任シ左ノ各號ノ規定ヲ遵守セシメ危害豫防及衛生ニ關シ應急處置又ハ適當ナル豫防ノ處置ヲ爲サシムベシ
- 一 毎日掘鑿箇所、軌道其ノ他危害ヲ生ズルノ虞アル場所ヲ巡視シ土石ノ崩壞又ハ落下、車輛ノ脱線又ハ顛覆其ノ他ノ危険ノ有無ヲ検査スルコト
 - 二 毎日工用機械ノ磨滅、損傷又ハ轉位シ易キ部分ヲ検査スルコト
 - 三 毎月二回以上通路及足場ヲ検査スルコト
- 事業主ハ安全日誌ヲ作成シ前項ノ規定ニ依リ爲サシメタル事項其ノ他危害豫防及衛生ニ關シ爲シタル事項ヲ記載スベシ

第三十二條 地方長官ハ前各條ニ定ムルモノノ外労働者ノ安全及衛生ノ爲必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第三十三條 事業主又ハ安全衛生管理人本令又ハ本令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十四條 事業主未成年者若ハ禁治産者ナルトキ又ハ法人ナルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十五條 事業主又ハ安全衛生管理人ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十六條 本令中安全衛生管理人ニ關スル規定及事業主ニ適用スベキ罰則ハ國、道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノニ之ヲ適用セズ

第三十七條 第二十一條第二項、第二十五條又ハ第二十八條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ昭和十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條、第九條、第十條第一項、第十二條、第十三條、第十四條、第十八條乃至第二十一條、第二十三條及第二十四條ノ規定ハ本令施行後一年間（本令施行ノ際現ニ存スル工事場ニシテ本令施行後一年ヲ經過スルモ工事終了セザルモノニ付テハ其ノ終了ニ至ル迄）之ヲ適用セズ

地方長官ハ當分ノ間必要アリト認ムル工事場ニ付期限ヲ附シテ第十二條第一號ノ適用ヲ免除スルコトヲ得第十三條第五號ノ規定ハ當分ノ間之ヲ適用セズ

昭和十三年十月二十日厚生省令第二十九號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

五、労働者災害扶助法施行令第三條第二項第六號ノ疾病告示

（昭和十年十一月二十八日）
（内務省告示第五九九號）

労働者災害扶助法施行令第三條第二項第六號ノ疾病ハ左ノ通トス

- 一 炭疽病
- 二 硅肺
- 三 「ワイル」氏病
- 四 恙虫病
- 五 第二度以上ノ凍傷
- 六 日射病及熱射病

六、供給労働者扶助令（昭和七年一月八日）
（勅令第二號）

工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ノ職工及鑛夫竝ニ労働者災害扶助法ノ適用ヲ受クル事業ノ労働者ニシテ勞務供給契約ニ基キ政府ノ使用スル者業務上負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ政府ハ労働者災害扶助法施行令第四條乃至第十二條及第十五條乃至第十七條ノ規定ニ準ジ扶助ヲ爲ス但シ扶助ヲ受クベキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方長官ニ屬スル職務ハ所轄官廳之ヲ行フ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

七、労働者災害扶助責任保険法 (昭和六年四月二日 法律第五五號)

改正 昭和十六年三月五日法律第三五號

第一條 政府ハ本法ニ依リ労働者災害扶助責任保険ヲ管掌ス

第二條 労働者災害扶助責任保険ニ於テハ労働者災害扶助法、工場法又ハ鑛業法ニ基ク扶助責任ヲ保險スルモノトス

扶助責任ノ保險ヲ付スベキ事業ノ種類、保險スベキ扶助責任ノ範圍及保險料率、保險料納付期日其ノ他保險料ニ關スル事項ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 労働者災害扶助法第一條第一項第二號ハノ工事ノ事業主及勅令ノ定ムル事業主ハ政府ト保險契約ヲ締結スベシ但シ同法第三條第二項ノ場合ニ於テハ元請負人ニ於テ保險契約ヲ締結スベシ

第四條 保險契約者ヲ以テ保險金受取人トス但シ前條但書ノ規定ニ依リ元請負人ガ保險契約ヲ締結シタル場合ニ於テハ扶助ヲ引受ケタル下請人ヲ以テ保險金受取人トス

政府ハ前項ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ扶助ヲ受クベキ者ニ保險金ヲ支拂フコトヲ得

第五條 保險契約者ガ惡意又ハ重大ナル過失ニ依リ保險料算定ノ基礎タル重要ナル事實ヲ告知セズ又ハ其ノ事實ニ付不實ノ告知ヲ爲シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險金ノ全部又ハ一部ヲ支拂ハザルコトヲ得

第六條 保險契約者保險料ノ拂込ニ付遲滯シタルトキハ其ノ遲滯期間ニ於テ生ジタル事故ニ對スル保險金ニ

付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ支拂ハザルコトヲ得

第七條 保險契約者又ハ保險金受取人ガ故意若ハ重大ナル過失ニ依リ又ハ労働者災害扶助法、工場若ハ鑛業法ニ基ク危害豫防若ハ衛生ニ關スル命令ニ違反シタルニ依リ扶助責任ノ原因タル事故ヲ生ゼシメタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險金ノ全部又ハ一部ヲ支拂ハザルコトヲ得

第八條 保險金支拂ノ義務及保險料返還ノ義務ハ二年、保險料支拂ノ義務ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ依リテ消滅ス

第九條 保險契約者又ハ保險金受取人ガ労働者災害扶助責任保險ニ關スル事項ニ付政府ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルニハ中央社會保險審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ審査ノ請求ハ時効ノ中斷ニ關シテハ裁判上ノ請求ト看做ス

第十條 中央社會保險審査會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 本法ニ依ル保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セズ

第十二條 行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ本法ニ依リ扶助責任ノ保險ヲ付シ又ハ付スベキ事業ノ行ハルル場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第十三條 第三條ノ事業主保險契約ヲ締結セザルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

前項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第十四條 正當ノ事由ナクシテ當該官吏又ハ吏員ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

労働者災害扶助法第一條第一項第二號ハノ工事ニシテ本法施行前ニ著手(請負ニ依ルモノニ付テハ請負契約

ノ締結)セラレタルモノニ付テハ第三條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

八、労働者災害扶助責任保険法施行令

(昭和六年十一月二十八日
勅令第二七七號)

改正 昭和十年三月二十三日勅令第二七號 昭和十三年一月十一日勅令第二〇號
昭和十四年二月二日勅令第二五號 昭和十五年九月十八日勅令第六一四號

第一條 労働者災害扶助責任保険ニ付スル事業ハ労働者災害扶助法第一條第一項第二號(ロ)ノ注文ニ依ル工事
(以下(ロ)ノ工事ト稱ス)及同號(ハ)ノ工事トス

(ロ)ノ工事ニ於テハ工事ノ注文ヲ受ケタル者ヲ以テ労働者災害扶助責任保険法第三條ノ事業主トス
前項ノ場合ニ於テ(ロ)ノ工事ノ全部又ハ一部ガ數次ノ注文ニ依リ爲サルトキハ注文ヲ受ケタル最上級者ヲ
以テ事業主トス

労働者災害扶助責任保険法第三條ノ規定ニ依リ政府ト保險契約ヲ締結スベキ者ハ工事ノ開始前十四日迄ニ
保險契約ノ申込ヲ爲スベシ但シ已ムコトヲ得ザル場合ニ於テハ其ノ後ニ於テ保險契約ノ申込ヲ爲スコトヲ
妨ゲズ

第二條 保險スベキ扶助責任ノ範圍左ノ如シ

- 一 療養費中五圓ヲ超ユル部分
 - 二 休業扶助料中四日以後ノ休業ニ付支給スル部分
 - 三 障害扶助料
 - 四 遺族扶助料
 - 五 打切扶助料
- 第三條 前條第一號ノ療養費ノ範圍ハ左ニ掲グル療養ノ費用トス

一 診察(扶助請求ニ必要ナル診斷書意見書等ノ作成ヲ含ム)

二 藥劑又ハ治療材料ノ支給

三 處置及手術(齒科補綴ヲ含ム)

四 物理的治療

五 病院收容

六 看護

七 移送

前項ノ療養ノ費用ハ政府ノ定ムル所ニ依リ之ヲ算定ス

第一項第一號乃至第五號ノ療養ハ政府ノ承認ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外政府ノ指定スル醫師、齒科醫師又
ハ病院ニ就キ受クルモノニ限ル

第一項第四號乃至第七號ノ療養ハ政府ノ承認ヲ受ケタルモノニ限ル

第四條 第二條第五號ノ打切扶助料ハ政府ノ承認ヲ受ケ又ハ其ノ指示ニ依リ支給スルモノニ限ル

保險金受取人前項ノ指示ニ從ハザルトキハ政府ハ當該負傷又ハ疾病ニ付以後ノ療養費及休業扶助料ニ對ス
ル保險金ノ支拂ヲ爲サズ

第五條 保險期間ハ工事ノ開始ヨリ終了迄トス但シ工事開始後保險料(第七條第一項但書ノ場合ニ於テハ第
一回保險料)ノ拂込ヲ爲シタルモノニ付テハ拂込ノ翌日ヨリ工事終了迄トス

第六條 保險料ハ左ノ金額トス

- 一 請負金額ノ定アル工事(工作物ノ破壊工事ヲ除ク)ニ付テハ請負金額ニ保險料率ヲ乗ジタル額
 - 二 前號以外ノ工事ニ付テハ労働者ノ賃金總額ニ保險料率ヲ乗ジタル額
- 注文者ガ工費用物ヲ支給スル場合ニ於テハ左ノ各號ニ依リ算定シタル價額ヲ其ノ工事ノ請負金額ニ加算シ

タルモノヲ以テ前項第一號ノ保險料算定ノ基礎タル請負金額トス

一 注文者ガ購買シタル物ニ付テハ其ノ購買價格

ニ注文者ガ其ノ業トシテ生産又ハ製造シタル物ニ付テハ其ノ支給ノ時ニ最近接シテ注文者ガ販賣シタル通常ノ價格

三 前二號ノ規定ニ依リ難キ物ニ付テハ其ノ見積價格

政府ハ第一項第一號ノ規定ニ依ルヲ著シク不適當ナリト認ムルトキハ同項第二號ノ規定ニ依リ保險料ヲ定ムルコトヲ得

政府ハ工事開始後保險料(第七條第一項但書ノ場合ニ於テハ第一回保險料)ノ拂込ヲ爲シタルモノニ付工事開始後ノ拂込ガ已ムコトヲ得ザル事由ニ因ルモノト認メタルトキハ工事開始ノ日ヨリ保險料拂込ノ日迄ニ於ケル工事進捗ノ状況又ハ使用労働者延人員數ニ應ジテ保險料ヲ減額スルコトヲ得

第七條 保險契約ノ申込ヲ爲シタル者ハ已ムコトヲ得ザル場合ヲ除クノ外外工事開始前ニ保險料ヲ政府ニ拂込ムベシ但シ工事期間一年ヲ超ユルモノニ付テハ最初ノ一年分ノ保險料ヲ工事開始前ニ拂込ミ爾後各年(二年ニ滿チザルトキハ其ノ期間)分ノ保險料ヲ其ノ期間開始前ニ拂込ムコトヲ得

前項ノ保險料ハ前條第一項第一號ノ規定ニ依ルモノニ付テハ保險契約申込ノ時ニ於テ定メラレタル請負金額(注文者ガ工物支給スル場合ニ於テハ前條第二項ニ規定スル價額ノ見積額ヲ加算ス)ニ、同項第二號ノ規定ニ依ルモノニ付テハ賃金總額ノ見積額ニ保險料率ヲ乗ジタル金額トス

第一項但書ノ一年分ノ保險料ハ保險料總額ヲ豫定工事期間ノ日數ヲ以テ除シタルモノニ三百六十五(閏年ノ二月末日ヲ含ム場合ニハ三百六十六)ヲ乗ジタル金額トス但シ政府ハ工事施工計畫ノ状況ニ應ジ異ル方法ニ依リ一年分ノ保險料ヲ定ムルコトヲ得

政府ハ第二項ノ請負金額又ハ賃金總額ノ見込額ニ變更ヲ生ジタルトキ其ノ他必要アル場合ニ於テハ保險料

ノ追加拂込ヲ命ズルコトヲ得

第八條 第六條第一項第二號及前條第二項第四項ノ賃金總額ハ労働者災害扶助法施行令第十五條及第十六條ノ規定ニ依リ定ムル標準賃金額ニ使用労働者延人員(工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル職工及鑛夫ヲ除ク)ノ數ヲ乗ジタル金額トス

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ十六歳未満ノ者ハ十六歳以上ノ者ト看做ス

第九條 保險料率ハ厚生大臣之ヲ定ム

第十條 第七條ノ規定ニ依リテ拂込ミタル保險料ガ工事終了後第六條ノ規定ニ依リテ算定シタル保險料ニ比シ過不足アルトキハ政府ハ保險料ノ追加拂込ヲ命ジ又ハ之ヲ返還ス

第十一條 削除

第十二條 保險金受取人ノ行方不明、資力薄弱其ノ他ノ事由ニ因リ扶助ヲ受クルコト困難ナリト認ムル場合ニ於テハ政府ハ扶助ヲ受クベキ者ニ保險金ヲ支拂フコトヲ得

第十三條 労働者災害扶助責任保險法第五條ノ場合ニ於テハ政府ハ保險金ノ支拂ヲ爲サズ但シ保險契約者告知セザリシ事實ヲ告知シ又ハ不實ノ告知ヲ訂正シタル場合ニ於テ其ノ後ニ生ジタル事故ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 保險契約者第七條第一項但書ノ規定ニ依ル第二回以後ノ保險料ノ拂込又ハ同條第四項ノ規定ニ依ル保險料ノ追加拂込ヲ遲滞シタルトキハ政府ハ遲滞期間中ニ生ジタル事故ニ對スル保險金ノ支拂ヲ爲サズ但シ已ムコトヲ得ザル事由ニ因ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 保險契約者又ハ保險金受取人故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ扶助責任ノ原因タル事故ヲ生ゼシメタルトキハ政府ハ保險金ノ支拂ヲ爲サズ

第十六條 政府ハ事業主ガ扶助ヲ爲ス資力ナシト認ムル場合ニ於テハ前三條ノ規定ニ拘ラズ保險金ヲ支拂フ

コトヲ得

第十七條 勞働者災害扶助責任保險ハ保險院長官ニ於テ之ヲ掌ル但シ療養費ニ對スル保險金ノ支拂ニ關スル事項工事ノ主タル事務所ノ所在地(扶助開始後ニ於テ扶助ヲ受クル者ガ工事ノ主タル事務所ノ所在スル道府縣以外ノ道府縣ニ移轉シタルトキハ其ノ居住地)ヲ管轄スル地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)之ヲ掌ル第三條第三項第四項若ハ第四條第一項ノ承認若ハ指示又ハ第十二條若ハ第二條ノ規定ニ依ル認定ニ付亦同ジ

附 則

本令ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十年三月二十三日勅令第二十七號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十年四月二十日迄ニ保險契約ノ申込ヲ爲シタル工事ノ保險料ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

昭和十三年一月十一日勅令第二十號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十四年二月二日勅令第二十五號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十五年九月十八日勅令第六百十四號附則

本令ハ昭和十五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條ノ規定ハ(四)ノ工事ニシテ本令施行前注文ニ付セラレタルモノニハ之ヲ適用セズ

本令施行前生ジタル事故ニ對シ保險スベキ扶助責任ノ範圍ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

昭和十六年十一月四日勅令第九五三號附則

本令ハ昭和十六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

九、勞働者災害扶助責任保險法施行規則

(昭和六年十一月二十八日 內務省令第三三號)

改正

昭和十年三月二十六日內務省令第一六號
昭和十五年九月十八日厚生省令第三五號

第一條 保險契約ノ申込ヲ爲サントスル者ハ保險契約申込書ニ左記事項ヲ具シ記名捺印ノ上保險院長官ニ提出スベシ但シ保險契約ノ申込當時第二號ノ工事ノ主タル事務所ノ設ケナキトキハ之ヲ設ケタル後遲滞ナク届出ヅベシ

- 一 工事ノ場所、名稱及種類
- 二 工事ノ主タル事務所ノ所在地
- 三 工事ノ開始及終了ノ豫定年月日
- 四 保險契約申込者ノ住所氏名
- 五 請負ニ依ル工事ニ在リテハ注文者ノ住所氏名
- 六 使用勞働者(工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル職工及鑛夫ヲ除ク以下之ニ同ジ)男女別豫定延人員ノ概數
- 七 工事ノ豫定費用概算額(請負ニ依ル工事ニシテ請負金額ノ定マレルモノニ在リテハ請負金額)
- 八 注文者ヨリ工費用物ノ支給ヲ受クル場合ニハ其ノ種類別ノ數量及價格ノ見積額
- 九 勞働者災害扶助責任保險法施行令第六條第一項第二號ノ規定ニ依ルモノニ付テハ賃金總額ノ見込額
- 十 保險料率
- 十一 勞働者災害扶助責任保險法施行令第七條ノ規定ニ依リ拂込ムベキ保險料(以下概算保險料ト稱ス)
- 十二 總額及工事開始前ニ拂込ムベキ概算保險料額
- 十三 工事設計ノ概要

前項各號ノ事項ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク變更事項ヲ保險院長官ニ届出ヅベシ但シ勞働者災害扶助責任保險法施行令第六條第三項又ハ同令第七條第四項ノ規定ニ依リ政府ガ前項第十號及第十一號ノ事項ヲ變更シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ノ規定ニ依リ保險院長官ニ保險契約申込書ヲ提出シタルトキハ其ノ寫本ヲ添へ其ノ旨地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ニ届出ヅベシ

第二條 保險院長官保險契約ノ申込ヲ承諾シタルトキハ保險證書ヲ作成シ保險契約者ニ交付ス
保險證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ保險院長官記名捺印ス

- 一 保險證書作成ノ年月日及記號番號
 - 二 保險契約者ノ住所氏名
 - 三 工事ノ場所、名稱及種類
 - 四 工事ノ開始及終了ノ豫定年月日
 - 五 勞働者災害扶助責任保險法施行令第六條第一項第一號ノ規定ニ依ルモノニ付テハ請負金額、同項第二號ノ規定ニ依ルモノニ付テハ賃金總額ノ見込額
 - 六 保險料率
 - 七 概算保險料額
 - 八 拂込ミタル概算保險料ノ額及拂込年月日、概算保險料未拂込ノ部分アルトキハ其ノ額及拂込時期
- 第三條 勞働者災害扶助責任保險法第四條但書ノ規定ニ依リ下請負人ガ保險金受取人タル場合ニ於テハ保險契約者ハ其ノ下請負人ガ扶助ヲ引受ケタルコトヲ證スル書面ヲ添へ左記事項ヲ保險院長官ニ届出ヅベシ
- 一 保險證書ノ作成年月日及記號番號（保險證書ノ受領前ニ在リテハ工事ノ場所及名稱）
 - 二 保險契約者ノ住所氏名

三 保險金受取人ノ住所氏名及其ノ工事ニ於ケル主タル事務所ノ所在地
四 扶助ヲ引受ケシメタル工事ノ種類、範圍及其ノ使用勞働者ニ別豫定延人員ノ概數

前項各號ノ事項ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク變更事項ヲ保險院長官ニ届出ヅベシ

第四條 保險院長官ハ前條第一項ノ届出アリタルトキハ保險金受取人證書ヲ作成シ保險金受取人ニ交付ス
保險金受取人證書ニハ前條第一項各號ノ事項並ニ保險金受取人證書作成ノ年月日及記號番號ヲ記載シ保險院長官記名捺印ス

第五條 保險證書又ハ保險金受取人證書ノ記載事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ保險契約者又ハ保險金受取人ハ遲滞ナク保險證書又ハ保險金受取人證書ヲ添へ其ノ訂正ノ申請ヲ爲スベシ

勞働者災害扶助責任保險法第四條但書ノ規定ニ依リ下請負人ガ保險金受取人タル下請負人ニ至リタルトキハ保險契約者ハ其ノ旨保險院長官ニ届出ヅベシ

第六條 保險證書又ハ保險金受取人證書ヲ亡失又ハ汚損シタルトキハ保險契約者又ハ保險金受取人ハ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第七條 保險契約者ハ日日ノ使用勞働者男女別人員數ヲ記録シ毎月十日迄ニ前月分ヲ地方長官ニ届出ヅベシ但シ請負金額ニ依リ保險料ヲ定メタル場合ニ於テハ日日ノ使用勞働者男女別人員數ヲ記録スルヲ以テ足ル

第八條 保險契約者ハ工事終了後遲滞ナク左記事項ヲ保險院長官ニ届出ヅベシ

- 一 保險證書作成ノ年月日及記號番號
- 二 保險契約者ノ住所氏名
- 三 工事ノ場所、名稱及種類
- 四 工事ノ開始及終了ノ年月日
- 五 使用勞働者男女別延人員

六 請負金額ノ定アル工事ニ付テハ請負金額

七 注文者ヨリ支給ヲ受ケタル工費用物ノ有無

前項ノ届出ニ際シテハ第二十條第三項ノ規定ニ依リ委託ヲ受ケタル注文者ノ申告書ヲ併セテ提出スベシ

第九條 保險金受取人労働者災害扶助責任保險法施行令第三條第三項ノ承認ヲ受ケントスルトキハ左記事項ヲ具シ地方長官ニ申請スベシ

一 保險證書ノ作成年月日及記號番號（保險金受取人保險契約者ナラザルトキハ保險金受取人證書ノ作成年月日及記號番號）但シ保險證書又ハ保險金受取人證書受領前ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金受取人ノ住所氏名及工事ノ場所及名稱

二 労働者災害扶助法施行規則第五條ノ労働者死傷報告届出ノ年月日

三 扶助ヲ受クル者ノ住所氏名及生年月日

四 療養ヲ擔當スル者ノ住所氏名、職業及學位又ハ稱號

五 傷病ノ部位及經過

六 療養ノ内容

七 療養ニ要スル費用ノ見込額

八 政府ノ指定スル醫師、齒科醫師又ハ病院ニ就キ療養ヲ受クルコト能ハザル事由

第十條 保險金受取人労働者災害扶助責任保險法施行令第三條第四項ノ承認ヲ受ケントスルトキハ前條第一號乃至第三號及第五號乃至第七號ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ申請スベシ

前項ノ申請ニハ醫師又ハ齒科醫師ノ意見書ヲ添附スベシ

第十一條 前二條ノ規定ハ労働者災害扶助責任保險法施行令第十二條ノ規定ニ依リ政府ヨリ保險金ノ支拂ヲ受クル者ガ労働者災害扶助責任保險法施行令第三條第三項又ハ同條第四項ノ承認ヲ受ケントスル場合ニ之ヲ準

用ス但シ申請書ニ保險證書、保險金受取人證書又ハ労働者死傷報告ニ關スル事項ヲ記載スルコト能ハザルトキハ保險金受取人ノ住所氏名、工事ノ場所及名稱、事故發生ノ年月日並ニ事故ノ原因及發生狀況ヲ記載スベシ

第十二條 労働者災害扶助責任保險法施行令第三條第三項又ハ同條第四項ノ承認ノ申請ハ療養ヲ擔當スル者ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第九條、第十條及前條但書ノ規定ヲ準用ス

第十二條ノ二 保險金受取人療養擔當者ヲ變更セントスルトキハ左記事項ヲ具シ豫メ地方長官ニ届出ヅベシ但シ新ニ療養ヲ擔當セントスル者現ニ療養ヲ擔當スル者ト同一道府縣内ニ居住スルトキハ此ノ限ニ在ラズ
一 保險證書ノ作成年月日及記號番號（保險金受取人保險契約者ナラザルトキハ保險金受取人證書ノ作成年月日及記號番號但シ保險證書又ハ保險金受取人證書受領前ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金受取人ノ住所氏名及工事ノ場所及名稱

二 労働者災害扶助法施行規則第五條ノ労働者死傷報告届出ノ年月日

三 扶助ヲ受クル者ノ住所氏名及生年月日

四 現ニ療養ヲ擔當スル者ノ住所氏名

五 新ニ療養ヲ擔當セントスル者ノ住所氏名

第十三條 保險金受取人労働者災害扶助責任保險法施行令第四條第一項ノ承認ヲ受ケントスルトキハ左記事項ヲ具シ地方長官ニ申請スベシ

一 第九條第一號乃至第三號ニ掲グル事項

二 扶助ニ關スル從來ノ經過及扶助ヲ打切ラントスル事由

前項ノ申請ニハ扶助ヲ受クル者ノ現在ノ症狀及將來ノ療養見込日數ニ關スル醫師ノ意見書ヲ添附スベシ
第十四條 保險金受取人保險金ノ支拂ヲ受ケントスルトキハ労働者毎ニ左記事項ヲ記載シタル請求書ヲ保險

院長官（療養費ニ對スル保險金請求書ハ地方長官）ニ提出スベシ

一 第九條第一號、第二號及第五號ニ掲グル事項

二 傷病者又ハ死亡者ノ住所氏名及生年月日

三 勞働者治癒シタルトキ又ハ死亡シタルトキハ其ノ年月日、未治癒ノトキハ其ノ旨

四 扶助種類別保險金額、療養ノ扶助ニ付テハ費用ノ詳細、休業扶助料ニ付テハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザリシ日數及年月日、障害扶助料ニ付テハ障害ノ概要及該當等級、遺族扶助料ニ付テハ之ヲ受ク

ル者ノ住所氏名、生年月日及本人トノ續柄

前項ノ請求書ニハ左記書類ヲ添附スベシ

一 療養費ニ付テハ療養ヲ擔當スル者ノ受取書但シ療養ヲ擔當スル者保險金受取人ノ委任ヲ受ケテ保險金

ノ支拂ヲ請求スル場合ニハ之ヲ添附スルコトヲ要セズ

二 休業扶助料、障害扶助料、遺族扶助料及打切扶助料ニ付テハ扶助料ヲ受ケタル者ノ受取書其ノ他扶助

料ヲ支給シタルコトヲ證スル書類但シ扶助ヲ受クベキ者保險金受取人ノ委任ヲ受ケ保險金ノ支拂ヲ請求

スル場合ニハ之ヲ添附スルコトヲ要セズ

三 休業扶助料ニ付テハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザリシコトニ關スル醫師又ハ齒科醫師ノ意見書

四 病院收容ノ場合ニ於テ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者アルトキハ之ヲ證スル書類

五 障害扶助料ニ付テハ當該等級ニ相當スルコトヲ證スル醫師又ハ齒科醫師ノ診斷書

六 遺族扶助料ニ付テハ醫師ノ死亡診斷書、警察官署ノ檢死證又ハ市町村長ノ埋火葬認許證寫其ノ他死亡

ヲ證スル書類及死亡者ノ戶籍謄本其ノ他扶助料ヲ受クベキ者ト本人トノ續柄ヲ證スル書類

第十五條 削除

第十六條 扶助ヲ受クベキ者勞働者災害扶助責任保險法施行令第十二條ノ規定ニ依リ保險金ノ支拂ヲ受ケン

トスルトキハ左記事項ヲ記載シタル請求書ヲ保險院長官（療養費ニ對スル保險金請求書ハ地方長官）ニ提出スベシ

一 第十四條第一項各號ノ事項

二 事業主ヨリ扶助ヲ受クルコト困難ナル事由

三 既ニ受ケタル扶助ノ内容（療養ニ付テハ療養ヲ擔當スル者ノ住所氏名及療養費、休業扶助料ニ付テハ

休業年月日及期間並ニ金額、障害扶助料ニ付テハ其ノ該當等級及金額）

前項ノ請求書ニ付テハ第十一條但書及第十四條第二項（第二號ヲ除ク）ノ規定ヲ準用ス

保險院長官又ハ地方長官第一項ノ請求書ヲ受ケ扶助ヲ受クベキ者ニ直接保險金ヲ支拂ヒタルトキハ保險金

受取人ニ其ノ旨通知ス

第十七條 第九條乃至前條ノ適用ニ付勞働者扶助法施行規則第五條ノ規定ニ依ル勞働者死傷報告ノ届出ヲ爲

スコトヲ要セザル場合ニ於テハ勞働者死傷報告届出ノ年月日ニ代ヘ事故ノ原因及發生狀況ヲ記載スベシ

第十八條 保險契約者及保險金受取人ハ工事ノ主タル事務所（工事終了後ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金

受取人ノ住所）ニ保險ニ關スル書類ヲ備置クベシ

保險ニ關スル書類ハ扶助ノ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存スベシ

第十九條 本則ニ依リ保險院長官ニ提出スベキ書類ハ工事ノ主タル事務所ノ所在地（保險金ノ請求ニ付テハ

扶助開始後ニ於テ扶助ヲ受クル者ガ工事ノ主タル事務所ノ所在スル道府縣以外ノ道府縣ニ移轉シタルトキ

ハ其ノ居住地）ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スベシ但シ第一條第一項ノ保險契約申込書ニ付テハ此ノ限ニ在

ラズ

第二十條 勞働者災害扶助責任保險ニ付スル工事ノ注文者請負者ニ工費用物ヲ支給シタルトキハ工事終了後

遲滯ナク其ノ支給シタル物ノ種類別數量及左ノ各號ニ依リ算定シタル價額ヲ保險院長官ニ申告スベシ

- 一 注文者が購買シタル物ニ付テハ其ノ購買價格
 - 二 注文者が其ノ業トシテ生産又ハ製造シタル物ニ付テハ其ノ支給ノ時ニ最近接シテ注文者が販賣シタル通常ノ價格
 - 三 前二號ニ依リ難キ物ニ付テハ其ノ見積價格
- 地方長官ハ前項ノ注文者ニ對シ請負金額其ノ他必要ト認ムル事項ノ申告ヲ命ズルコトヲ得
- 第一項ノ申告書ハ保險契約者ニ委託シテ之ヲ提出スベシ
- 第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 一 第一條第一項但書、同條第二項、同條第三項、第七條、第八條又ハ第十八條ノ規定ニ違反シタル者
 - 二 前條ノ申告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ申告ヲ爲シタル者
 - 三 本則ニ依リ保險院長官又ハ地方長官ニ提出スル書類ニ虚偽ノ事實ヲ記載シタル者
- 第二十二條 勞働者災害扶助責任保險ニ付スル工事ノ注文者、保險契約者、保險金受取人又ハ扶助ヲ受クベキ者未成年者若ハ禁治産者ナルトキ又ハ法人ナルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 第二十三條 勞働者災害扶助責任保險ニ付スル工事ノ注文者保險契約者又ハ保險金受取人ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
- 第二十四條 本則ノ罰則ハ道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキ公共團體ニ之ヲ適用セズ
- 附 則
- 本則ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十年三月二十六日內務省令第十六號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十年四月二十日迄ニ保險契約ノ申込ヲ爲シタル工事ニ關スル注文者ノ支給物ニ關スル届出ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

昭和十五年九月十八日厚生省令第三十五號附則

本令ハ昭和十五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年十一月五日厚生省令第五十二號附則

本令ハ昭和十六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

一〇、勞働者災害扶助責任保險ニ於ケル保險料率告示

(昭和十五年九月十八日 厚生省告示第二八八號)

勞働者災害扶助責任保險ニ付スル工事ノ保險料率ハ別表ノ通トス

一 工事ニシテ二以上ノ種類ヲ包含スルトキハ高キ料率ニ據ル但シ其ノ種類毎ニ請負金額又ハ賃金額ガ區分セラルル場合ニハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

昭和六年^{十一月}內務省告示第二百六十六號ハ之ヲ廢止ス

工 事	種 類	請負金一萬圓當リノ保險料	賃金一圓當リノ保險料
勞働者災害扶助法第一條第一項第二號(ロ)ノ工事		四三. 円	六三. 円
障 道 工 事		一一四	四五

地下鐵道(但シ開鑿式ニシテ上表面ヲ一般建設工事(交通ノ用ニ供セザルモノヲ除ク)	一六六	三二〇
水力發電用建設土木工事	二一四	一〇五
鐵道軌道工事	六六	三八
河川工事	二三	一六
土地整理工事	五六	三四
道路鋪裝工事	四六	二二
道路工事	一八	二〇
建築物ノ破壊工事	一八	四五
建築工事	一八	二〇
鐵骨鐵筋又ハ鐵筋混凝土造家屋建築工事	二七	三八
鐵骨家屋建築工事	二〇	三五
家屋附帶設備工事	六	一一
機械器具ノ組立又ハ据付工事	二二	六五
橋梁工事	五二	三二
其他ノ工事	三五	二九

一一、(參考) 勞働者災害扶助責任保險料率適用工事分類表

(昭和十四年十一月一日施行) (昭和十五年十月一日改正)

保險料率ノ名稱及料率	適用工事ノ種類
<p>勞働者災害扶助法第一條第一項 第二號(ロ)ノ工事</p> <p>(請負金一萬圓當リ 四三圓 賃金一圓當リ 六三厘)</p>	<p>(一) 鐵道、軌道若ハ索道ノ運輸事業又ハ水道、電氣若ハ瓦斯ノ事業ニ於ケル使用中ノ工作物(作業ノ運行ニ直接關係ナキモノヲ除ク)ノ保存、修理、變更、破壊若ハ小擴張工事(例ヘバ(一)鐵道、軌道若ハ索道ノ運輸事業ニ於ケル保線工事、支柱ノ建設又ハペンキ塗替工事、索條、電線若ハ線路ノ修理、變更若ハ架換工事(二)水道、電氣若ハ瓦斯ノ事業ニ於ケル水道管又ハ瓦斯管ノ埋設工事、電柱建設工事、電線ノ修理若ハ架換工事、電燈ノ取付又ハ瓦斯ノ引込工事、水道、電氣若ハ瓦斯ノ供給ノ爲ノ小擴張工事(三)之等ノ事業ニ於ケル使用中ノ工作物(作業ノ運行ニ直接關係ナキモノヲ除ク)ノ破壊工事但シ機械、器具、軌條、鐵桁及埋設スル鐵管、ヒューム管、エタニツトパイプ、山型鋼、溝型鋼、鋼矢板及地中電纜ノ價格ハ保險料算定ノ基礎タル請負金額中ニ算入セズ)</p>

<p>隧道工事</p> <p>(請負金一萬圓當リ 一四四圓 賃金一圓當リ 四五圓)</p>	<p>(一) 隧道開鑿ニ關スル一切ノ工事(例ハバ隧道、導坑ノ掘鑿及卷立、裏填工事、排水溝ニ關スル工事)</p> <p>(二) 隧道、導坑ノ改良、修繕、復舊ニ關スル工事(例ハバ道床位ノ切下、内部改良、側壁修繕等ニ關スル工事但シ既設隧道又ハ導坑内ノ電線ノ架設、電燈ノ取付、軌條ノ敷設、路面舗装、砂利撒布等ノ工事ヲ除ク)</p> <p>(三) 隧道式ニ依ル地下道、水路、煙道工事</p>
<p>地下鐵道建設工事</p> <p>(但シ開鑿式ニシテ上表面ヲ一般交通ノ用ニ供セザルモノヲ除ク)</p> <p>(請負金一萬圓當リ 一六六圓 賃金一圓當リ 三二〇圓)</p>	<p>(一) 地下鐵道建設ニ關スル一切ノ工事(例ハバ路面覆土、卷立、階段通路、乗降場、鐵構框塗裝等ニ關スル工事但シ出入口上家建築工事ヲ除ク)</p>
<p>水力發電用建設土木工事</p> <p>(請負金一萬圓當リ 二一四圓 賃金一圓當リ 一〇五圓)</p>	<p>(一) 水力發電所建設ニ關スル一切ノ土木工事(例ハバ隧道、堰堤、土砂吐、魚道、舟筏路、流木路、取入口、沈砂池、吐水及餘水路、放水路、橫坑、蓋渠、水壓鐵管路、橋梁、道路、水槽、土捨場、敷地ノ造成等ニ關スル工事、但シ家屋建築工事、機械、鐵管等ノ組立又ハ据付工事、送電線路、鐵塔等ノ建設工事、索道建設工事ヲ除ク)</p>
<p>鐵道軌道工事</p> <p>(請負金一萬圓當リ 六六圓 賃金一圓當リ 三八圓)</p>	<p>(一) 鐵道、軌道ノ新設、改修、復舊等ニ關スル工事</p> <p>(二) 地下鐵道建設工事(但シ開鑿式ニシテ上表面ヲ一般交通ノ用ニ供スルモノヲ除ク)</p> <p>(三) 既設地下鐵道ノ修繕、復舊ニ關スル工事</p> <p>(四) 踏切其ノ他除害、線路維持等ノ設備ニ關スル工事</p> <p>(五) 隧道内及隧道外ノ軌條ノ敷設工事(但シ軌條ノ價格ハ保險料算定ノ基礎タル請負金額ニ算入セズ)</p> <p>(六) 地下鐵道ノ軌條敷設工事</p>
<p>河川工事</p> <p>(請負金一萬圓當リ 二二三圓 賃金一圓當リ 一六圓)</p>	<p>(一) 河川(運河ヲ含ム)又ハ其ノ附屬物ノ改修、維持、修繕等ニ關スル工事(例ハバ堰堤、護岸、堤防等ニ關スル工事)</p> <p>(二) 閘門、水門、樋門、陸閘等ノ新設、改修、維持等ニ關スル工事</p> <p>(三) 灌漑用水路其ノ他各種水路中河川ニ準ズルモノニ關スル工事(隧道ニ依リ通水セシムルモノハ隧道工事トス)</p> <p>(四) 砂防ニ關スル工事</p>
<p>土地整理工事</p> <p>(請負金一萬圓當リ 五六圓 賃金一圓當リ 三四圓)</p>	<p>(一) 土地整理、耕地整理、區劃整理、敷地造成、埋立等ニ關スル工事並ニ之ニ附帶シテ行ハル排水、配管、植樹等ニ關スル工事(但シ海面理立工事ヲ除ク)</p> <p>(二) 廣場造成工事(例ハバ飛行場、ゴルフ場、競馬場、競技場等)</p>

<p>道 路 工 事</p> <p>(請負金一萬圓當リ 四六圓 二二厘)</p>	<p>道 路 工 事</p> <p>(請負金一萬圓當リ 二〇厘)</p>	<p>工 作 物 ノ 破 壊 工 事</p> <p>(請負金一萬圓當リ 四五厘)</p>
<p>(三) ノ造成ニ關スル工事、但シ展壓、芝張工事ヲ除ク) 開墾工事</p>	<p>(一) 道路ノ新設、改築、復舊、修繕等ニ關スル工事</p> <p>(二) 道路ノ附屬物(橋梁ヲ除ク)ニ關スル工事(例ヘバ溝渠、柵、標識等ニ關スル工事)</p> <p>(三) 道路ノ除害設備ニ關スル工事</p> <p>(四) 地下道建設工事(但シ隧道ノ様式ニ依ルモノハ隧道工事トス)</p> <p>(五) 橋梁ノ取付道路工事</p>	<p>(一) 道路、運動場、飛行場及同滑走路、荷揚場、プラットホーム、棧橋、工場ノ構内、岸壁、橋梁面等ノ鋪裝工事</p> <p>(二) 道路鋪裝工事ニ隨伴スル附帶工事(例ヘバ街渠、境界石ノ敷設、路上工作物及地下埋設物ノ整理等ノ工事)</p> <p>(三) 隧道内ニ於ケル道路ノ鋪裝工事</p> <p>(四) 砂利撒布工事</p> <p>(五) 飛行場、ゴルフ場、競馬場、競技場等ノ展壓芝張工事</p>

<p>建 築 工 事</p> <p>(請負金一萬圓當リ 一八圓 二〇厘)</p>	<p>(一) 一般家屋建築工事(例ヘバ木造、煉瓦造、石造、無筋混泥土造等ノ家屋ノ建築工事)</p> <p>(二) 雜 工 事</p> <p>(1) 鐵塔、櫓ノ建設、修繕、塗裝等ノ工事</p> <p>(2) 送電線路、通信線路ノ建設工事</p> <p>(3) 鳥居、燈籠、記念塔(碑)、銅像、廣告塔、石像、スタンド、タンク等ノ建設工事</p> <p>(4) 煙突、煙道(地上ニ建設スルモノニ限ル)、風洞等ノ工事</p> <p>(5) 跨線橋建設工事(但シホームヨリホームニ架渡シタルモノニ限ル)</p> <p>(6) 家屋附屬物ノ建設ニ關スル工事(例ヘバ門、塀、柵、庭園等ニ關スル工事)</p> <p>(7) 類雪止柵建植工事</p> <p>(8) 爐ノ建設、修繕、改修等ニ關スル工事</p> <p>(9) 鐵管ノ敷設(埋設ヲ除ク)、組立、据付ニ關スル工事</p> <p>(10) 建築物ノ解體、取外シ、撤去ノ工事(但シ破壊ノ觀念ニ入ルベキ程度ノモノヲ除ク)</p>
<p>(一) 鐵骨鐵筋混泥土造家屋建築工事</p> <p>(二) 鐵筋混泥土家屋建築工事</p>	<p>四七三</p>

鐵骨鐵筋又ハ鐵筋混
凝土造家屋建築工事
(請負金一萬圓當リ 二七圓
賃金一圓當リ 三八圓)

- (三) 鐵筋混凝土ブロック造家屋建築工事
- (四) 前記家屋ノ外装工事
- (五) 鐵骨鐵筋又ハ鐵筋混凝土造高架線、高架橋、陸橋、水管橋、瓦斯管橋、道路橋、棧橋等ノ架設工事(但シ水上ニ架渡シタルモノニシテ橋梁工事ノ態様ヲ以テ施工セラルルモノヲ除ク)

鐵骨家屋建築工事
(請負金一萬圓當リ 二〇圓
賃金一圓當リ 三五圓)

- (一) 鐵骨鐵網モルタル塗家屋建築工事
- (二) 鐵骨スレート張家屋建築工事
- (三) 鐵骨鐵板張又ハ鐵骨板張家屋建築工事
- (四) 家屋式ニ依ル鐵骨造積雪覆建築工事

家屋附帶設備工事
(請負金一萬圓當リ 六圓
賃金一圓當リ 一二圓)

- (一) 電氣、電燈、電話等ノ設備工事(但シ電話局ニ於ケル自動電話交換機、配電裝置等規模特大ナルモノヲ除ク)
- (二) 給水、給湯、飲料水冷却等ノ設備ニ關スル工事
- (三) 衛生、消火ノ設備ニ關スル工事(但シ防火壁ヲ除ク)
- (四) 防空施設中採光面蔭蔽等ノ設備ニ關スル工事
- (五) 暖冷房、換氣、乾燥、溫濕度調整等ノ設備ニ關スル工事
- (六) 氣送、傳聲、送風、排氣等ノ設備ニ關スル工事
- (七) 除塵、冷却等ノ設備ニ關スル工事
- (八) 劇場、公會堂等ノ内部設備工事

機械器具ノ組立又ハ据付工事
(請負金一萬圓當リ 二二圓
賃金一圓當リ 六五圓)

- (九) 隧道又ハ地下鐵道内ニ於ケル電線ノ架設又ハ電燈ノ取付工事(但シ既設又ハ内面卷立後ノ隧道又ハ地下鐵道内ニ於ケル工事ニ限ル)
- (一〇) 家屋(構造ノ如何ヲ問ハズ)ノ模様替工事
- (一) ボイラー、起重機、揚重機ノ組立又ハ据付ニ關スル工事
- (二) 電氣收塵機、空氣壓縮機、乾燥機、運搬機等ノ組立又ハ据付ニ關スル工事
- (三) 制水門捲上機(機械的機能ヲ有スルモノニ限ル)、石炭陸揚機、送炭機、運炭裝置、粉炭裝置、自動燃燒裝置、骸炭押出機、洗炭機等ノ組立又ハ据付ニ關スル工事
- (四) 著力機、汚物處分場ニ於ケル掻集機、自動秤量運搬裝置等ノ組立又ハ据付ニ關スル工事
- (五) 原石粉碎裝置、砂利選別裝置、自動除灰裝置等ノ組立又ハ据付ニ關スル工事
- (六) 自動電話交換機ノ組立又ハ据付ニ關スル工事
- (七) 石油精製裝置、バルブ製造裝置等ノ組立又ハ据付ニ關スル工事
- (八) 索道建設工事
- (九) 昇降機ノ設備ニ關スル工事

橋梁工事 (請負金一萬圓當リ 五二圓) (賃金一圓當リ 三二圓)	(一) 橋梁ノ架設、補強、防護ニ關スル工事(水管橋、瓦斯管橋、棧橋、高架橋、道路橋ヲ含ム但シ水上ニ架渡シタルモノニシテ橋梁工事ノ態様ヲ以テ施工セラルルモノニ限ルモノトシ鐵桁ノ架設ノ場合ニ於テハ鐵桁ノ價格ハ保險料算定ノ基礎タル請負金額中ニ加算セザルモノトス)
其ノ他ノ工事 (請負金一萬圓當リ 三五圓) (賃金一圓當リ 二九圓)	(二) 海岸又ハ港灣等ニ關スル工事(例ヘバ防波堤、岸壁、築港灣、船溜場等ニ關スル工事) (三) 地下ニ構築スル各種槽ノ工事 (四) 鐵管、ヒューム管、瓦斯管、地中線、エタニットパイプ、鋼材等ノ埋設ニ關スル工事(但シ鐵管、ヒューム管、エタニットパイプ、山型鋼、溝型鋼、鋼矢板、地中電纜ノ價格ハ保險料算定ノ基礎タル請負金額中ニ算入セズ) (五) 貯水池、湖沼、鐵毒沈澱池、プール等ノ設備ニ關スル工事 (六) 上下水道ニ關スル工事(但シ引水路ニシテ河川ノ態様ヲ備フルモノハ河川工事ト看做ス) (七) 擁壁築造工事(但シ道路ノ擁壁ハ道路、鐵道軌道ノ擁壁ハ鐵道軌道工事トス)
備考 一 適用工事ノ種類欄ニ記載ナキモノ又ハ記載アルモ申込書ノ設計概要ニ記載ノ規模又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ本分類ニ依ルヲ適當ナラズト認メラルルモノニ付テハ夫々保險料率決定ノ趣旨ニ依リ適當ナル料率ヲ適用スルモノトス 二 一工事ニシテ二種類以上ノ工事ヲ包含スル工事ニ在リテハ區分セラレタル工事ノ種類ニ依ル 三 「機械器具ノ組立又ハ据付工事」ノ料率ヲ適用スル工事ノ保險料算定ノ基礎タル請負金額中ニハ當該工事ニ使用セラルル工物中機械器具ノ價格ハ之ヲ算入セザルモノトス	(八) 公園ニ關スル工事 (九) 防空壕ノ設備ニ關スル工事 (十) 其ノ他他ノ料率ノ適用ヲ受ケザル工事

一一、労働者災害扶助責任保險特別會計法

(昭和六年四月二日 法律第五十六號)

- 第一條 労働者災害扶助責任保險法ニ依ル労働者災害扶助責任保險事業ヲ經營スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歳入ヲ以テ其ノ歳出ニ充ツ
- 第二條 本會計ニ於テハ保險料、積立金ヨリ生ズル收入、借入金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ保險金、保險料ノ返還金、保險施設費、借入金及其ノ利子、一時借入金ノ利子、事業取扱費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歳出トス
- 第三條 本會計ニ於テ決算上剩餘金ヲ生ズルトキハ之ヲ積立ツベシ

本會計ノ歲計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スベシ
 第四條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ借入ヲ爲スコトヲ得ル金額ハ純保險料ヲ以テ保險金及保險料ノ返還金ヲ支辨スルニ不足
 スル金額ヲ限度トス
 第五條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルコトヲ得
 第六條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ規定ニ依ル一時借入金ハ當該年度内ニ之ヲ返還スベシ
 第七條 本會計ノ積立金ハ國債ヲ以テ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得
 第八條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ
 第九條 本會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル事業費ノ支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得
 第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ昭和六年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
 一般會計ハ昭和六年度ニ限り其ノ豫算ノ定ムル金額ヲ本會計ニ繰入ルルコトヲ得

一三、労働者災害扶助責任保險特別會計規則

(昭和六年八月三十一日)

改正 昭和十三年一月十一日勅令第二〇號

第一條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ
 前項ノ豫定計算書ニハ其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ貸借對照表及損益計算表並ニ其ノ年三月
 三十一日現在ノ積立金明細目錄ヲ添附スベシ
 第二條 歳入歳出ノ豫算ハ決定ノ後豫備費ヲ除キ所管大臣保險院長官ニ命ジテ之ヲ執行セシムベシ但シ他ノ
 官吏ニ命ジテ其ノ一部ヲ執行セシムルコトヲ得
 第三條 本會計ニ於テハ當該年度ノ收入濟歳入額及労働者災害扶助責任保險特別會計法第六條ニ規定スル一
 時借入金ヲ以テ支拂元受高トシ歳出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ズ
 第四條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足ヲ生ジタルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ノ承認ヲ經テ労働者災害扶助
 責任保險特別會計法第六條ニ規定スル一時借入金ニ代ヘ積立金ニ屬スル現金ヲ前條ノ支拂元受高ニ繰替使
 用スルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ繰替使用シタル金額ハ當該年度内ニ之ヲ返還スベシ
 第五條 保險料收入ノ年度所屬ハ其ノ保險料ヲ納付スベキ日ノ屬スル年度ニ依ル
 第六條 毎年度内ニ收入ヲ爲スベキ權利ヲ得テ毎年度出納ノ完結迄ニ收入濟ト爲ラザルモノハ收入未濟トシ
 テ遞次翌年度ニ繰越シ現ニ收入ヲ爲シタル年度ノ歳入ニ組入ルベシ
 第七條 毎年度内ニ支拂ヲ爲スベキ義務ヲ生ジ毎年度出納ノ完結迄ニ支拂濟ト爲ラザル歳出ニシテ時効完成
 ニ至ラザルモノハ支出未濟トシテ遞次翌年度ニ繰越スベシ但シ支出濟額ト合シテ豫算額ヲ超過スルコトヲ
 得ズ

第八條 毎年度ノ歳入ノ收入済額ヨリ歳出ノ支出済額、翌年度繰越額、未經過保険料及支拂備金ニ相當スル金額ヲ控除シ残餘アルトキハ之ヲ積立金ニ組入レ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スベシ

前項ニ規定スル未經過保険料及支拂備金ノ計算ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第九條 歳入徴收官ハ毎月徴收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ之ヲ保険院長官ニ送付スベシ

第十條 保険院長官ハ徴收報告書ニ依リ毎月徴收總報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付ズベシ

第十一條 支出官ハ毎月支出済額報告書ヲ調製シ之ヲ保険院長官ニ送付スベシ

第十二條 保険院長官ハ支出済額報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製シ支出済額報告書ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第十三條 歳入徴收官又ハ支出官一人ナル場合ニ於テハ徴收報告書又ハ支出済額報告書ヲ以テ徴收總報告書又ハ支出總報告書ニ充ツルコトヲ得

第十四條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第十五條 保険院ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ労働者災害扶助責任保険ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スベシ

第十六條 貸借對照表及損益計算表ノ様式ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第十七條 保険院ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定済額、收入済額不納缺損額及收入未済額ヲ登記スベシ

第十八條 支出官ハ支出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出済額及殘額ヲ登記スベシ

第十九條 保険院ハ歳出簿及支拂元受高差引簿ヲ備ヘ歳出簿ニハ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出済額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記シ支拂元受高差引簿ニハ支拂元受高、支拂済額及殘額ヲ登記スベシ但シ支出官一人ナル場合ニ於テハ支拂元受高差引簿ヲ省略スルコトヲ得

第二十條 本令ニ規定セザルモノニ付テハ會計規則ヲ準用ス

附 則

本令ハ労働者災害扶助責任保険特別會計法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年一月十一日勅令第二十號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一四、労働者災害扶助責任保険法施行令第三條第三項ノ政府ノ指定スル醫師、齒科醫師又ハ病院指定ノ件

(昭和六年十二月十四日
内務省告示第二八一號)

労働者災害扶助責任保険法施行令第三條第三項ノ政府ノ指定スル醫師、齒科醫師又ハ病院ハ左ノ通トス

一 健康保険法施行令第七十五條ノ規定ニ依リ政府ノ指定シタル醫師又ハ齒科醫師

二 昭和二年勅令第二百六十八號健康保険ノ療養ノ給付ヲ爲ス大學附屬醫院等ニ關スル件第四條ノ規定ニ依リ内務大臣ノ定メタル病院

一五、政府ト日本醫師會トノ間ニ於ケル診療協定書

協 定 書

労働者災害扶助責任保険法ニ基キ政府ノ保険スル事業ニ於ケル療養ノ扶助ニ關シ政府ト日本醫師會トノ間ニ協定スルコト左ノ如シ

第一條 日本醫師會ハ健康保険ノ保険醫ヲシテ本協定ニ定ムル所ニ依リ政府ノ保険スル土木建築工事ニ於ケ

ル業務上ノ死傷病者ニ對スル診療ヲ擔當セシメ其ノ診療ニ支障ナカラシムルニ努ムルモノトス
 第二條 政府ハ日本醫師會ニ屬スル健康保險ノ保險醫ヲ本保險ノ指定醫トスルモノトス
 第三條 日本醫師會ハ同會ニ屬スル本保險ノ指定醫ヲシテ本協定ニ依ル診療ニ關シ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ遵守セシムルモノトス

- 一 常ニ公正ニシテ懇切ナル態度ヲ以テ診療ニ當ルコト
- 二 診療ハ健康保險ニ付政府ニ於テ定メタル方針ニ從ヒ之ヲ行フコト
- 三 診療費ハ日本醫師會健康保險診療報酬點數計算規程（第四條及第五條ヲ除ク）ニ依リ算定スルコト同規程中點數ヲ以テ定メアルモノノ單價ハ政府ノ保險スル部分ニ付テハ政府ニ於テ支拂フ時ニ於テ判明セル最近三月ノ各月ニ於ケル政府管掌ノ健康保險ノ診療報酬トシテ保險醫ニ分配スル一點單價ノ全國平均トシ其ノ額十七錢ヲ下ルトキハ十七錢トシ政府ノ保險セザル部分ニ付テハ一點ノ單價ハ二十錢トスルコト
- 診療費ノ算定ニ付點數ニ依ルモノト金額ノ定メアルモノト兩者ヲ包含スル場合ニ於テハ先ヅ點數ニ依ルモノヲ事業主ノ負擔部分トスルコト
- 四 診療ニ關スル保險金ニ付事業主ノ委託ヲ受ケ政府ニ請求ヲ爲スモノハ毎月之ヲ取纏メ翌月十日迄ニ之ヲ爲スコト此ノ場合ニハ點數ヲ以テ定メアルモノニ付テハ點數ヲ記載シ一點單價決定後政府ニ於テ金額ヲ定ムルモノトス
- 五 前號ノ請求ハ道府縣醫師會ヲ經由スルコト但シ病院收容、看護附添、物理的治療及移送ニ對スル保險金ノ請求ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 六 事業主ヨリ業務上ノ事由ニ因ルモノトシテ診療ヲ託セラレタル場合ニ於テ業務上ノ事由ニ因ラザルモノト認メタルトキハ意見ヲ附シ直ニ所轄地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ニ通知スルコト

- 七 本保險ニ付セラレタル土木建築工事ニ使用セララル勞働者ニ付テノ診療簿ハ一般診療簿ト區別シテ別ニ之ヲ調製シ其ノ診療ニ關シ必要ナル事項ヲ明記シ政府ヨリ提示ヲ命ゼラレタルトキハ之ニ應ズルコト
- 八 勞働者ノ診療ニ關スル保險院及道府縣（東京府ニ在リテハ警視廳）ノ照會ニ應ズルコト
- 第四條 日本醫師會ハ常ニ指定醫ヲ監督シ其ノ義務ヲ怠リタル者及指定醫トシテ不適當ト認メタル者ニ對シテハ戒告ヲ與ヘ又ハ其ノ指定取消ノ申請ヲ爲スベキモノトス
- 第五條 政府ハ前條ノ申請アリタルトキ又ハ指定醫不適當ト認メタルトキハ指定ヲ取消スモノトス
前項後段ノ場合ニ於テハ日本醫師會ノ意見ヲ徵スルコトヲ要ス
- 第六條 日本醫師會ハ道府縣醫師會ヲシテ指定醫ヨリノ診療費ノ請求ヲ審査シ健康保險ニ於ケルト同様ノ標準ニ依リ意見ヲ附シテ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ニ進達セシムルモノトス
- 第七條 日本醫師會ハ保險院若ハ道府縣（東京府ニ在リテハ警視廳）ニ於テ特ニ爲ス調査若ハ照會ニ應ジ又ハ道府縣醫師會ヲシテ之ニ應ゼシムルモノトス
- 第八條 本協定ノ當事者ハ何時ニテモ二月ノ豫告ヲ以テ之ヲ解除スルコトヲ得

附 則

本協定ハ昭和十五年十月一日ヨリ其ノ效力ヲ發ス
 本協定ノ確實ヲ證スル爲本書ニ通ヲ作成シ双方署名調印ノ上各自一通ヲ所持スルモノナリ
 昭和十五年九月二十四日

保險院長官 樋 貝 詮 三
 日本醫師會長 北 島 多 一

一六、日本醫師會健康保險診療報酬點數計算規程

改正 昭和二年十月三十日 昭和十一年七月一日
昭和四年三月十七日 昭和十四年六月一日
昭和七年十一月二十六日 昭和十五年十二月十三日
昭和十年四月十日

- 第一條 日本醫師會健康保險規程第六條第三項ノ規定ニ依ル診療報酬點數ハ別表ノ如ク之ヲ定ム但シ道府縣醫師會ハ處置ヲ除キ地方ノ慣行ヲ考慮シ特ニ必要アル場合ハ日本醫師會ノ承認ヲ受ケ區域ヲ定メ理由ヲ附シ本規程ノ範圍内ニ於テ特別點數表ヲ定メ得ルモノトス
- 第二條 道府縣醫師會ハ保險醫ノ提出シタル診療報酬請求書ヲ審査シ傷病ノ輕重、手術處置ノ難易、醫師ノ經歷等ヲ考慮シテ公正ニ點數ヲ定ムルモノトス
- 醫師ノ經歷等ニ關スル考慮ニ付テハ別ニ之ヲ定ム
- 第三條 別表ニ記載ナキ處置又ハ手術其ノ他ニ付テハ道府縣醫師會ニ於テ其ノ點數ヲ査定スルモノトス此ノ場合ニ於テハ其ノ都度日本醫師會ニ報告スルモノトス
- 別表ニ記載アルモ特ニ理由ヲ附シテ別段ノ請求ヲ爲シタルモノニ付テハ前項ニ準ズルモノトス
- 第四條 保險醫ハ第一條ニ依ル診療報酬點數表中最低點ニ依リ請求スルヲ以テ例トシ之ニ據リ難キ場合ハ其ノ理由ヲ診療報酬請求書備考欄ニ記載ノ上本規程ノ範圍ニ於テ適當點數ヲ計上シテ請求スルモノトス但シ第二條第二項ニ依ル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 第五條 入院及入院中ノ處置手術ノ取扱ニ付テハ別ニ之ヲ定ム
- 第六條 本規程中道府縣醫師會トハ日本醫師會健康保險規程第四條ノ規定ニ該ルモノトス

別表 (括弧ヲ附シタル検査・手術等ハ當分健康保險ノ給付外ヲ原則トス)

診療料

- 初診 三—一五點
 - 一、診察特ニ繁雜ナリシ場合又ハ夜間診察ハ五點以上ヲ請求シ得ルコト
 - 二、傷病診療中他ノ傷病發生スルモ初診料ト請求セザルコト
 - 三、工場・事業場等ノ特殊ノ囑託關係ヲ有スル場合ハ其ノ初診料ノ請求ハ遠慮スルコト
 - 四、工場・事業場等ノ附近ニ於テ其ノ従業員ヲ目的トシテ出張診療ヲ爲ス場合ハ初診料ノ請求ヲ遠慮スルコト
 - 五、診断ノ結果療養給付ノ範圍外ナルコト明カトナリタル場合ノ初診料ハ請求シ得ルコト
- 再診 一—五點
 - 一、診療方針第二投藥ノ項第五號(投藥ハ診療ノ都度必ズシモ之ヲ必要トスルモノニ在ラズ例ヘバ患者ニ於テ榮養・運動其ノ他衛生上ノ注意ヲ爲スコトニ依リ治療ノ効果ヲ收メ得ルモ

往診

- 一、半里以内ノ往診ニシテ個々ノ場合ハ五點以上(回診ノ如キ場合ヲ除ク)ヲ請求シ得ルコト
 - 二、半里ヲ超ユル場合ハ半里又ハ其ノ端數ヲ増ス毎ニ三點ヲ加フ
 - 三、診療時間一時間ヲ超ユル場合ハ一時間毎ニ三點乃至五點ヲ加フ
 - 四、同一家屋ニ二人以上ノ患者アル場合ハ其ノ人數ニ應ジ一點宛加算シ初診ノ場合ハ別ニ初診料ヲ加算ス但シ各患者トモ其ノ傷病ガ往診ヲ必要トスル程度ノ場合ニ限ル
 - 五、夜間・難路・暴風雨雪時ノ往診ハ各々十割増トス
- 以上各項ニ謂フ夜間トハ午後九時ヨリ午前七時迄ト

ス但シ自己ノ表示スル診療時間内ナル場合ハ此ノ限
ニ在ラズ

藥治料 (容器代ハ第一回ハ〇・五點ヲ請求
シ第二回以後ハ患者ノ負擔トス)

内服藥 (一劑一日分)

〇・五— 一點
(當分ノ内地域ヲ考慮シ一點ヲ超エテ請求スルコトヲ得但シ
此ノ場合地方慣行料金ノ二割減ヲ限度トシ一・五點ヲ超ユ
ルコトヲ得ザルモノトス)

- 頓服藥 (一回分) 〇・五— 一點
- 含嗽藥 (一劑三百cc乃至五百cc) 一點
- 洗滌藥 (二日間使用ヲ標準トスルコト) 一點
- 卷法藥 (同) 一點
- 吸入藥 (同) 一點
- 塗布藥 (一劑十五
三日間使用ヲ標準トスルコト) 一點
- 撒布藥 (同) 一點
- 膏藥 (同) 一點
- 坐藥 (一筒ヲ一劑
一日一劑ヲ標準トスルコト) 一點
- 點眼藥 (一劑五瓦
五日間使用ヲ標準トスルコト) 一點
- 點鼻藥 (同) 一點
- 點耳藥 (同) 一點

文書料

一、健康保險事務ニ關スル文書ハ之ヲ無料トス

(傷病手當金請求書ノ勞務不能期間ニ關スル
證明、入院・手術・看護・移送・助産ノ承認申請
書ニ對スル意見ノ記入、法第四十八條ノ診療
ノ場合ノ費用見積、則第四十九條ノ申請並ニ
届出等)

一、普通疾病診斷書、死亡診斷書、屍體檢案書並
ニ生命保險・訴訟・徵兵事務ニ關スル特別ノ診
斷書及法第八十條ニ依ル疾病診斷書等ノ料金
ハ請求者ヨリ別ニ支拂ヲ受クルモノトス
處方箋 三—一〇點

檢査料 (診療方針ノ指示ニ
特ニ注意スルコト)

- 檢査法 採取料 檢査料
- マンツー氏反應檢査 二點
- 赤血球沈降速度測定 二點
- (結核ノ場合ノ測定ハ三十日以上ニ一回トス)
- ワツセルマン氏反應檢査 二點
- フライ氏反應檢査 二點
- ウイダール氏反應檢査 二點
- 糞便潛血反應檢査 三點

- 腦脊髓液檢査 八點
- 上頸竇穿刺液檢査 二點
- 肋膜穿刺液檢査 二點
- 腹腔穿刺液檢査 二點
- ドーグラス氏腔穿刺液檢査 三點
- 胃液檢査 五點
- 十二指腸液檢査 八點
- 血液化學的檢査 五點
- 尿化學的檢査 一〇點
- 乳汁化學的檢査 二—三點
- 血液顯微鏡的檢査 一點
- 尿顯微鏡的檢査 二—三點
- 喀痰顯微鏡的檢査 二—三點
- 糞便顯微鏡的檢査 二—三點
- 滲出物・分泌物・腫瘍内容等ノ檢査 三—五點
- 細菌學的培養檢査 一〇—二〇點
- 組織顯微鏡的檢査 五點
- 血型檢査 一點
- 血色素測定 三點
- 氣管・食道直達鏡檢査 二點

三〇—一五〇點

食道ブジ―檢査

- 直腸鏡檢査 三點
- 尿道鏡檢査 四—六點
- 膀胱鏡檢査 一〇點
- 輸尿管カタテリスムス 二〇點
- 腎臟機能檢査 二五—五〇點
- 卵管通氣檢査 一〇點
- 視力・視野・眼底檢査 二〇點
- (屈折調節檢定)(眼鏡處方ヲ含ム) 三—五點
- 聽力檢査 五—三〇點
- 妊娠反應動物試驗 二點
- レントゲン透視 二〇點
- レントゲン造影劑使用 五—一〇點
- レントゲン撮影 (フキウム又ハペーパー
使用ノ別ヲ記載スベシ) 一〇—二〇點
- フキウム使用 (カビネ以下) 六—八點
- カビネ 一〇—一五點
- カビネ 二—五點
- ペーパーノ使用ハ前記ノ二割減トス 大陸 四—五點
- エレクトロカルデオグラム 四五點

五〇點

注射料

(薬名濃度用量数並ニ皮下又ハ筋肉或ハ静脈内注射等ノ別ヲ必ズ記入スベシ)

皮下・筋肉・静脈内注射

二—一〇點

(細別ハ注射點數表ニ據ルゴト)

リンゲル液・生理的食鹽水注射 (三百cc以上)

一〇—一五點

葡萄糖液注射 (三百cc以上)

一五—二五點

アルゼノベンツオール劑注射

一〇點

一號

一〇點

二號

一五點

三號

二〇點

四、五、六號

二五點

ワイル氏病血清注射

二五點

〔二〇cc 四〇cc〕

四五點

チフテリヤ血清注射 (五〇〇〇單位)

三〇點

狂犬病豫防注射 (十八回完了)

七五點

連鎖狀球菌血清注射

二〇點

〔一號 二號〕

三〇點

破傷風血清注射

三五點

二號

二〇點

流行性腦脊髄膜炎血清注射

二〇點

(右二項腦脊髄腔注射ハ十點ヲ加フ)

一〇—二〇點

四八八

カテラン氏硬膜外注射 二〇點

關節腔穿刺注射 一〇—二〇點

●切開・外傷・火傷治療及各科處置料

●外科處置 三—五〇點

●處置料ハ傷病ノ經過ニ從ヒテ遞減スルコト

一、小切開及小外傷 三—五點

イ、一指趾或ハ之ニ準ズル範圍内ノ切開又ハ外傷 創及之ニ準ズルモノ 三點 (一回限リ)

ロ、二指趾又ハ前記程度ノ切開外傷ノ二ヶ所ニ及ベルモノ又ハ一ヶ所ニ準ズルモノ以上ノ切開又ハ外傷創及之ニ準ズルモノ 五點 (一回限リ)

二、中切開及中外傷 二點

イ、三指趾以上又ハ小切開及小外傷ノ數ヶ所ニ及

ベルモノ又ハ一ヶ所ニ準ズルモノ以上ノ切開又ハ外傷 創及之ニ準ズルモノ 六點 (二回乃至五回限リ)

治 療 處 置 二—三點

ロ、手足及之ニ準ズル範圍ノ外傷又ハ五種以上ノ切開及外傷創及之ニ準ズルモノ 一〇點 (二回乃至五回限リ)

治 療 處 置 五種以上 三—四點

〔手足 三—四點 手足指趾ニ亘ルモノ 三—四點〕

ハ、半肢・頭部・顔面・胸部・腹部及之ニ準ズル範圍ノ外傷或ハ(ロ)程度ノ外傷又ハ切開ノ二ヶ所ニ及ベルモノ又ハ一ヶ所ニ準ズルモノ以上ノ切開又ハ外傷創及之ニ準ズルモノ 一〇—一五點 (二回乃至五回限リ)

治 療 處 置 二ヶ所又ハ七種以上 五—六點

〔半肢・頭部・顔面 四—五點 胸部・腹部 六—七點〕

三、大切開及大外傷 一六—五〇點

イ、一〇種以上ノ切開及外傷創又ハ創傷ノ深部ニ及ベルモノ

四八九

一六點 (二回乃至一〇回限リ)

治 療 處 置 八點

ロ、一肢又ハ之ニ準ズル範圍ノ外傷創 一六—二〇點 (二回乃至一〇回限リ)

治 療 處 置 六—一〇點

ハ、二肢以上ニ亘ル範圍ノ外傷 三〇點 (二回乃至一〇回限リ)

治 療 處 置 八—一二點

ニ、全身ニ亘ル範圍ノ外傷又切開ノ大サ深サ數等ノ前記以上ノモノ 四〇—五〇點 (二回乃至一〇回限リ)

治 療 處 置 一〇—一五點

以上四項ノ處置ハ經過ニ應ジ漸次遞減シ其ノ程度輕キモノハ五點ヲ標準トス

●火傷治療 (電撃傷藥物傷ヲ含ム) 三—六〇點

イ、一肢ノ半ニ達セザルモノ 三—一〇點

ロ、一肢ノ大半又ハ全肢ニ亘ルモノ 一〇—二〇點

ハ、半身ニ亘ルモノ或ハ二肢ノ大 二〇—三〇點

- ニ、軀幹ノ大部或ハ軀幹ノ一部竝 三〇—六〇點
- ニ四肢ニ亘ルモノ
- 右四種ノ處置五回乃至十五回迄ハ狀況ニ應ジ火傷治療ニ依リ以後ハ外科處置ニ準ズ仍テ其ノ部位廣狹程度傷況等ヲ經過ト共ニ必ズ記載スベシ
- 内科處置 一—五點
- 皮膚科處置(部位程度ヲ明記スベシ)
- 外科處置ニ準ズ但シ全一肢又ハ半身以上ニ亘ルモノハ火傷治療ニ準ズ
- 泌尿器科處置
- イ、副睪丸炎處置 一—五點
- ロ、膀胱洗滌 一—三點
- ハ、攝護腺冷却又ハ加温 二—五點
- ニ、攝護腺「マツサージ」 一—二點
- ホ、下疳處置 一—二點
- ヘ、尿道洗滌 一—二點
- (急性期間十五日ヲ標準トシテ注射ヲ併用スルコトヲ得)
- ト、後部尿道點滴注入 三點
- チ、尿道側管治療(二回迄ヲ標準トス) 五點
- 産科婦人科處置 一—五點

- イ、腔洗滌 一—二點
- ロ、子宮腔洗滌(腐蝕處置ヲ含ム) 三—五點
- ハ、其ノ他ノ處置ハ外科處置ニ準ズ
- 眼科處置 一—五點
- イ、洗眼點眼 一—二點
- ロ、蒸氣療法 一點
- ハ、熱氣療法 一點
- ニ、結膜結石除去 二—三點
- ホ、結膜下注射(洗眼ヲ含ム) 三—五點
- ヘ、卷軸帶ヲ必要トスル處置 二—五點
- ト、其ノ他ハ外科處置ニ準ズ
- 耳鼻咽喉科處置 一—五點
- イ、耳處置 一—二點
- ロ、歐氏管通氣 二點
- ハ、鼓膜「マツサージ」 一—二點
- ニ、右二種以上同時ニ處置シタル場合 三點
- ホ、歐氏管プジールンク(以上二種ノ處置ヲ含ム) 四點
- ヘ、外耳切開後處置(五回迄ヲ標準トス) 二點
- ト、外聽道異物摘出 二—三點
- チ、上顎竇洗滌 二—三點

- リ、前頭竇洗滌 三—五點
- ス、鼻内異物摘出 二點
- ル、鼻處置 一點
- ヲ、口腔處置 一點
- ワ、咽頭處置 一點
- カ、右三種(ル乃至ワ)中二種以上爲シタルモノ 二點
- ヨ、扁桃腺切除術又ハ扁桃腺剔出術後處置(五回迄ヲ標準トス) 二點
- タ、咽頭部外傷處置 二點
- レ、咽頭結核處置 三點
- ソ、喉頭處置 三點
- ツ、喉頭結核處置 三—五點
- ネ、喉頭潰瘍電氣燒灼 三—五點
- ナ、其ノ他ノ處置ハ外科處置ニ準ズ 五—二〇點
- 胃洗滌 二點
- 洗腸 三—五點
- 注腸 三—五點
- 鼻腔榮養 三—一〇點
- 滋養洗腸 三—一〇點

- 導尿 二—四點
- 瀉血 三—五點
- 應急的人工呼吸 一—〇點
- 理學的療法 一—二點
- 電氣療法 一—二點
- チアテルミー 二點
- 赤外線 二點
- 紫外線 二—三點
- 超短波 二—三點
- レントゲン治療 五—一五點
- 表層治療 一五—四〇點
- 深部(十三萬五千ボルト以上、重治療)金屬ニヨリ通過シタルモノ) 一—二點
- (悪性腫瘍ノ場合ハ毎回「單位」ヲ明記スルコト) (且毎回二〇〇「單位」以上使用ヲ標準トスルコト)
- マツサージ 一—二點
- 熱氣浴 一—二點
- 藥浴 一—二點
- 精神病特殊療法 八〇點
- マリアア發熱療法 (三十日ヲ限度トス) (強心藥注射等附隨處置ヲ含ム)

電擊療法 一回

一〇點

(二十回ヲ限度トス)

(強心藥注射等附隨處置ヲ含ム)

持續睡眠療法 一日

三—四點

(十五日ヲ限度トス)

(強心藥注射等附隨處置ヲ含ム)

カルデアゾール痙攣療法 一回

七—二〇點

(二十回ヲ限度トス)

(強心藥注射等附隨處置ヲ含ム)

インシュリン劑衝擊療法

(準備期 六回) 一回

一〇點

(第一期 五回) 一回

一二點

(第二期 五回) 一回

一七點

(第三期 四回) 一回

二二點

注射總回数二十回ヲ限度トス

前記治療法ニ附隨スル葡萄糖液ノ注射竝ニ強

心藥注射等ヲ含ム

覺酷時特別ニ葡萄糖・アドリナリン等ノ注射

等及人工覺醒ヲ要シタル場合ハ規程第三條第

二項ニ據ルコト

腸寄生蟲驅除療法

十二指腸蟲驅除(下劑ヲ含ム)

一回 五—一〇點

繼蟲驅除(下劑ヲ含ム)

一回 一五點

手術科

頭部・顔面・口腔・頸部

(但シ眼・耳・鼻・咽喉ハ別項トス)

穿 顱 術

三〇〇—六〇〇點

腦腫瘍剔出術

五〇〇—八〇〇點

硬腦膜血管結紮術

四〇〇—七〇〇點

(兔唇手術)單純
口蓋破裂ヲ
兼ヌルモノ

上顎骨切除術

一五〇—三〇〇點

下顎骨切除術

四〇〇—七〇〇點

下顎骨骨折手術

三〇〇—五〇〇點

下顎骨脱臼整復術

四〇—二〇〇點

齒槽突起腫瘍手術

五—一〇點

舌癌根治手術

一〇—一〇〇點

蝦蟇腫切開術

三〇〇—六〇〇點

蝦蟇腫根治手術

一〇—一五〇點

拔 齒 術

三—五點

頸腺結核剔出術

二〇—二五〇點

耳下腺腫瘍剔出術

一〇〇—二〇〇點

頸靜脈結紮術

一五〇—二〇〇點

(斜頸手術)(固定ヲ含ム)

一〇〇—二〇〇點

上喉頭神經アルコール注射

一〇—二〇點

頸部惡性腫瘍剔出術

一〇〇—二〇〇點

甲状腺腫手術

二〇〇—五〇〇點

橫隔膜神經檢除術

一〇〇—一五〇點

氣管縫合術

三〇—六〇點

食道外切開手術

一五〇—三〇〇點

胸 部

鎖骨骨折固定術

一〇—二〇點

肋骨骨折固定術

一〇—二〇點

肋骨切除術

五〇—二〇〇點

肋膜穿刺術

一〇—三〇點

人工氣胸術(レントゲン検査共)

二〇—五〇點

肺膿瘍手術

二〇〇—三五〇點

肺腫瘍剔出術

五〇〇—八〇〇點

胸廓整形術

一五〇—六〇〇點

乳腺腫瘍剔出術

五〇—八〇點

乳腺惡性腫瘍根治術(轉移淋巴腺剔出ヲ含ム)

二〇〇—六〇〇點

脊椎破裂手術

二〇〇—三〇〇點

脊椎脱臼整復術

二〇—一〇〇點

椎脊・骨盤觀血の手術

一五〇—三〇〇點

腰部・股動脈周圍交感神經節切除術

一〇〇—二〇〇點

脊椎ギブス繃帶ギブス牀

一〇〇—二〇〇點

脊髓硬膜切開術

一〇〇—一五〇點

腹 部 (但シ泌尿器・性器ハ別項トス)

腹水穿刺術

二〇—四〇點

人工氣腹術

二〇—四〇點

診斷的開腹術

二五〇—四〇〇點

タルマ・ドラモン氏手術

二五〇—四〇〇點

胃切開術

三〇〇—四〇〇點

胃切除術

五〇〇—八〇〇點

胃造瘻術

三〇〇—四〇〇點

胃腸吻合術

三〇〇—七〇〇點

腸固定術

二五〇—四〇〇點

腸切除術

四〇〇—七〇〇點

腸切開術 三〇〇—四〇〇點
 腸吻合術 三〇〇—五〇〇點
 破裂腸管縫合術 三〇〇—六〇〇點
 腸閉塞症手術 三〇〇—五〇〇點
 腸痿閉鎖手術 二五〇—四〇〇點
 腸管癒著剝離術 二五〇—四〇〇點
 廻盲部腫瘍切除術 四〇〇—八〇〇點
 蟲樣突起切除術 二〇〇—四〇〇點
 蟲樣突起周圍膿瘍切開術 一五〇—三五〇點
 腸間膜損傷手術 二五〇—四〇〇點
 急性穿孔腹膜炎手術 二五〇—五〇〇點
 結核性腹膜炎手術 二五〇—四〇〇點
 高位直腸瘻手術 二〇〇—三〇〇點
 直腸瘻剔出術 四〇〇—八〇〇點
 人工肛造置術 二五〇—三五〇點
 肝臟外傷手術 三〇〇—五〇〇點
 肝臟膿瘍手術 三〇〇—五〇〇點
 肝臟囊腫手術 三〇〇—五〇〇點
 膽囊剔出術 五〇〇—八〇〇點
 膽囊造瘻術 三〇〇—四〇〇點

膽石手術 四〇〇—八〇〇點
 橫隔膜下膿瘍手術 二〇〇—四〇〇點
 急性脾臟炎手術 三〇〇—五〇〇點
 脾臟腫瘍剔出術 四〇〇—八〇〇點
 脾臟剔出術 三〇〇—五〇〇點
 ヘルニヤ根治手術 一〇〇—二五〇點
 痔核注射 二—五點
 痔核・痔瘻・脫肛根治手術 二〇—一〇〇點
 直腸・肛門周圍膿瘍手術 一〇—八〇點

四 肢

癩疽手術 皮下 三點
 腱ニ及ブモノ 六—一五點
 骨ニ及ブモノ 一五—二五點

風棘手術 一〇—一〇〇點
 (腋臭手術) 一〇—一〇〇點
 腋窩淋巴腺腫剔出術 一〇—一〇〇點
 四肢脫臼整復術 一〇—一〇〇點
 四肢ギプス綑帶 一〇—一〇〇點
 四肢骨折整復固定術 二〇—一〇〇點
 四肢切斷術(部位ヲ明記スベシ) 一五〇—三〇〇點

四肢關節切除術 一五〇—二五〇點
 四肢關節離斷術 一五〇—二五〇點
 關節離動術 一五〇—二五〇點
 (先天股關節脫臼手術) 一〇〇—一五〇點
 股關節離斷術 二〇〇—三〇〇點
 急性化膿性股關節炎切開術 四〇—八〇點
 急性化膿性膝及足關節炎切開 二〇—三〇點
 足關節離斷術 一〇〇—一五〇點
 手足骨剔出術 二〇—四〇點
 指趾關節離斷術 一〇—三〇點
 (指趾畸形手術) 二〇—五〇點
 鼠蹊腺腫剔出術 二〇—六〇點
 アヒレス腱縫合術 三〇—一〇〇點
 アヒレス腱切斷術 一五—三〇點
 ガングリオンヒグローム剔出術 一〇—三〇點

眼

眼瞼手術 一〇—二〇點
 睫毛電氣分解術 五—二〇點
 麥粒腫手術 二—一〇點
 霰粒腫手術 三—一六點

トラホーム手術(術式記入スベシ) 三—一六點
 眼異物除去術 結膜異物 一—三點
 角膜異物 三—一五點
 鞏膜異物 一—一〇點
 結膜囊成形術 一〇—一五〇點
 翼狀贅片手術 一〇—一五〇點
 淚管擴張術(洗眼ヲ含ム) 二—五點
 淚器手術 二〇—一〇〇點
 眼球手術 二〇—一〇〇點
 角膜潰瘍手術(燒灼切開) 二〇—一〇〇點
 前房穿刺術 一〇—二〇點
 虹彩手術 三〇—一〇〇點
 前房・虹彩異物摘出術 五〇—一五〇點
 綠内障手術(術式記入スベシ) 五〇—二〇〇點
 白内障手術 一五〇—四〇〇點
 後發性白内障手術 五〇—一八〇點
 硝子體內異物摘出術 一五〇—二〇〇點
 眼球內容除去術 七〇—一五〇點
 眼球剔出術 一〇〇—二〇〇點
 眼窩手術 三〇—一〇〇點
 眼窩惡性腫瘍根治手術 一五〇—三〇〇點

耳鼻咽喉

鼓膜切開術	五〇一五點
慢性中耳炎根治術	二五〇一五〇〇點
乳嚙突起鑿開術	二〇〇一三五〇點
耳科的頭蓋腔內手術	三〇〇一六〇〇點
耳後瘻孔縫合術	二〇〇一八〇點
衄血止血術	三〇一五點
鼻中隔粘膜炎下切術	三〇一〇〇點
下中甲介切術・鼻茸手術	一〇一三〇點
鼻咽喉良性腫瘍手術	一〇一五〇點
鼻咽喉惡性腫瘍手術	一〇〇一五〇〇點
鼻腔副鼻腔惡性腫瘍剔出術	四〇〇一七〇〇點
上顎竇蓄膿症鼻內手術	二〇一八〇點
上顎竇蓄膿症根治手術	一〇〇一二〇〇點
篩骨蜂巢開放手術	一五〇一二〇〇點
前頭竇根治手術	一五〇一二〇〇點
扁桃腺切除術	一五〇一五〇點
扁桃腺剔出術	三〇一〇〇點
扁桃腺周圍膿瘍手術	五〇一三〇點
咽頭異物摘出術	二〇一五點

咽後膿瘍切開術	五〇一八〇點
喉頭異物摘出術	一五〇一五〇點
喉頭內手術	一〇〇一五〇點
喉頭・氣管切開術	七〇一五〇點
喉頭全剔出術	三〇〇一五〇〇點
氣管內注入術	二〇一五〇點
泌尿器・性器	
嵌頓包莖手術	一五〇一五〇點
陰莖惡性腫(轉移淋巴腺)	一五〇一三〇〇點
瘻根治手術(剔出ヲ含ム)	五點
陰囊水腫穿刺	三〇一二〇〇點
陰囊水腫根治術	八〇一五〇點
睪丸剔出術	一〇〇一二五〇點
副睪丸切除術	一〇〇一二〇〇點
(輸精管切除術)	一〇〇一二〇〇點
尿道ブージー挿入術	一〇一五點
誘導ブージー挿入術	五〇一〇〇點
尿道手術(内切開)	二〇一三〇〇點
尿道手術(外切開)	五〇一〇〇點
尿瘻手術	五〇一〇〇點
尿道膀胱直腸腔瘻手術	二五〇一三五〇點

攝護腺膿瘍切開術	二〇一五〇點
攝護腺剔出術	四〇〇一六〇〇點
膀胱穿刺術	二〇點
膀胱碎石術	一〇〇一二〇〇點
膀胱結石會陰剔出術	一五〇一三〇〇點
膀胱結石腹式手術	二五〇一三五〇點
膀胱內手術	一〇〇一二〇〇點
膀胱破裂手術	二〇〇一三〇〇點
膀胱壁切除術	二五〇一三〇〇點
膀胱全剔出術	五〇〇一六〇〇點
腎臟周圍膿瘍手術	二五〇一三五〇點
腎臟被膜剝離術	二〇〇一三〇〇點
腎臟切開術	二〇〇一三五〇點
腎臟結石剔出術	三〇〇一五〇〇點
腎臟剔出術	四〇〇一六〇〇點
外陰部切除術	一〇〇一二〇〇點
會陰裂創縫合術	一〇〇一〇〇點
腔・會陰又ハ子宮頸管整形術	五〇一二〇〇點
子宮腔部燒灼術	一〇一五〇點
子宮腔上部切斷術	三〇〇一五〇〇點

子宮息肉樣筋腫腔式剔出術	三〇一〇〇點
ドーグラス腔膿瘍腔內排膿手術	五〇一八〇點
子宮出血止血處置(分娩外)	一〇一二〇點
子宮內膜搔爬術	二〇一八〇點
完全子宮脫手術	二〇〇一三五〇點
(子宮屈傾手術)	一五〇一二〇〇點
子宮惡性腫瘍腹式全剔出術	四〇〇一八〇〇點
(輸卵管結紮術)	二五〇一三〇〇點
子宮又ハ附屬器腫瘍剔出術	二五〇一五〇〇點
腹式骨盤內排膿手術	二〇〇一三〇〇點
附屬器癒着剝離手術	二五〇一五〇〇點
外廻轉術	五〇一〇〇點
內及雙合廻轉術	三〇一〇〇點
骨盤位挽出術	六〇一〇〇點
鉗子分娩術	四〇一〇〇點
穿顱挽出術	七〇一五〇點
斷頭挽出術	七〇一二〇〇點
截胎挽出術	七〇一五〇點
帝王切開術	三〇〇一六〇〇點
分娩時子宮出血止血法	一〇一〇〇點

入院料

入院料ハ地方又ハ病院ノ種別等ニ依リ日本醫師會ノ定メタル額

(備考) 入院中ニ於ケル注射料・検査料・理學的療法及外傷・火傷ノ治療料一日計六點ヲ超ユル場合ハ其ノ超過額ヲ入院料以外ニ請求スベシ

胎盤用手剝離術	三〇—一〇〇點
分娩時陰門側切開兼縫合術	五—三〇點
分娩直後頸管裂傷創縫合術	五〇—一〇〇點
子宮外妊娠手術	三〇〇—六〇〇點
胞狀鬼胎除去術	五〇—一五〇點
(人工妊娠中絶術)	五〇—一五〇點
メトロイリゼ	五〇—一五〇點

雜部

骨折(複雜ヲ含ム) 觀血手術	二〇〇—三〇〇點
大腿	一〇〇—二〇〇點
上膊・前膊・下腿	二〇—八〇點
其ノ他	五〇—一五〇點
骨髓炎手術(膿瘍ノ單ナル切開ハ切開外傷治療ニ準ズ)	一〇—二〇點
流注膿瘍穿刺排膿術(藥液注入ヲ含ム)	一〇—五〇點
良性皮膚腫瘍剔出術	二〇〇—三〇〇點
動脈瘤手術	三〇—一五〇點
神經縫合術	一〇—三〇點
腱縫合術	三〇—一〇〇點
植皮術(表皮・皮膚瓣)	三〇—一〇〇點
輸血術(血液料ヲ含マズ)	六〇點

一七、政府ト日本齒科醫師會トノ間ニ於ケル診療協定書

協定書

勞働者災害扶助責任保險法ニ基キ政府ノ保險スル事業ニ於ケル療養ノ扶助ニ關シ政府ト日本齒科醫師會トノ間ニ協定スルコト左ノ如シ

第一條 日本齒科醫師會ハ健康保險ノ保險齒科醫ヲシテ本協定ニ定ムル所ニ依リ政府ノ保險スル土木建築工事ニ於ケル業務上ノ傷病者ニ對スル齒科診療ヲ擔當セシメ其ノ診療ニ支障ナカラシムルニ努ムルモノトス
第二條 政府ハ日本齒科醫師會ニ屬スル健康保險ノ保險齒科醫ヲ本協定ノ指定齒科醫トスルモノトス
第三條 日本齒科醫師會ハ同會ニ屬スル本保險ノ指定齒科醫ヲシテ本協定ニ依ル診療ニ關シ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ遵守セシムルモノトス

- 一 常ニ公正ニシテ懇切ナル態度ヲ以テ診療ニ當ルコト
- 二 診療ハ健康保險ニ付政府ニ於テ定メタル方針ニ從ヒ之ヲ行フコト
- 三 診療費ハ日本齒科醫師會健康保險診療報酬點數計算規程(第三條、第四條及第六條ヲ除ク)ニ依リ算定ス此ノ場合ニ於テ點數ノ單價ハ十錢トス同規程ニ定ナキ診療ニ付テハ道府縣齒科醫師會ノ査定スル金額トス
- 四 診療ニ關スル保險金ノ請求ニ付事業主ノ委託ヲ受ケタル者ハ道府縣齒科醫師會ヲ經由シテ之ヲ請求スルコト
- 五 事業主ヨリ業務上ノ事由ニ因ルモノトシテ診療ヲ託サレタル場合ニ於テ業務上ノ事由ニ因ラザルモノト認メタルトキハ意見ヲ附シテ直ニ所轄地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ニ通知スルコト

六 勞働者ノ診療ニ關スル保險院及道府縣(東京府ニ在リテハ警視廳)ノ照會ニ應ズルコト
 第四條 日本齒科醫師會ハ道府縣齒科醫師會ヲシテ指定齒科醫ヨリノ診療費ノ請求ヲ審査シ健康保險ニ於ケルト同様ノ標準ニ依リ意見ヲ附シテ地方長官(東京府ニ在リテハ警視廳)ニ進達セシムルモノトス
 第五條 日本齒科醫師會ハ常ニ指定齒科醫ヲ監督シ其ノ義務ヲ怠リタル者及指定齒科醫トシテ不適當ト認めタル者ニ對シテハ戒告ヲ與ヘ又ハ其ノ指定取消ノ申請ヲ爲スベキモノトス
 第六條 政府ハ前條ノ申請アリタルトキ又ハ指定齒科醫不適當ト認めタルトキハ指定ヲ取消スモノトス
 前項後段ノ場合ニ於テハ日本齒科醫師會ノ意見ヲ徵スルモノトス
 第七條 日本齒科醫師會ハ保險院若ハ道府縣(東京府ニ在リテハ警視廳)ニ於テ特ニ爲ス調査若ハ照會ニ應ジ又ハ道府縣齒科醫師會ヲシテ之ニ應ゼシムルモノトス
 第八條 本協定ノ當事者ハ何時ニテモ二月ノ豫告ヲ以テ之ヲ解除スルコトヲ得

附 則

本協定ハ昭和十五年十月一日ヨリ其ノ效力ヲ發ス
 本協定ノ確實ヲ證スル爲本書二通ヲ作成シ双方署名調印ノ上各自一通ヲ所持スルモノナリ
 昭和十五年九月二十四日

保險院長官 樋 貝 詮 三
 日本齒科醫師會長 血 脇 守 之 助

一八、日本齒科醫師會健康保險診療報酬點數計算規程

(大正十五年十二月十二日定)
 昭和二年七月四日廢止決議
 昭和十一年十二月一日改正
 昭和十三年四月一日改正
 昭和十四年十一月一日改正
 昭和十四年四月一日改正

第一條 診療報酬點數ハ別表ノ如ク之ヲ定ム
 第二條 道府縣齒科醫師會ハ保險齒科醫ノ提出シタル報酬請求書ヲ審査シ公正ニ點數ヲ定ムルモノトス
 第三條 補綴ヲ爲サントスルトキ又ハ補綴ヲ除キ別表中被保險者一人ニ付百點以上ノ齒科診療ハ所屬道府縣齒科醫師會ノ承認ヲ受クルモノトス
 第四條 別表ニ記載セザル齒科診療ヲ爲サントスルトキハ所屬道府縣齒科醫師會ノ承認ヲ受クルモノトス
 第五條 補綴ニ付テハ補綴ヲ完了シタル日ヨリ一箇年以内ニ再ビ之ヲ調製シ又ハ修理ヲ加ヘタル場合ハ別ニ其ノ報酬ヲ請求セザルモノトス
 第六條 本規程ハ總會ノ議決ヲ經ルニ非ザレバ之ヲ變更スルコトヲ得ズ此ノ場合ノ議決ニ付テハ會則第四十條ヲ適用ス

別表

種別	初診	點	數	摘	要
治療	一齒一回ニ付	二・二點	二・二點	一人ニ付六ヶ月有效(當分ノ間之ヲ請求セザルモノトス)	一、齦齒外傷其ノ他硬組織病 貼藥、假封、覆罩、拔髓、根管ノ治療及充填其ノ他治療ヲ爲 ス患齒ニ基因スル齒齦病竝ニ齒根膜炎及口腔内ノ瘻孔ノ處置 (膿漏ノ治療ヲ除ク) 二、普齒周圍炎 貼藥、塗布及齒槽骨炎ノ處置
齒齦炎	一回ニ付	二・二點	二・二點	齒齦膿瘍、骨膜下膿瘍、口蓋膿瘍ノ切開手術、智齒周圍炎ノ齒齦 瘻切除	
口腔内消炎手術 右後處置料	一ヶ所ニ付 一回ニ付	四・五點 二・二點	四・五點 二・二點	口腔内消炎手術後處置程度ノモノ 前記以外ノタンポン交換	
外科後處置料	洗滌塗布 タンポン交換	一・八點 二・二點 三・五點	一・八點 二・二點 三・五點	骨髄炎、骨膜炎、蜂窠織炎ノ後處置ノ場合 拔牙ニ附隨スル麻酔及前後ノ處置ヲ含ム	
拔齒	其ノ他 一齒ニ付	五・五點 八點	五・五點 八點	裏裝及隔壁ヲ含ム	
充墳	一齒ニ付 ゴ セ ア マ ル ガ ム	九點 九點 十五點	九點 九點 十五點		
脫離金冠装着	一齒ニ付	九點	九點		
裝脫離代用金屬冠	一齒ニ付	九點	九點		

脫離繼續齒装着	一齒ニ付	九點	一齒ヲ増ス毎ニ七點
ゴム床義齒	一床一齒ニ付	十四點	
金鈎	一個ニ付	二十五點	
代用金屬鈎	一個ニ付	十點	ウキプラ、ブラノール、スープラヲ使用スルモノトス
陶齒冠繼續齒	一齒ニ付	三十六點	
白齒金冠	一齒ニ付	百二十點	充填ニ依リ齒冠回復ノ見込無キモノニ限ル
白齒代用金屬冠	一齒ニ付	九十點 小大白齒 七十五點	保險院社會保險局ニ於テ承認ヲ經タル銀パラヂウム合金ヲ使用ス ルモノトス
内服藥	一日分	一・五點	特ニ高價藥ヲ使用シタル場合ニハ政府ト日本齒科醫師會ト協定ス ルモノトス
頓服藥	一回分	一點	
含嗽藥	四〇〇瓦ニ付	一・五點	容器ヲ必要トスル場合ハ一回ニ限リ容器代ヲ含ム
電藥	四〇〇瓦ニ付	一・五點	
處方箋	簡易ナルモノ	三點	
繙帶材料	三角布ヲ使用スルモノ	二・二點	
	卷軸帶ヲ使用スルモノ	三・五點	
	繙軸帶ヲ使用スルモノ	四・五點	

(一點八十錢ヲ標準トス)

426
14

昭和十七年 十月十五日印刷
昭和十七年 十月十七日發行

非賣品

水戸市北三ノ丸一一九番地

(縣 廳 内)

茨城縣土木建築協會

發行者 理事 青木 德孝

印刷者 水戸市泉町一、一〇四番地 小 林 廣 吉

印刷所 水戸市泉町一、一〇四番地 加 納 印 刷 所

發行所 茨城縣水戸市北三ノ丸一一九番地 茨城縣廳内土木建築協會

終

